

# 平成30年度 業務実績報告書（暫定版）

（第2期中期計画・第5事業年度）

平成30年12月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

（注）本報告書は、平成30年9月まで（一部直近データ）の実績により調製した暫定版であり、今後、変更が見込まれる。

## 目 次

### I 機構の概要 (平成30年4月1日現在)

1	名 称	1
2	所 在 地	1
3	法人の設立年月日	1
4	設 立 団 体	1
5	目 的	1
6	業 務	1
7	資本金の額	1
8	代表者の役職氏名	1
9	役 員	2
10	組 織 図	2
11	法人が運営する病院の概要	3

### II 当該事業年度における業務実績報告

1	対 象 期 間	5
2	業務実績全般	5
	(1) 機構全体	5
	(2) 総合病院	15
	(3) こころの医療センター	16
	(4) こども病院	17
3	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	18
	(1) 医療の提供	18
	(2) 医療に関する技術者(医師・看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	24
	(3) 医療に関する調査及び研究	24
	(4) 医療に関する地域への支援	28
	(5) 災害等における医療救護	29
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	29
	(1) 簡素で効率的な組織づくり	29
	(2) 効率的な業務運営の実現	29
	(3) 事務部門の専門性の向上	30
	(4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	31
5	項目別実績	32
	(参考) 用語解説	79

#### 【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

*Shizuoka Prefectural Hospital Organization*

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院



## I 機構の概要 (平成30年4月1日現在)

### 1 名称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

### 2 所在地

静岡市葵区北安東四丁目27番1号

### 3 法人の設立年月日

平成21年4月1日

### 4 設立団体

静岡県

### 5 目的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

### 6 業務

#### (1) 病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

#### (2) 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

### 7 資本金の額

6,822,733,469円

### 8 代表者の役職氏名

理事長 田 中 一 成

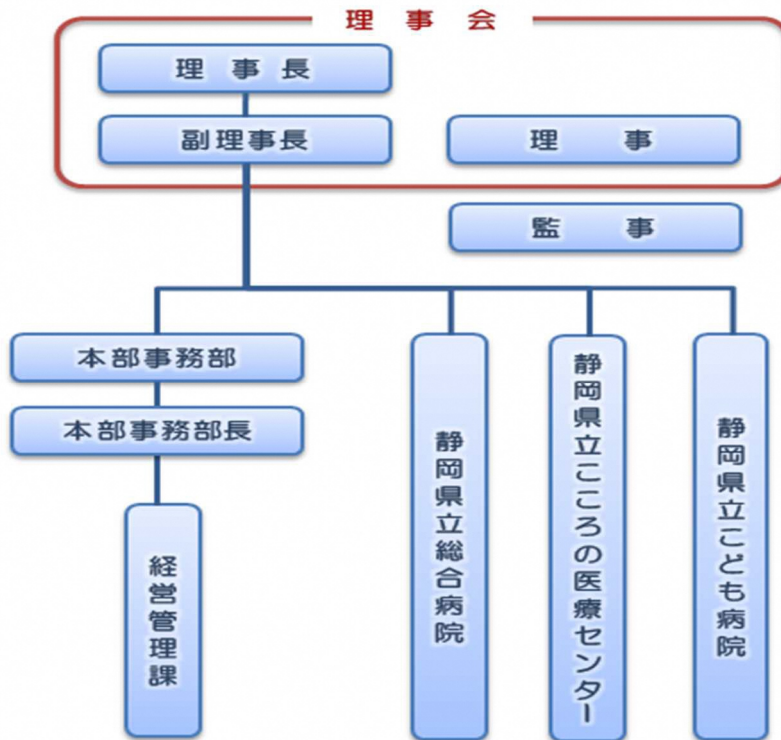
## 9 役 員

(平成30年4月1日現在)

役 員 名	区 分	氏 名
理 事 長	常 勤	田 中 一 成
副 理 事 長	常 勤	山 口 重 則
理 事	常 勤	村 上 直 人
理 事	常 勤	坂 本 喜 三 郎
理 事	非 常 勤	柏 崎 順 子
理 事	非 常 勤	椎 名 正 樹
理 事	非 常 勤	中 村 彰 宏
理 事	非 常 勤	星 野 希 代 絵
監 事	非 常 勤	鈴 木 素 子
監 事	非 常 勤	谷 川 樹 史

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

## 10 組 織 図



### ○ 全職員数 (平成30年4月1日現在、現員)

医 師 ※	4 2 2名
看 護 師	1, 3 7 0名
医 療 技 術	3 1 9名
事 務 ほ か	1 2 6名
計	2, 2 3 7名

※職員数には、アソシエイトを含む。また、医師には歯科医師4名、自治医大初期研修医5名、へき地指定公立病院派遣医2名、有期職員医師149名を含む。

※職員の増減状況は、14ページ参照

## 11 法人が運営する病院の概要

### (1) 病院の名称・所在地等

(平成30年4月1日現在)

区分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総合病院	こころの医療センター	こども病院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山860番地
開設年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、脳神経外科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科、病理診断科、リハビリテーション科
	31科	4科	29科
許可病床数 (30年度)	一般 662床 結核 50床	精神 280床 (稼働172床)	一般 243床 (稼働235床) 精神 36床
年間延患者数 (30年度計画)	入院 236,388人 外来 434,048人	入院 55,190人 外来 40,416人	入院 81,040人 外来 107,645人
理念	信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも	私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。
備考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

## (2) 施設状況

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

区分	病棟		許可 病床数	内 容
総 合	本館	3 B	36	小児科、頭頸部・耳鼻いんこう科、救命救急科、形成外科、病院管理ベッド
		3 D	40	産婦人科、小児科（新生児）、消化器外科、病院管理ベッド
		4 A	44	総合診療科、皮膚科、整形外科
		4 B	46	腎臓内科、泌尿器科
		4 D	41	血液内科、眼科、歯科口腔外科
		5 A	46	消化器外科、泌尿器科、病院管理ベッド
		5 B	46	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科
		6 A	41	整形外科、消化器内科、病院管理ベッド
		6 B	50	結核
		6 C	48	呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科
	6 D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、放射線科	
	北館	3 E	42	整形外科、神経内科、救急科
		4 E	34	消化器外科、乳腺外科、形成外科、循環器内科、病院管理ベッド
		5 E	19	緩和医療科
	循環器病 センター	1 G	12	救命救急科
		3 G	12	集中治療室（ICU）、冠疾患集中治療室（CCU）
4 G		47	循環器内科、心臓血管外科	
5 G		49	神経内科、脳神経外科、病院管理ベッド	
先端医学棟	4 M	20	高度治療室（HCU）	
計			712	（稼働 712 床）
こ こ ろ	北 1		42	医療観察法 12 床、慢性重症 30 床
	北 2		45	救急
	北 3		54	（休棟）
	南 1		42	回復期
	南 2		43	救急
	南 3		54	（休棟）
	計			280
こ ど も	北 2		36	新生児集中治療室（NICU）、回復治療室（GCU）
	北 3		30	内科系乳幼児
	北 4		28	感染観察
	北 5		28	内科系幼児学童
	西 2		24	産科、母体胎児集中治療室（MFICU）
	西 3		25	循環器科
	CCU		12	循環器集中治療室（CCU）
	PICU		12	小児集中治療室（PICU）
	西 6		48	外科系
	東 2		36	こころの診療科
計			279	（稼働 271 床）



## II 当該事業年度における業務実績報告

### 1 対象期間

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの1年間  
(中期計画の期間 平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間)

### 2 業務実績全般

#### (1) 機構全体

##### ア 総括

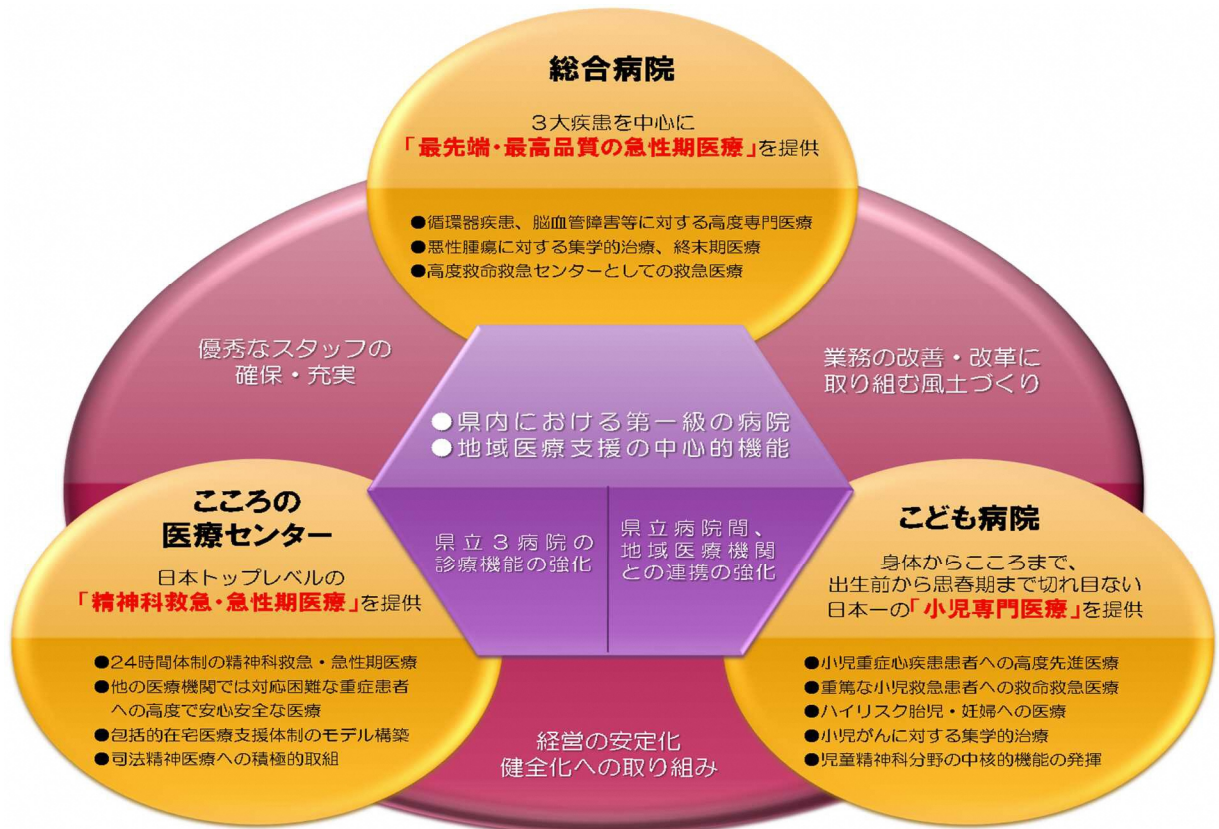
静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んでいる。

法人化10年目となる30年度の経営状況(3病院計)は、入院では、延患者数はこころの医療センターが年度計画(以下「計画」)を上回る見込みであり、単価はこども病院が計画を上回る見込みである。また、外来では、延患者数はこころの医療センターとこども病院が計画を上回る見込みであり、単価は総合病院とこころの医療センターが計画を上回る見込みである。

収支は、経常利益が716百万円(経常収支比率101.6%)、当期純利益が452百万円で、法人化後10年連続で経常収支比率100%を達成する見込みである。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



## イ 業務実績

### (ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る延患者数(▲1,288人)となる見込みで、患者1人1日当たり入院単価(以下、入院単価:入院収益÷年延入院患者数)も計画を下回る見込みである(▲4,091円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を上回る延患者数(+1,716人)の見込みであるが、入院単価は計画を下回る見込みである。(▲186円)。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を下回る見込み(▲6,738人)だが、入院単価は計画を上回る見込みである(+1,915円)。

### (イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、計画を下回る延患者数(▲3,048人)となる見込みで、患者1人1日当たり外来単価(以下、外来単価:外来収益÷年延外来患者数)は計画を上回る見込みである(+523円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を上回る延患者数(+589人)で、外来単価も計画を上回る見込みである(+192円)。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を上回る見込み(+3,308人)だが、外来単価は計画を下回る見込みである(▲123円)。

### ○ 平成30年度 業務量及び単価等年間見込み(税込)

区 分		総 合	こころ	こども
入 院	入院延患者数(人)	235,100 (236,388)	56,906 (55,190)	74,302 (81,040)
	病床稼働率(%)	一般95.2 (一般95.2)	90.6 (87.9)	75.1 (81.9)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	78,219 (82,310)	25,163 (25,349)	97,611 (95,696)
外 来	外来延患者数(人)	431,000 (434,048)	41,005 (40,416)	110,953 (107,645)
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	20,822 (20,299)	6,296 (6,104)	13,359 (13,482)

※ ( ) 書きは、計画数値を示す。

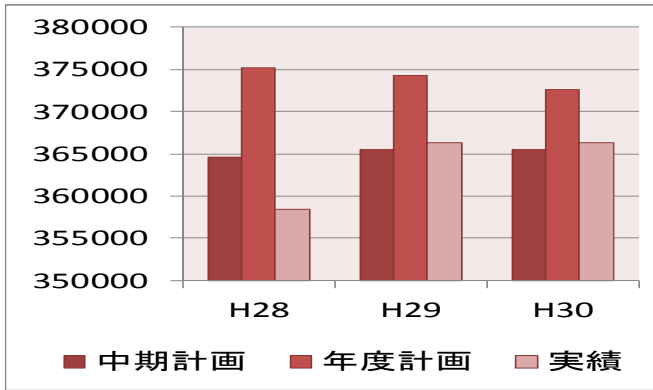
※患者1人1日当たり単価は税込金額(調定額ベースで算定)。

※病床稼働率は、総合662床、こころ172床、こども271床で算定。

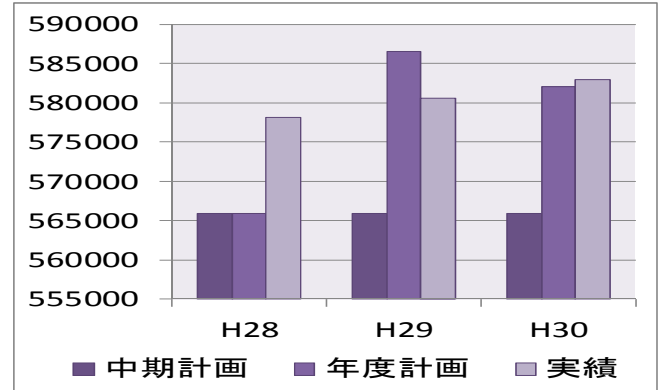
<参考資料>

○患者数の推移 (28年度実績～30年度見込み)

入院延患者数 (3病院計)



外来延患者数 (3病院計) (単位:人)



・30年度は入院延患者数及び外来患者数が中期計画を上回ったが、年度計画を下回った。

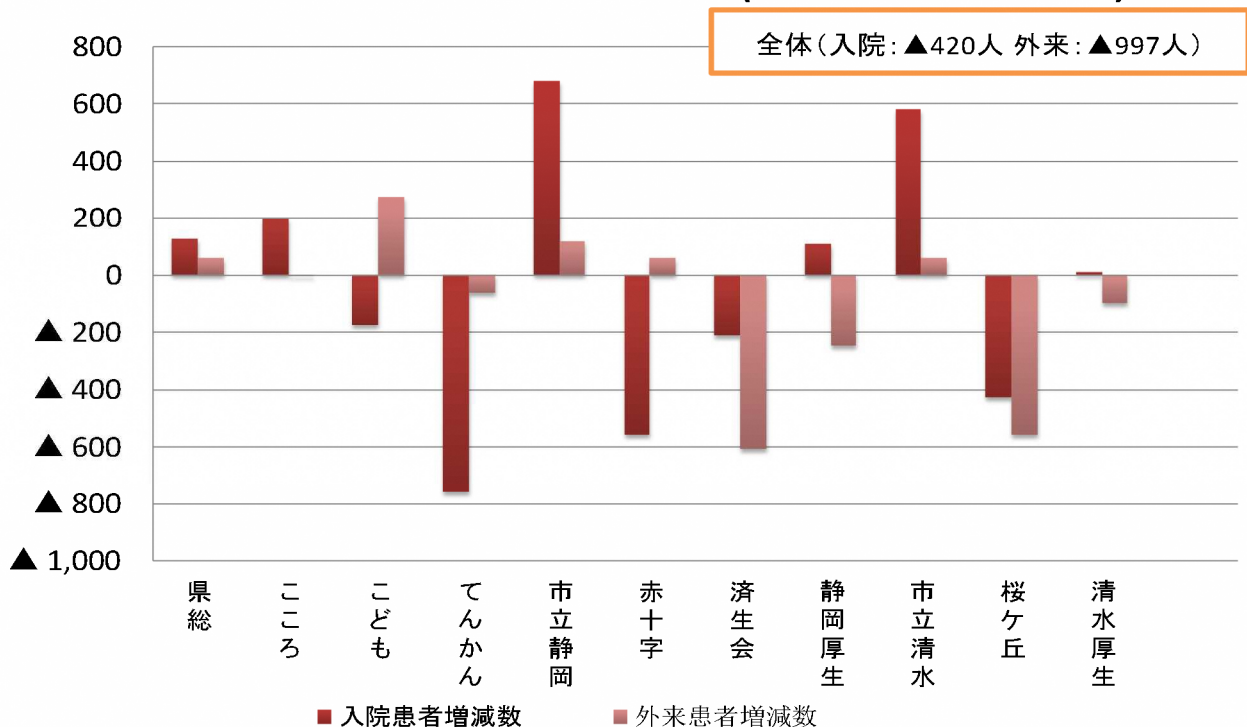
○市内公的病院患者動向 (月平均延患者数: H30.4～H30.9—H29.4～H29.9比較)

(単位:人)

区分		県総	こころ	こども	てんかん	市立静岡	赤十字	済生会	静岡厚生	市立清水	桜ヶ丘	清水厚生	⑤～⑪	①～④
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	小計	合計
入院	H30	19,146	4,821	6,226	9,340	13,964	12,236	13,620	5,836	11,089	2,311	3,687	62,746	102,276
	H29	19,019	4,609	6,402	10,100	13,282	12,792	13,831	5,727	10,506	2,738	3,679	62,555	102,685
	差	127	201	▲176	▲760	682	▲556	▲211	109	583	▲427	8	188	▲420
外来	H30	35,838	3,494	9,068	2,940	23,297	16,087	19,751	7,292	14,838	5,827	6,793	93,885	145,225
	H29	35,780	3,495	8,792	3,000	23,177	16,027	20,357	7,538	14,780	6,385	6,890	95,154	146,221
	差	58	▲2	276	▲60	120	60	▲606	▲246	58	▲558	▲97	▲1,269	▲997

・入院延患者は総合病院が増加しており、外来延患者はこころの医療センターとこども病院で増加した。

市内公的病院月平均患者増減数(H30.4～9—H29.4～9) 単位:人



## (ウ) 平成30年度収支年間見込み(税込)

## ① 収益的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	年間 見込額	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)	
収益	営業 収益	医業収益	39,769,847	38,396,818	▲1,373,029	37,017,369	1,379,449	
		運営費負担金収益	6,825,089	6,825,431	342	6,817,496	7,935	
		その他営業収益	369,689	505,078	135,389	390,434	114,644	
		小計	46,964,625	45,727,327	▲1,237,298	44,225,299	1,502,028	
	営業外 収益	運営費負担金収益	174,911	174,569	▲342	182,504	▲7,935	
		その他営業外収益	283,860	292,814	8,954	287,421	5,393	
		小計	458,771	467,383	8,612	469,925	▲2,542	
	臨時利益	臨時利益	0	0	0	276,252	▲276,252	
	計			47,423,396	46,194,710	▲1,228,686	44,971,476	1,223,234
	費用	営業 費用	医業費用	45,847,605	44,466,733	▲1,380,872	42,861,993	1,604,740
一般管理費			391,909	367,056	▲24,853	341,609	25,447	
小計			46,239,514	44,833,789	▲1,405,725	43,203,602	1,630,187	
営業外 費用		財務費用	313,060	310,401	▲2,659	317,824	▲7,423	
		その他営業外費用	357,507	334,877	▲22,630	330,319	4,558	
		小計	670,567	645,278	▲25,289	648,143	▲2,865	
臨時損失		臨時損失	411,332	263,375	▲147,957	185,716	77,659	
計			47,321,413	45,742,442	▲1,578,971	44,037,461	1,704,981	
経常利益			513,316	715,643	202,327	843,479	▲127,836	
当期純利益			101,984	452,268	350,284	934,015	▲481,747	

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 経常利益は715,643千円で、計画を202,327千円上回り、経常収支比率100%以上(101.6%)を達成する見込みである。
- ・ 当期純利益は452,268千円で、計画を350,284千円上回る見込みである。
- ・ 医業収益は、外来は延患者数、単価ともに計画を上回る見込みであるが、入院は延患者数、単価ともに計画を下回る見込みのため、計画を1,373,029千円下回る見込みである。
- ・ 医業費用は、材料費(計画比▲196,009千円)及び経費(計画比▲777,793千円)が計画を下回る見込みのため、計画よりも1,380,872千円抑えられる見込みである。

## ② 資本的収支年間見込み(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	年間 見込額	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本 収入	長期借入金	5,826,000	4,521,000	▲1,305,000	9,395,000	▲4,874,000
		長期貸付金回収額	0	0	0	30,700	▲30,700
		補助金・寄附金等	1,054	0	▲1,054	100,604	▲100,604
		計	5,827,054	4,521,000	▲1,306,054	9,526,304	▲5,005,304
支出	資本 支出	建設改良費	7,993,367	4,629,293	▲3,364,074	9,533,936	▲4,904,643
		償還金	3,128,902	3,131,191	2,289	3,094,337	36,854
		長期貸付金	256,150	256,150	0	173,900	82,250
		計	11,378,419	8,016,634	▲3,361,785	12,802,173	▲4,785,539
総収支			▲5,551,365	▲3,495,634	2,055,731	▲3,275,869	▲219,765

## (エ) 病院別収支実績

## ① 収益的収支年間見込み (税込)

(単位：千円)

款	項	総 合	こ ころ	こ ども	法 人 計
営業 収益	医 業 収 益	27,886,693	1,701,116	8,809,009	38,396,818
	運 営 費 負 担 金 収 益	2,396,761	1,111,719	3,316,951	6,825,431
	そ の 他 営 業 収 益	342,915	58,746	103,417	505,078
	小 計	30,626,369	2,871,581	12,229,377	45,727,327
営 業 外 益	運 営 費 負 担 金 収 益	90,768	20,685	63,116	174,569
	そ の 他 営 業 外 収 益	243,430	7,907	41,477	292,814
	小 計	334,198	28,592	104,593	467,383
臨 時 利 益	臨 時 利 益	0	0	0	0
収 益 計		30,960,567	2,900,173	12,333,970	46,194,710
( 予 算 額 ※ < 計 画 > )		(31,761,977)	(2,849,778)	(12,811,641)	(47,423,396)
( 増 減 額 )		(▲801,410)	(50,395)	(▲477,671)	(▲1,228,686)
営 費 業 用	医 業 費 用	30,236,994	2,535,277	11,694,462	44,466,733
	一 般 管 理 費	248,654	21,940	96,462	367,056
	小 計	30,485,648	2,557,217	11,790,924	44,833,789
営 費 外 用	財 務 費 用	164,841	32,005	113,555	310,401
	そ の 他 営 業 外 費 用	247,567	12,694	74,616	334,877
	小 計	412,408	44,699	188,171	645,278
臨 時 損 失	臨 時 損 失	217,224	14,224	31,927	263,375
費 用 計		31,115,280	2,616,140	12,011,022	45,742,442
( 予 算 額 ※ < 計 画 > )		(32,036,471)	(2,682,740)	(12,602,202)	(47,321,413)
( 増 減 額 )		(▲921,191)	(▲66,600)	(▲591,180)	(▲1,578,971)
経 常 利 益		62,512	298,257	354,875	715,643
( 予 算 額 ※ < 計 画 > )		(8,350)	(192,777)	(312,189)	(513,316)
( 増 減 額 )		(54,162)	(105,480)	(42,686)	(202,327)
当 期 純 損 益		▲154,712	284,033	322,948	452,268
( 予 算 額 ※ < 計 画 > )		(▲274,493)	(167,038)	(209,439)	(101,984)
( 増 減 額 )		(119,781)	(116,995)	(113,509)	(350,284)

- 総合病院の経常利益は62,512千円で、計画を54,162千円上回る見込みである。先端医学棟の稼働に伴い手術件数が増加したことに加え、一般病棟、重症系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率が向上したことにより医業収益が増加したことが主な要因である。
- こころの医療センターの経常利益は298,257千円で、計画を105,480千円上回る見込みである。これは、入院患者数及び外来延患者数の増加により医業収益が計画を43,579千円上回る見込みであることに加え、経費の減等により費用が計画を66,600千円下回る見込みであることが主な要因である。
- こども病院の経常利益は354,875千円で、計画を42,686千円上回る見込みである。これは、経費の節減努力等により費用が計画を591,180千円下回る見込みであることが主な要因である。

## ② 資本的収支年間見込み (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	法人計
資本 収入	長期借入金	3,667,000	186,000	668,000	4,521,000
	長期貸付金回収額	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0
	計	3,667,000	186,000	668,000	4,521,000
資本 支出	建設改良費	3,767,602	188,858	672,833	4,629,293
	償還金	1,776,208	458,842	896,141	3,131,191
	長期貸付金	207,960	12,410	35,780	256,150
	計	5,751,770	660,110	1,604,754	8,016,634
総	収支	▲2,084,770	▲474,110	▲936,754	▲3,495,634

- 30年度の建設改良費は4,629,293千円で、その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が1,749,580千円(A)、建設改良工事が2,879,713千円(B)となる見込みである。(A)の主なものとしては、総合病院で放射線治療装置(X線位置決め装置)を整備する見込みで、(B)の主なものとしては、総合病院において北立休体駐車場建築工事等、医師宿舎建築工事、こども病院で院内保育所移転新築工事等を完了する見込みである。

また、長期貸付金256,150千円は、看護師確保対策として、当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行う見込みのほか、職員の育成及び資質向上等を目的に、職員に対し資格等の取得に必要な資金の貸付を行う見込みである。

## (オ) 決算指標年間見込み&lt;3病院計&gt; (税込)

区分	項目	計画	年間見込	増減
収支構造	経常収支比率(%)	101.1	101.6	0.5
	医業収支比率(%)	86.7	86.3	▲0.4
収入構造	病床稼働率(%)	88.4	86.9	▲1.5
	入院患者1人1日当たり単価(円)	76,785	73,910	▲2,875
	外来患者1人1日当たり単価(円)	18,053	18,380	327
費用構造	職員給与比率(%)	56.0	57.6	1.6
	材料費比率(%)	30.4	31.0	0.6

※患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。病床稼働率は、3病院の稼働病床数で算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が第2期中期計画の数値目標である100%を上回る101.6%で、計画を0.5ポイント上回る見込みである。また、医業収支比率は計画を0.4ポイント下回る見込みである。
- 収入構造では、入院患者1人1日当たり単価は計画を2,875円下回る見込みであり、外来患者1人1日当たり単価は、計画を327円上回る見込みである。収益確保の取り組みとしては、総合病院では、先端医学棟の稼働に伴う手術件数の増加や入院センターによる効率的なベッドコントロールを実施し、こども病院では新生児病棟間(NICU・GCU)における積極的な退院支援と効率的なベッドコントロールを実施している。
- 費用構造では、職員給与比率、材料費比率はそれぞれ計画比1.6ポイント増、0.6ポイント増と悪化する見込みである。

### 【収支構造】

- ・ 経常収支比率  $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$   
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率  $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$   
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

### 【収入構造】

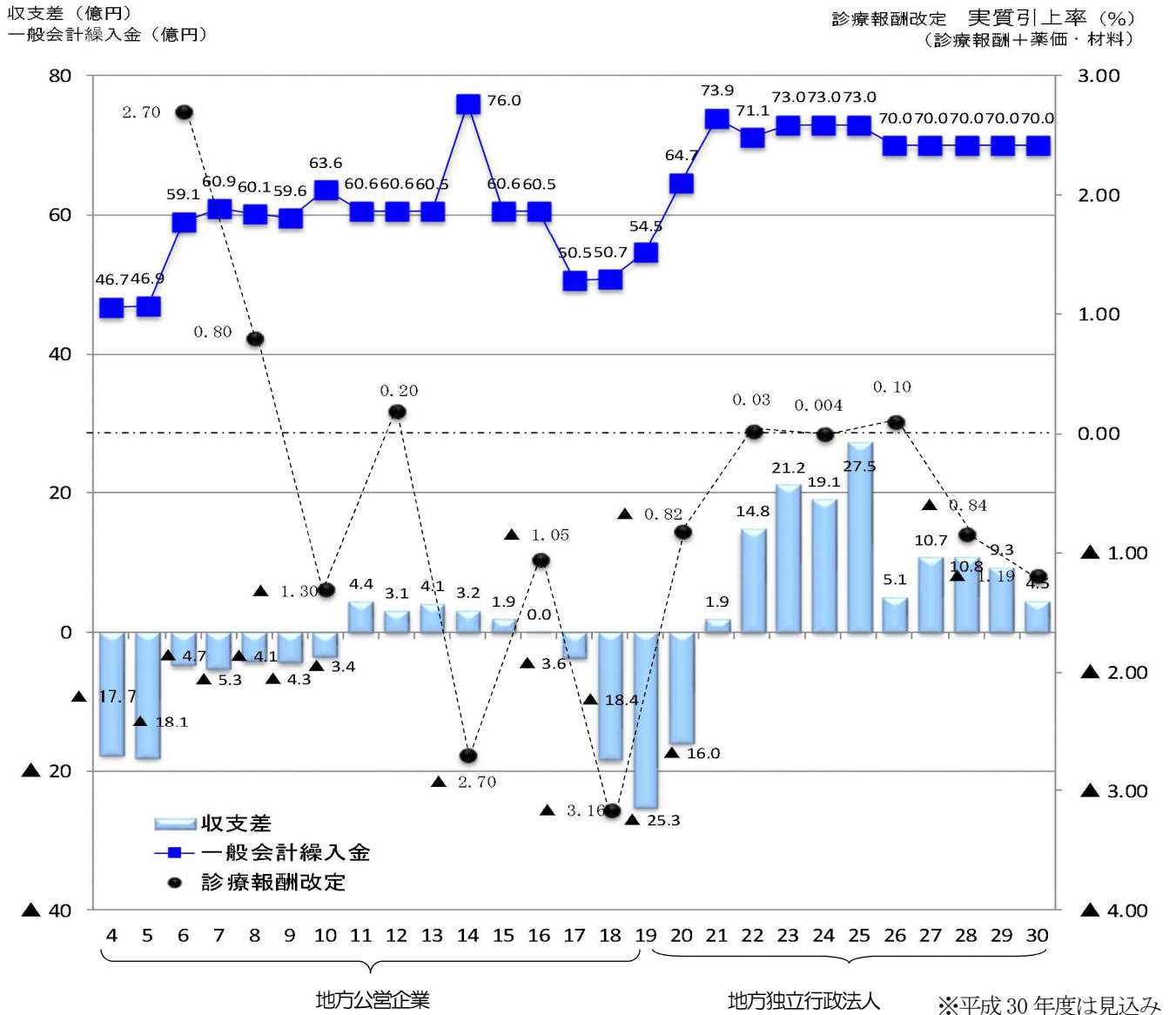
- ・ 病床稼働率  $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$   
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価  $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価  $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$   
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

### 【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率)  $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$   
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率)  $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$   
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)



(才) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制（県財政事情を勘案）。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成22年度の診療報酬改定率は政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げる一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げる一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。（消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%）
- ※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げる一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。
- ※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げる一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。



(キ) 職員の状況 (各年度4月1日現在)

① 正規職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30
医師	157	165	12	14	91	90	-	-	260	269
歯科医師	3	3	-	-	1	1	-	-	4	4
看護師	804	806	115	118	449	444	2	2	1,370	1,370
看護師	800	802	114	117	449	444	2	2	1,365	1,365
准看護師	4	4	1	1	-	-	-	-	5	5
医療技術	208	214	26	25	81	80	-	-	315	319
事務	52	54	13	13	28	27	25	32	118	126
計	1,224	1,242	166	170	650	642	27	34	2,067	2,088

※アソシエイトを含む。

② 有期職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30
医師	91	90	5	3	47	55	1	1	144	149
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
看護師	69	68	13	11	12	13	-	-	94	92
看護師	68	67	12	10	11	12	-	-	91	89
准看護師	1	1	1	1	1	1	-	-	3	3
医療技術	31	35	5	4	16	19	-	-	52	58
事務	151	151	14	14	52	54	8	6	225	225
補助職員	93	94	11	11	23	24	1	1	128	130
計	435	438	48	43	150	165	10	8	643	654

※補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

※短期間特別研修医は含まない。

(ク) 平成31年度職員の採用状況 (平成30年度採用試験実施状況) (平成30年9月末現在)

- ・看護師の採用については、定期募集を年間3回、経験者募集を年9回計画し、募集を行っている。きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の大幅な増加につながった。
- ・人材確保のため、看護師確保キャラバン隊による全国の養成校への訪問や修学資金の拡充の継続 (貸与時期2期制等)、支度金制度の実施、病院見学会の旅費の拡充 (市外 最大5万円)、静鉄電車・バス等へのポスター掲載、JR静岡駅への電照公告掲載等、きめ細やかな対策を迅速に実施し、必要な看護師を採用している。  
(H26 108人⇒ H27 149人、H28 136人、H29 113人、H30 (9月末まで) 96人)
- ・また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行うと併に、看護師就職説明会において、看護学生を集めるために看板等の作成やノベルティの配布を行った。
- ・今年度は昨年度と比較して試験受験者が減少している傾向があるため、今後も看護師確保のための対策を実施していく。
- ・医療技術については18人 (薬剤師 (一般) 6人、薬剤師 (経験者) 1人、診療放射線技師 (一般) 1人、臨床検査技師 (一般) 2人、臨床検査技師 (経験者) 2人、臨床工学技士 (経験者) 1人、理学療法士 (一般) 2人、作業療法士 (経験者) 1人、薬剤アソシエイト1人) を確保した。

(単位：人)

区 分	H30 試験実施 (9月末) 【H31 採用】	H29 試験実施 【H30 採用】	差引
看 護 師	96	113	▲17
事 務	—	6	▲ 6
医 療 技 術	18	18	—
計	117	137	▲23

※前倒し採用は試験実施年度に集計。

## 平成 29～30 年度 職員数の推移

(単位：人)

区 分	H29. 4. 1 現員数 a	29 年度中 採用者数 b	29 年度中退職者数		H30. 3. 31 現員数 e=a+b-c+d	H30. 4. 1 採用者数 f	H30. 4. 1 現員数 g=e-d+f	
			C	うち H30. 3. 31 退職者数 d				
医 師	正 規	264	13	36	18	259	32	273
	有 期	144	12	75	69	150	68	149
	計	408	25	111	87	409	100	422
看 護 師	1,370	12	115	55	1,322	103	1,370	
医 療 技 術	315	7	15	7	314	12	319	
事 務	118	4	2	1	121	6	126	
	うちプロパー	64	4	1	1	68	2	70
計	2,211	48	243	150	2,166	221	2,237	

※ アソシエイトを含む(H29 看護 5 人、医療技術 1 人、事務 2 人 H30 看護 6 人、医療技術 6 人、事務 7 人)

※ 正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む

※ 有期医師の契約は 1 年更新、短期間特別研修医は除く

## (2) 総合病院

### <理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

### <基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

### <総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

平成 30 年度も引き続き、循環器病センター機能を活かした 24 時間 365 日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供、高度救命救急センターとして重症な患者への救急医療提供を主要事業の三本柱として取り組んでいる。

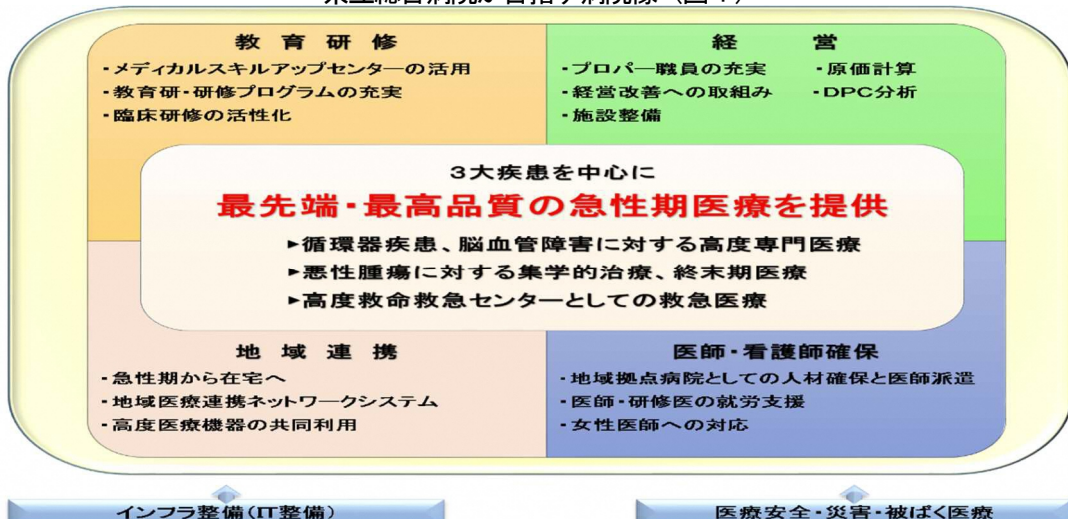
また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進している。さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取り組みを進めた。

平成 29 年 9 月に最先端の治療機器、臨床研究の設備が整った先端医学棟が稼働し、「治療」、「教育」、「研究」の三つの役割・機能を強化している。

医療内容の高度化、手術件数の増加、高額薬剤の使用（がん治療薬：オプジーボ、アバスタチン等）に加え、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率向上、入院料加算算定延べ件数の増加、施設基準の積極的な取得及び維持、各科の稼働状況にあわせた病床再編などに取り組むことにより、診療単価、入院延患者数、入院収益ともに昨年度を上回る見込み。また、外来延患者数、外来収益についても昨年度を上回る見込み。

今後、県立総合病院が目指す病院像（図1）のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとしている。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



### (3) こころの医療センター

#### <理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

#### <基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

#### <総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想（図2）参照）に取り組んでいる。

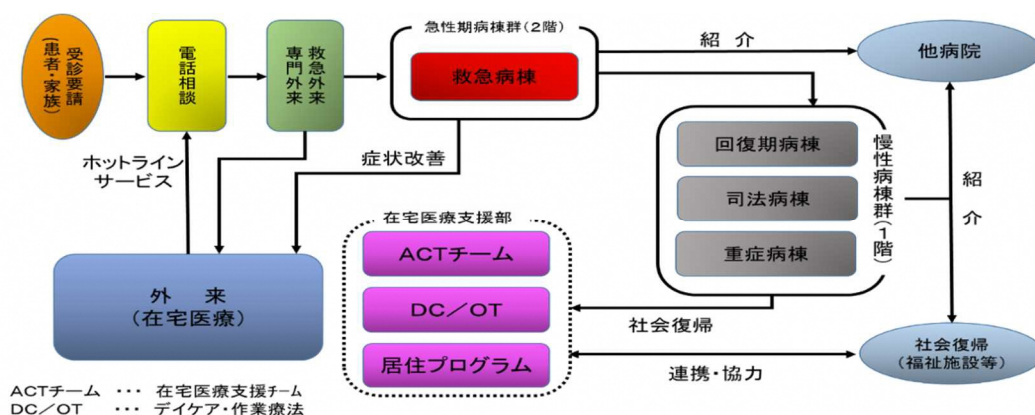
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度には、南1病棟の一部個室化運用の開始により、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、今年度も引き続き効率的な病棟運営に努めている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んでいる。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関として安定した運営を継続するなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

こころの医療センター診療体制整備の将来構想（図2）



## (4) こども病院

### <理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

### <基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

地域医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ  
質の高い効果的な医療を提供

こども病院が目指す方向 (図3)

- |            |                    |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院  | 安全を重視した質の高い医療      |
| 2 教 育      | 教育内容の充実が最大目標の一つ    |
| 3 地 域 連 携  | 相互支援に基づいた地域医療連携    |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院  | スタッフの満足度が高い労働環境    |

\*平成24年4月改定



### <総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践している。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

また、小児の高度専門医療を担う当院には、希少な疾患・症例が集まり、小児医療の発展に貢献していく必要があることから、企業治験を含む臨床研究により積極的に取組めるよう平成30年4月に臨床研究管理センターを設置した。

平成30年9月には当院の産科医療への貢献が評価され、産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受けた。

国際交流においては、平成28年度、平成29年度と看護師の研修受入を行っていた中国の深セン市児童病院からの希望で、平成30年5月に院長を始めとした当院訪問団が訪問し交流のための覚書を締結するなど、積極的な交流を行った。

### 3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### (1) 医療の提供

##### ア 総合病院

##### ○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数、入院単価ともに、年度計画（以下「計画」）を下回る見込みである。外来延患者数は計画を下回る見込みで、外来単価は計画を上回る見込みである。
- ・ 入院単価は年度計画を下回る見込みだが、昨年度と比較して入院単価は増加しており、増加要因としては、心臓血管外科や循環器内科を中心に診療内容が高度化したことや、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の入院料加算算定延べ件数が増加、入退院センターを中心に病床再編を実施、各種施設基準の新規取得等が挙げられる。また、外来単価の増加要因については、外来化学療法の数が増加、高額薬剤（がん治療薬：オプジーボ、アバスチン等）の使用、高度医療に取り組んだ効果によるものである。

#### 平成 30 年度 業務量及び単価等年間見込み

区分		年度計画	年間見込	増減	達成率(%)	
入院	一般病床	入院延患者数 (人)	230,030	230,000	▲30	100.0
		病床稼働率 (%)	95.2	95.2	0	100.0
		平均在院日数 (日)		11.8		
	結核病床	入院延患者数 (人)	6,358	5,100	▲1,258	80.2
		病床稼働率 (%)	34.8	28.0	▲6.8	80.5
		平均在院日数 (日)		68.3		
患者 1 人 1 日 当たり 単 価 (円)		82,310	78,219	▲4,091	95.0	
外来	外来延患者数 (人)	434,048	431,000	▲3,048	99.3	
	患者 1 人 1 日 当たり 単 価 (円)	20,299	20,822	523	102.6	

※患者 1 人 1 日 当たり 単 価 は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床稼働率は、一般病床 662 床で算定、結核病床は 50 床で算定

- ・ 紹介率、逆紹介率ともに計画を大きく上回った。ともに高い水準を実現し、病診・病病連携がいっそう進んでいる。

#### 平成 30 年度 紹介率・逆紹介率年間見込み

(単位: %)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	80.0	88.4	+8.4
逆 紹 介 率	90.0	167.2	+77.2

※紹介率・逆紹介率の算定方法は、用語解説を参照。



- 医療の提供については、急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。平成30年3月の厚生労働省告示により、全国1,730のDPC病院（急性期病院）の中で引き続き全国155病院のDPC特定病院群の一つを維持し、大学病院本院群と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて6病院）。
- 急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療については、ハイブリッド手術を整備し、平成26年10月より運用を開始した。最新の治療器材と鮮明な画像診断を併用し、ステントグラフト治療やTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）など、循環器分野における先進的な治療を行った。更に平成30年10月に、県内初となる経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）の実施施設として、日本循環器学会から認定を受ける予定。
- 平成29年6月に重症度の高い患者に対して、集中治療病棟で濃厚治療を行い施設基準のランクアップを図った。加えて平成30年9月には、重症度の高い患者の増加に伴い、集中治療病棟を12床から14床へ増床を行った。ランクアップや増床等により入院診療収益が増加した。

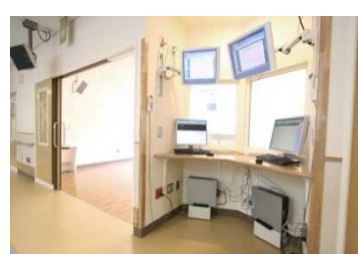
#### 循環器病センター



救命救急センター（1F）



ハイブリッド手術室（2F）



CCU（3F）

- がん医療については、がん相談支援センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実を目指してリニアックを4台設置し、稼働している。このほか、地域の医療者にも開かれたがん相談支援センター及びがん研修会を定期的で開催し、PETセンターの共同利用を進めるなど、地域がん診療連携拠点病院としての機能強化に努めている。  
平成29年9月に国立がん研究センターから公表された「がん診療連携拠点病院院内がん登録2016年全国集計報告書」において、当院の登録件数2,911件は全国434施設で49番目に多い登録件数であった。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、平成26年2月から運用を開始した。泌尿器領域の前立腺がん手術、膀胱全摘除手術（全額自費診療）、腎部分切除手術、婦人科領域の子宮頸がん手術、大腸がん（主に直腸がん）の手術を行った。また、平成28年12月には、全国5番目（大学病院以外では全国初）となる、産婦人科領域のダ・ヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の施行が先進医療で承認された。平成30年4月の診療報酬改訂に伴い、胃がん、直腸がんに対するロボット手術が保険適用となり、当院でも保険診療を開始した。
- 平成27年度より先端医学棟の建設に着手し、平成29年度の7月に竣工を迎え、9月より運用を開始している。先端医学棟では、手術や放射線治療を更に発展させ、高度・先端医療を提供する県内の中核病院として機能の強化、患者サービスの向上を図るため、手術室を県内最多となる22室に拡充し、最新鋭の医療機器を配置してロボット手術やハイブリッド手術などを含む手術件数を伸ばしている。  
また、最新鋭の放射線治療機器に対応できる大型の放射線治療室4室を整備し、これまで以上に体への負担が少なく、かつ高精度な放射線治療を実施している。
- 研究では、医師が診療業務をしながら臨床研究にも取り組むことができる「リサーチサポートセンター」を設置。また、乳幼児期の難聴や、人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムなどについて研究する「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児聴覚支援センター）も設けている。

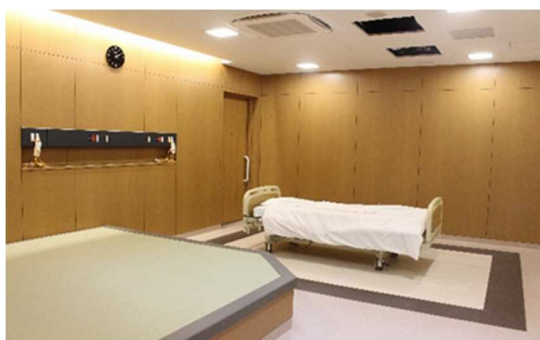
- ・ 静岡県と平成 30 年度社会健康医学に関する研究委託契約を締結（8月20日付）し、先端医学棟5階リサーチサポートセンターにおいて、3つの研究テーマ（医療ビッグデータの活用、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究）への取組を開始した。
- ・ 先端医学棟に移動した手術室とHCU病棟の跡地を利用し、平成29年11月よりリニューアル工事のひとつである産婦人科病棟の改修工事を開始した。平成30年11月末に工事が完了し、12月1日から運用する見込み。病棟機能はLDR4床、未熟児室3床、新生児室等を備えた一般病床40床となる。



<産婦人科病棟 入口>



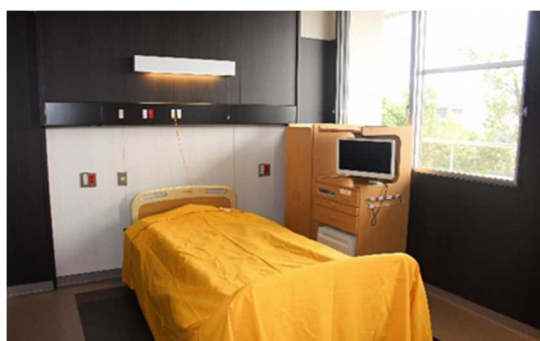
<産婦人科病棟 スタッフステーション>



<産婦人科病棟 LDR>



<産婦人科病棟 分娩室>



<産婦人科病棟 特別室>



<産婦人科病棟 個室>



<産婦人科病棟 4人部屋>



<産婦人科病棟 新生児室>





< 北 立 体 駐 車 場 >

- ・ 近年増加する外来患者に対応するため、平成 29 年 3 月に大型立体駐車場の工事発注を行った。平成 29 年 5 月に周辺工事を開始し、平成 30 年の 9 月初旬に工事が完了し、9 月 7 日から供用を開始した。駐車台数は工事前の 501 台から 745 台となり、病院周辺の渋滞は現在のところ発生していない。
- ・ 救急医療については、平成 27 年 3 月に高度救命救急センターの指定を受けた。広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救命医療を行うために必要な診療機能を備えた。また、平成 26 年 6 月にドクターカーを導入、運用開始し、静岡市と運用に関する協定を結び、救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行する、又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率向上に努めた。平成 27 年度末には、富士市及び富士宮市とも運用に関する協定を結んだ。加えて平成 28 年に静岡市消防局の管轄区域が 3 市 2 町（静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町）に拡大し、近隣地域にも活動の範囲を広げた。
- ・ 平成 30 年 3 月に、患者の寄付金を活用して 2 台目となる救急車を導入した。主に病院間の患者搬送や災害時の医療支援に使用することとしている。なお、この救急車は英国日産の NV400 で、日本での導入は初となる車輦である。

## イ こころの医療センター

### ○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 延患者数については、入院、外来とも計画を上回る見込みである。単価については、入院は計画を下回る見込みであるが、外来は計画を上回る見込みである。

#### 平成 30 年度 業務量及び単価等年間見込み

区 分		年度計画	年間見込	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	55,190	56,906	1,716	103.1
	入院患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	25,349	25,163	▲186	99.3
	平 均 在 院 日 数 (日)		110.3		
	病 床 稼 働 率 (%)	87.9	90.6	2.7	103.1
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	40,416	41,005	589	101.5
	外来患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	6,104	6,296	192	103.1

※患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 は、税 込 金 額 (調 定 額 ベー ス で 算 定)。平 均 在 院 日 数 は、医 療 観 察 法 病 床 を 除 い て 算 定。病 床 稼 働 率 は、172 床 で 算 定。

- ・ 紹介率、逆紹介率ともに計画値を下回った。今後も転院の促進等に努めていく。

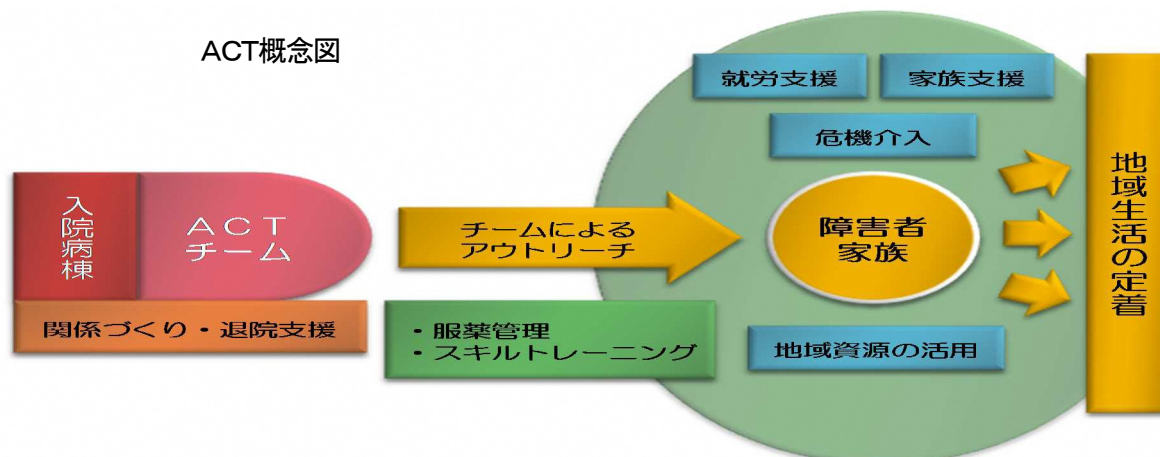
#### 平成 30 年度 紹介率・逆紹介率年間見込み

(単位：%)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	56.0	50.2	▲5.8
逆 紹 介 率	36.0	31.4	▲4.6

- ・ 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを継続して進めた。
- ・ 先端薬物療法（クロザピン）や高度な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に積極的に取り組んだ。
- ・ 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んだ。
- ・ 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い 24 時間 365 日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。

ACT概念図



- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

## ウ こども病院

### ○ 業務実績を示す各種指標

- ・入院については、延患者数は計画を下回る見込みであるが、単価は計画を上回る見込みである。
- ・外来については、延患者数は計画を上回る見込みであるが、単価は計画を下回る見込みである。

#### 平成30年度 業務量及び単価等年間見込み

区 分		年度計画	年間見込	増減	達成率(%)
入 院	入院延患者数(人)	81,040	74,302	▲6,738	91.7
	入院患者1人1日当たり単価(円)	95,696	97,611	1,915	102.0
	平均在院日数(日)		10.6		
	病床稼働率(%)	81.9	75.1	▲6.8	91.7
外 来	外来延患者数(人)	107,645	110,953	3,308	103.1
	外来患者1人1日当たり単価(円)	13,482	13,359	▲123	99.1

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神科、短期3を除いて算定。病床稼働率は271床で算定。

- ・病診連携や病病連携の強化により、紹介率・逆紹介率ともに計画を上回る見込みである

#### 平成30年度 紹介率・逆紹介率年間見込み

(単位:%)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	92.0	93.2	1.2
逆 紹 介 率	32.0	41.5	9.5

- ・全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療(アンプラッツァー)や遠隔エコー診断等の先進的治療など、循環器疾患に対する高度先進的医療の提供に努めている。
- ・循環器病棟に準重症患者を受け入れる病室を活用し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制を整備している。
- ・自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入しており、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備している。
- ・総合周産期母子医療センターの指定を受け周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供している。
- ・静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上に対応し、血液腫瘍の治療法である造血幹細胞移植を継続的に実施したほか、固形腫瘍については関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催して高度な集学的治療に取り組んでいる。
- ・小児救命救急センターの指定を受けている小児集中治療センター(PICU)と小児救急センター(ER)を中心に、24時間365日を通して、初期救急を含めた小児救急患者を受け入れている。
- ・厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮している。

#### 救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

## (2) 医療に関する技術者（医師、看護師等医療従事者）の研修を通じた育成と質の向上

### ア 総合病院

- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成 27 年度に卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が評価され、引き続き認定証の発行を受けた。また、平成 30 年度は、医師臨床研修マッチングを経て、募集定員 24 名中 22 名を確保した。

### イ こころの医療センター

医療技術者の研修については、認定看護師研修の派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、7名の精神科認定看護師と1名の感染管理認定看護師が在籍し、医療の質の向上に貢献している。

### ウ こども病院

- ・ 専門家を招聘してセミナーや研修会を定期的で開催するとともに、海外研修や認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めている。
- ・ シドニー・ウエストメッド小児病院へ当院研修医を派遣するなど、国際交流を通じて最先端の医療技術の習得を図っている。
- ・ かねてから交流のある中国の浙江大学医学院附属児童病院から、平成 29 年 10 月には研修医の受け入れを行い、同年 11 月には院長を始めとした訪問団が児童病院を訪問し、当院との友好協定を締結するなど、積極的な交流を行っている。
- ・ 平成 28 年度、平成 29 年度と看護師の研修受入を行っていた中国の深セン市児童病院からの希望で、平成 30 年 5 月に院長を始めとした当院訪問団が訪問し交流のための覚書を締結した。
- ・ 地域の医療機関等の看護師や看護学生等への継続的な実習研修や、医療関係者を対象とした講演会等を定期的で開催し、職員だけでなく院外の医療従事者にも教育研修機能を開放している。

## (3) 医療に関する調査及び研究

- ・ 総合病院では、臨床医学研究センターを平成 25 年 12 月 24 日に立ち上げた。また、平成 26 年 8 月 9 日に設立記念研究発表会を開催し、地域の医療関係者に臨床医学研究センター設立をPRした。また、H27. 6 月に客員研究員制度を創設し、平成 27 年度から平成 30 年度までに 10 名の客員研究員を新たに選任した。
- ・ 先端医学棟 5 階に、医師が診療業務をしながら臨床研究にも取り組むことができる「リサーチサポートセンター」を設置。この中には乳幼児期の難聴や、人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムなどについて研究する「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児聴覚支援センター）も設けている。平成 30 年度は文部科学省科研費の受入が可能な研究機関として指定を受けるため、文部科学省に対して申請を行った。
- ・ 静岡県と平成 30 年度社会健康医学に関する研究委託契約を締結（8 月 20 日付）し、先端医学棟 5 階リサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータの活用、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究への取組を開始した。更に、研究員の確保や機器整備等、研究体制の整備を着実に進めている。
- ・ 医療機能の向上のため、医師の通常の診断治療業務との関連の中で確立された治療方法の導入や、実施に当たっての研究、各種疾患の追跡調査を行い、個々の技術の向上を図っている。また、全職員に対して、新技術、知識習得のため各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種雑誌、図書の購入等を推進している。

【医学奨励研究の内訳】平成30年度

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	周術期ランジオロール投与による食道癌手術における心房細動予防効果の検討	麻酔科・集中治療科	11
	禁煙後の心血管マーカーの変化と予後規定因子に関する研究	臨床研究センター 客員研究員	1
	院外心停止症例における自動除細動器(AED)の心電図記録による生存率・神経学的予後の検討	救命救急センター	11
	アルドステロン産生腺腫における体細胞遺伝子変異の検討	高血圧研究部	4
	原発性大結節性副腎過形成(PMAH)における ARMC5 遺伝子の意義	遺伝診療科	2
	当院における褐色細胞腫/パラカングリオーマの遺伝学的解析	遺伝診療科・糖尿病内分泌代謝科	3
	慢性B型大動脈解離症例に対するステントグラフト後の偽腔血流シミュレーション	心臓血管外科	2
	単独冠動脈バイパス術後の”Failure to Rescue”に施設症例数が与える影響の検討	心臓血管外科	2
	プレシジョンメディスン導入に伴う加齢黄斑変性患者の意識調査	眼科	3
	血糖自己測定の実践状況に影響する要因～穿刺器具ワンタッチアクロ®の操作・機能性の検証と心理社会的要因からの検討～	外来南	1
	在宅酸素療法中の COPD 患者におけるボディ・イメージの特徴とその関連要因	6C 病棟	3
	血液透析患者のシャント自己管理行動と自己効力感の関連	透析室	2
	中脳黒質の nigrosome 1 は加齢性変化を示すか？ 磁化率マッピング強調像による in vivo imaging	放射線科	4
	重症喘息と慢性閉塞性肺疾患の分子病態の類似性に関する研究	呼吸器内科	2
	シャント作製前の掌握運動がシャント血管に与える効果についての前向き多施設ランダム化臨床試験	腎臓内科	8
	臨床分離 MRSA におけるメチシリン感性化機構の解明	消化器外科	2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌における TSST-1 産生制御機構の解明	消化器外科	2
	急性心不全により入院した患者の、入院時・退院時の社会背景・ADL、および退院後状況と予後の検討	循環器内科	2
	外来化学療法施行患者に対する認定・専門薬剤師介入効果の検討	薬剤部	8
	トルバプタンの最適な投与法確立のための副作用および薬物血中濃度評価	薬剤部	5

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	最適化治療のための全身性エリテマトーデスのサブグループ化	免疫研究部	2
	下顎埋伏智歯抜歯後の後発感染症例についての臨床的検討	歯科口腔外科	4
	声帯振動観察用高速カメラシステムに関する研究	頭頸部・耳鼻いんこう科	1
	プラチナ系抗癌剤投与患者を対象とした下垂体性 hCG 値基礎的データ集積	泌尿器科	7
	ICUにおける非侵襲的換気療法 (high flow nasal cannula) の適応の評価に関する研究	救命救急科・集中治療科	8
	計	25	100
こころ	精神科病院における感染症対策についての意識調査	感染対策室	1
	入院中から退院後にかけてのクライシスプラン活用に関する研究	看護部	3
	精神科で頻用するグリチルリチン含有漢方製剤により誘発される低カリウム血症の要因に関する調査	薬剤室	4
	高齢者領域にかかる支援者の満足感および支援者としての成長について	医療部	1
	計	4	9
こども	医療安全の促進・医療ミス撲滅に向けた当科の新生児ケア・マニュアル活用	新生児科	8
	全国の数施設における小児に対する急性血液浄化療法の現状調査	腎臓内科	5
	日本小児心臓外科手術データベースを利用したHeterotaxy症候群に対する外科治療成績	心臓血管外科	8
	鼻咽腔ファイバースコープ検査による口蓋裂患者の鼻咽腔閉鎖機能の評価	形成外科	2
	PCRによる小児化膿性関節炎・骨髄炎の起因菌同定	整形外科	3
	小児神経疾患リハビリテーションに対する自立支援用ロボットの活用	脳神経外科	7
	医療的ケア児が安心して療養できるための情報共有の仕方の検討	看護部	9
	手洗い習慣を身につけて、ばい菌をやっつけよう！！	成育支援室	7
	乳児期頭蓋縫合評価における頭蓋超音波検査の可能性	放射線技術室	4
	マルチパラメーターフローサイトメトリーでのB前駆細胞表面マーカーの解析	検査技術室	12



病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
こども	尿細胞診検体を用いた尿中ポドサイトの検出意義及び腎糸球体病態の比較検討	検査技術室	10
	第Ⅷ因子活性測定における凝固1段法と合成基質法の比較検討～軽症血友病A診断精度向上および長期作用型第Ⅷ因子製剤の普及にむけて～	検査技術室	6
	小児に適した服薬支援方法の検討および支援ツールの作成	薬剤室	6
	計	13	85

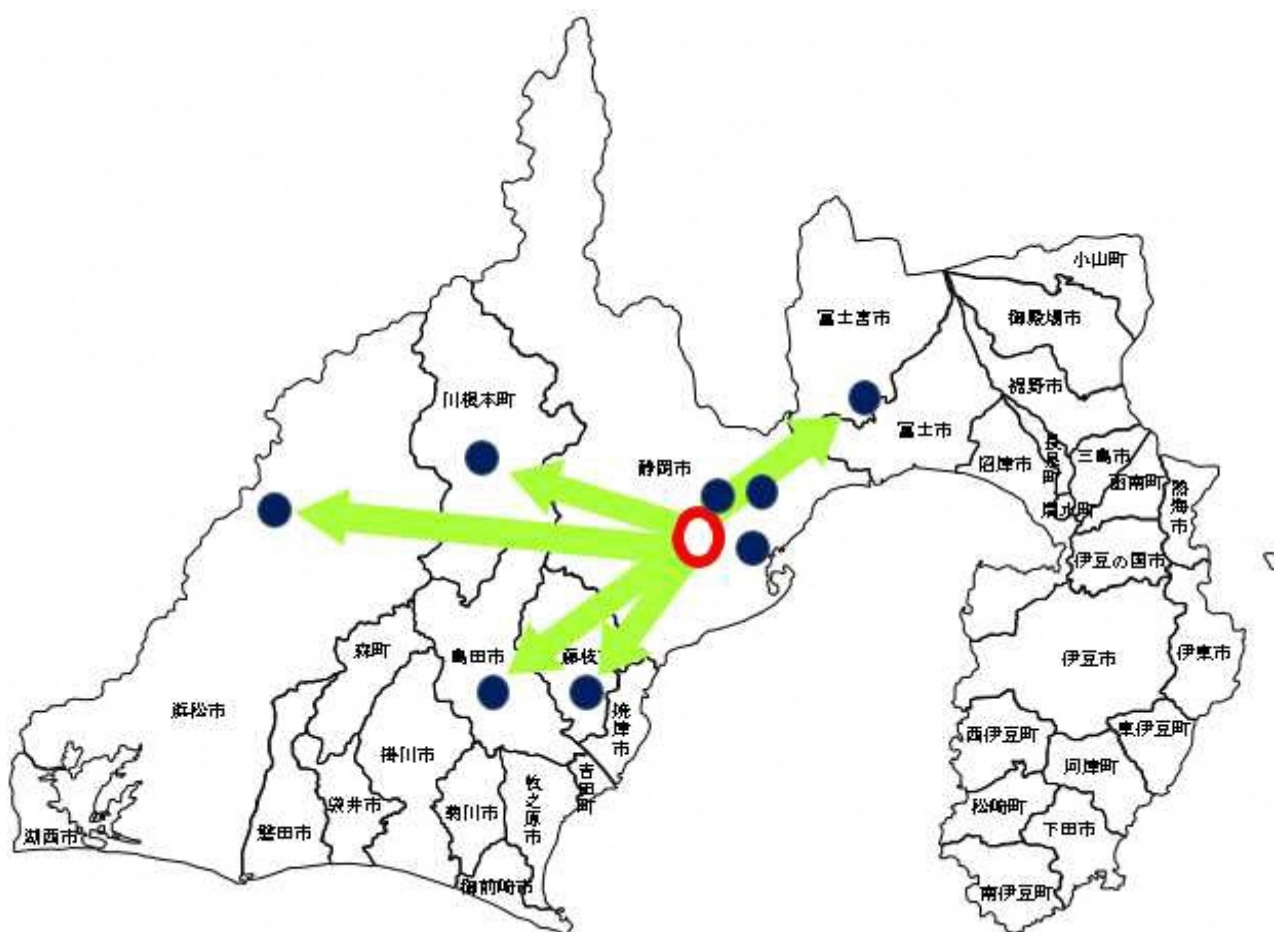
## (4) 医療に関する地域への支援

### ア 総合病院

地域医療の支援については、平成30年度は、県立病院医師交流制度に基づき8医療機関（前年同期8医療機関）に対して延べ237人（前年同期327人）の医師の派遣を行うとともに、PETやCT・MRIの高度医療機器の共同利用を推進した。

また、平成22年度総務省委託事業である「地域ICT利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成30年3月末現在、開示施設は18病院、参照施設は133施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

## 平成30年度 県立総合病院の医師派遣



### イ こころの医療センター

地域医療の支援については、医師、看護師の講演会等への講師派遣等に取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている。

### ウ こども病院

- ・ 小児科の基幹施設として、新専門医制度に対応した研修を行い適切に対応した。
- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等計8の医療機関に対して、平成30年9月末までに延べ389人の医師を派遣した。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センターなどと定期的に症例検討会を実施している。また、県内4病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行うなど、映像情報を



活用した地域医療機関等との連携及び支援を行っている。

- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めている。
- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催するなど、地域の周産期医療の質向上と他医療機関との連携体制を強化している。
- ・ 地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催するなど、小児救急医療の体制強化を図っている。

## (5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下 21 病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した、要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、静岡市長から「静岡県医療救護計画」に基づき、救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院は、被ばく医療について、二次被ばく医療機関に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、災害対応マニュアルの見直しを進め、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどを反映した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できるような対策を実施した。改訂したマニュアルに基づき訓練を実施した。
- ・ 総合病院における被ばく医療については、福島第一原発の事故を受けて、平成 27 年度に国が原子力災害体制の見直しを行い、県が原子力災害拠点病院の指定に向けて整備を進めている。総合病院は指定に向けて関係機関が主催する講習会等を受講するなど、施設要件を満たす取り組みを行っており、平成 30 年 10 月に原子力発電所の重大事故に備えた原子力災害拠点病院として静岡県から指定を受ける予定。
- ・ こころの医療センターは、地震や台風等による災害が発生した際、被災した病院独自では患者の身体、生命の安全確保が困難な場合に被災病院に対する人的支援を行うため、平成 26 年 8 月 28 日、宮城県立精神医療センター、千葉県精神医療センター、大阪府立精神医療センター、岡山県精神医療センター、島根県立こころの医療センター、山口県立こころの医療センター、計 7 病院と災害時における自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結している。また、平成 28 年 4 月に発生した熊本での地震の際には、県立こども病院との混成チームを含む計 2 チームの「心のケアチーム」を現地に派遣し、精神科医療における支援を行った。平成 30 年度においては、北海道胆振東部地震における国の DPAT 事務局に 2 人を派遣し、本部機能を担う業務に協力した。

## 4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

### (1) 簡素で効率的な組織づくり

理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8 月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めている。

### (2) 効率的な業務運営の実現

#### ア 機構全体

- ・ 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮して、人物重視の採用試験を実施し、平成 28 年度事務職員として 1 名を採用した。
- ・ 未収金の圧縮を図るため、医療費に係る相談体制の充実、未収金回収業務を弁護士法人に委託するなどし、

効率的な未収金対策を講じている。

- ・ 薬品費や診療材料費については、同種同効品の絞込みや、安価な材料への切替え、価格交渉の更なる拡充等の見直しを進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。
- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適切ではない場合の減額等が課せられている。）の適用などにより、業務の質の向上も図った。

## イ 総合病院

- ・ 各診療科でDPC入院期間を参考に、平均在院日数の短縮を図り、効率の良い病棟運用に努めている。
- ・ 先端医学棟の開棟により、増設された手術室の効率的な運用に努めている。
- ・ 平成28年4月に入退院センターを開設した。入退院センターでは、患者個々の社会的背景を捉え、入院前から退院後を見据え、一貫したサポート（入院前問診・オリエンテーション等）を行うことで、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図った。また、空床情報の一元管理と、適切なベッドコントロールを行い、病床の再編や病床利用率の向上を図った。
- ・ 重症系病棟の稼働率や算定率向上に向けて、医師を中心に効率的な病棟運用に努めている。
- ・ 自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替えを行った。
- ・ 平成29年9月より、共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」に加盟した。平成30年度は従来の診療材料から選定品への切替え活動や加盟分野が広がったことから、NHAからの還元金18,838千円（H29下期：6,630千円）となりより一層の診療材料費の低減を行った。

## ウ こころの医療センター

- ・ 平成28年2月に導入した電子カルテの活用により、情報の共有によるチーム医療及び療育の推進、並びに業務の効率化・省力化を進めた。
- ・ 毎月の経営戦略委員会や管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

## エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めた。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減に努めた。
- ・ 毎月の管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

## (3) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図った。
- ・ 業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施し、あわせて、院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、情報の共有化を図った。

#### (4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成

業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。

5 項目別業務実績

<評価凡例>  
 A 計画に対し十分に取り組み、成果も得られている。 A- 計画に対し十分に取り組み、一定の成果が得られている。  
 B 計画に対し十分に取り組んでいる。 C 計画に対する取り組みは十分ではない。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画		No.	行動計画	業務の実績		30年度9月末実績 自己評価					
I	各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足の向上	1	①・患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。	セカンドオピニオン数 (単位：件)		A- 患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。					
				区分	25年度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
				総合	98		107	112	114	115	46
		1	①・患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。	セカンドオピニオン情報提供料算定件数 (総合) (単位：件)		A- 患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。					
				区分	25年度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
				診療情報提供料(Ⅱ)	125		104	125	121	145	67
		2	①②③・運用実績などのエビデンスに基づきクリニカルパスの新規作成や見直しを行い、クリニカルパスの適用率を高める。	クリニカルパスの新規作成、適用率等実績		A- クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。 今後引き続き新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。					
				区分	25年度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
				新規作成(件)	23		34	34	18	16	15
		3	④⑤・看護提供方式見直し(固定チームナーシングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。	「患者様の声」の推移 (単位：件)		A 看護師に対するご意見が前年度から約3割減少する見込み。感謝については前年度を上回る見込みとなっており、質の高い看護が提供できている。					
				区分	25年度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
				ご意見	117		82	72	57	92	33
		3	④⑤・看護提供方式見直し(固定チームナーシングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。	患者満足度調査 (単位：%)		A 看護師に対するご意見が前年度から約3割減少する見込み。感謝については前年度を上回る見込みとなっており、質の高い看護が提供できている。					
				区分	25年度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
				入院	96.4		95.8	95.6	97.8	98.2	98.2

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画		行動計画	業務の実績		30年度9月末実績 自己評価																											
No.					説明																											
4	②③⑤・先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する。 総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績 リニアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。</li> <li>・第2期中期目標期間 (H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。 H29年7月以降、機器・什器等の購入手続きや既存棟からの移転作業を進めた。8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。</li> </ul> <table border="1"> <caption>手術件数 (単位:件)</caption> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,115</td> <td>4,549</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>HCU建患者数 (単位:人)</caption> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> <td>3,445</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,115	4,549	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875	3,445	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績 工事が9月初旬に完了し、9月7日から供用を開始した。 駐車台数:501台→745台(+244台) 渋滞発生状況:発生なし</li> <li>・第2期中期目標期間 (H26～30) H28年度 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。 設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニアックの移設により、治療体制の充実を図ることができた。</li> <li>・手術件数も順調に増加し、先端医学棟を円滑に運用できた。</li> </ul>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																										
手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,115	4,549																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																										
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875	3,445																										
5	⑤・立体駐車場建設の工事進捗管理を徹底する。 完成後は、立体駐車場の円滑な運用を行い、患者の利便性の向上を図る。 総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績 H30年9月末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</li> <li>・第2期中期目標期間 (H26～30) H29実績:H30.3末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</li> </ul> <table border="1"> <caption>稼働クリニカルバス件数 (単位:件)</caption> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルバス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	稼働クリニカルバス	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績 H30年9月末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</li> <li>・第2期中期目標期間 (H26～30) H29実績:H30.3末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリニカルバスについては、導入が可能なものについて積極的に導入し、患者の負担軽減に努め、わかりやすい医療を提供した。</li> </ul>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																										
稼働クリニカルバス	4	4	4	4	4	4																										
6	①②③・入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルバスを作成し導入する。 こころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績 H30年9月末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</li> <li>・第2期中期目標期間 (H26～30) H29実績:H30.3末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</li> </ul> <table border="1"> <caption>稼働クリニカルバス件数 (単位:件)</caption> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルバス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	稼働クリニカルバス	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリニカルバスについては、導入が可能なものについて積極的に導入し、患者の負担軽減に努め、わかりやすい医療を提供した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリニカルバスについては、導入が可能なものについて、積極的に導入し、新規クリニカルバス作成、既存クリニカルバスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。</li> </ul>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																										
稼働クリニカルバス	4	4	4	4	4	4																										
7	①②③・入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルバスを作成し導入する。 こども	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績 H30年9月末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</li> <li>・第2期中期目標期間 (H26～30) H29実績:H30.3末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</li> </ul> <table border="1"> <caption>稼働クリニカルバス件数 (単位:件)</caption> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルバス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	稼働クリニカルバス	4	4	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリニカルバスについては、導入が可能なものについて、積極的に導入し、新規クリニカルバス作成、既存クリニカルバスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリニカルバスについては、導入が可能なものについて、積極的に導入し、新規クリニカルバス作成、既存クリニカルバスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。</li> </ul>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																										
稼働クリニカルバス	4	4	4	4	4	4																										

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																																																											
<p>I 1 (1)</p> <p>各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。                      ① 患者への十分な説明と同意の徹底                      ② 医療技術の向上                      ③ チーム医療の推進                      ④ 医療安全対策の充実                      ⑤ 患者満足の向上</p>	<p>8</p> <p>③・チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。</p>	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H30.9月末実績 チーム医療に対する診療報酬合計 58,701千円 H30.6 抗菌薬適正使用支援チームを設置</li> <li>・ 第2期中期目標期間 (H26～30) チーム医療は、病院全体での取組が不可欠であり、診療科の枠を越え医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報を共有し、業務連携することで患者の状況に的確に対応した質の高い医療の提供を行った。 また、チーム医療に対する診療報酬上の評価が加算されている。</li> </ul>	<p>説明</p> <p>総合においては、H30.6から新たに抗菌薬適正使用支援チームを設置し、質の高い医療を行う体制が強化された。診療科の枠を越え多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。 H30年6月より抗菌薬適正使用支援チームの施設基準を取得し、チーム医療に対する診療報酬が更に加算され、収益面でも貢献している。</p>																																																																																																																																																												
<p>チーム医療の推進 (カンファレンスの開催) H30.9月末時点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>隔日 ※H29.12.20 ※H30.1.10/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>毎日</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護・栄養</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤師・理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤師・社会福祉士・福祉士</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>隔日 ※H29.12.20 ※H30.1.10/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>随時</td> <td>医師・看護・精神保健福祉士等</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>リハビリテーション                      隔日 (隔1回)                      医師・看護・理学療法士等</p> </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>チーム医療に対する診療報酬上の算入加算の状況 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>1,200</td> <td>1,140</td> <td>1,120</td> <td>1,200</td> <td>1,245</td> <td>610</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>53,510</td> <td>60,200</td> <td>72,767</td> <td>74,920</td> <td>73,792</td> <td>46,785</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6,421</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1,410</td> <td>2,720</td> <td>2,520</td> <td>6,320</td> <td>3,905</td> <td>2,180</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>144</td> <td>59</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>568</td> <td>6,248</td> <td>2,704</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>緩和ケアチーム</td> <td>56,120</td> <td>73,670</td> <td>76,407</td> <td>83,531</td> <td>87,349</td> <td>58,701</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>302</td> <td>434</td> <td>380</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>380</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>17,792</td> <td>17,240</td> <td>17,484</td> <td>19,570</td> <td>18,880</td> <td>13,640</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,725</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>66,000</td> <td>60,646</td> <td>55,640</td> <td>58,883</td> <td>56,527</td> <td>25,625</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>83,792</td> <td>77,886</td> <td>73,124</td> <td>78,733</td> <td>78,132</td> <td>40,375</td> </tr> </tbody> </table>					区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査	感染制御チーム	隔日 ※H29.12.20 ※H30.1.10/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・社会福祉士・福祉士	こころ	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	隔日 ※H29.12.20 ※H30.1.10/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	栄養サポートチーム	随時	医師・看護・精神保健福祉士等	<p>リハビリテーション                      隔日 (隔1回)                      医師・看護・理学療法士等</p>					病院	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	総合	栄養サポートチーム	1,200	1,140	1,120	1,200	1,245	610	感染制御チーム	53,510	60,200	72,767	74,920	73,792	46,785	抗菌薬適正使用支援チーム	-	-	-	-	-	6,421	褥瘡対策チーム	1,410	2,720	2,520	6,320	3,905	2,180	呼吸ケアチーム	-	-	-	144	59	1	認知症ケアチーム	-	-	-	568	6,248	2,704	こころ	緩和ケアチーム	56,120	73,670	76,407	83,531	87,349	58,701	計	-	-	302	434	380	180	こども	栄養サポートチーム	-	-	303	434	380	180	計	-	-	-	-	-	2	こども	感染防止対策チーム	17,792	17,240	17,484	19,570	18,880	13,640	褥瘡対策チーム	-	-	-	-	-	2,725	リハビリテーション	66,000	60,646	55,640	58,883	56,527	25,625	計	83,792	77,886	73,124	78,733	78,132	40,375
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																												
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																												
	感染制御チーム	隔日 ※H29.12.20 ※H30.1.10/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																												
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																												
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養																																																																																																																																																												
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・理学療法士																																																																																																																																																												
	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・社会福祉士・福祉士																																																																																																																																																												
こころ	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士																																																																																																																																																												
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																												
	感染防止対策チーム	隔日 ※H29.12.20 ※H30.1.10/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																												
こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																												
	栄養サポートチーム	随時	医師・看護・精神保健福祉士等																																																																																																																																																												
<p>リハビリテーション                      隔日 (隔1回)                      医師・看護・理学療法士等</p>																																																																																																																																																															
病院	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																								
総合	栄養サポートチーム	1,200	1,140	1,120	1,200	1,245	610																																																																																																																																																								
	感染制御チーム	53,510	60,200	72,767	74,920	73,792	46,785																																																																																																																																																								
	抗菌薬適正使用支援チーム	-	-	-	-	-	6,421																																																																																																																																																								
	褥瘡対策チーム	1,410	2,720	2,520	6,320	3,905	2,180																																																																																																																																																								
	呼吸ケアチーム	-	-	-	144	59	1																																																																																																																																																								
	認知症ケアチーム	-	-	-	568	6,248	2,704																																																																																																																																																								
こころ	緩和ケアチーム	56,120	73,670	76,407	83,531	87,349	58,701																																																																																																																																																								
	計	-	-	302	434	380	180																																																																																																																																																								
こども	栄養サポートチーム	-	-	303	434	380	180																																																																																																																																																								
	計	-	-	-	-	-	2																																																																																																																																																								
こども	感染防止対策チーム	17,792	17,240	17,484	19,570	18,880	13,640																																																																																																																																																								
	褥瘡対策チーム	-	-	-	-	-	2,725																																																																																																																																																								
	リハビリテーション	66,000	60,646	55,640	58,883	56,527	25,625																																																																																																																																																								
計	83,792	77,886	73,124	78,733	78,132	40,375																																																																																																																																																									

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																																																																																							
	9	④・医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>・H30.9月末実績 3病院で、5回の院内感染対策研修、8回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) ・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目指す。</p> <table border="1"> <caption>医療安全対策、院内感染対策研修等</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">集団感染数(件)</th> <th colspan="5">院内感染対策研修・医療安全対策研修 30年度9月末</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>参加数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>373</td> <td>5</td> <td>1,618</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>299</td> <td>1</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>495</td> <td>2</td> <td>827</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>1,167</td> <td>8</td> <td>2,554</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに施設回数は2回</p>	区分	集団感染数(件)					院内感染対策研修・医療安全対策研修 30年度9月末					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	参加数(人)	研修数(回)	参加数(人)	研修数(回)	参加数(人)	総合	4	1	0	2	0	0	1	373	5	1,618	ところ	0	0	0	0	0	0	2	299	1	109	こども	0	0	0	3	2	2	2	495	2	827	計	4	1	3	2	3	0	5	1,167	8	2,554	A-																																																																																																																						
区分	集団感染数(件)					院内感染対策研修・医療安全対策研修 30年度9月末																																																																																																																																																																																					
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	参加数(人)	研修数(回)	参加数(人)	研修数(回)	参加数(人)																																																																																																																																																																																	
総合	4	1	0	2	0	0	1	373	5	1,618																																																																																																																																																																																	
ところ	0	0	0	0	0	0	2	299	1	109																																																																																																																																																																																	
こども	0	0	0	3	2	2	2	495	2	827																																																																																																																																																																																	
計	4	1	3	2	3	0	5	1,167	8	2,554																																																																																																																																																																																	
	10	⑤・患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	<p>H25から調査実施時期を統一し、実施している。</p> <p>(単位：%)</p> <table border="1"> <caption>患者満足度調査</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">25年度</th> <th colspan="5">26年度</th> <th colspan="5">27年度</th> <th colspan="5">28年度</th> <th colspan="5">29年度</th> <th colspan="5">30年度</th> </tr> <tr> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>総合</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>総合</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>総合</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>総合</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>総合</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>総合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>96.4</td> <td>91.9</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>98.2</td> <td>95.8</td> <td>91.9</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>98.2</td> <td>95.8</td> <td>91.9</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>98.2</td> <td>95.8</td> <td>91.9</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>98.2</td> <td>95.8</td> <td>91.9</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>98.2</td> <td>95.8</td> <td>91.9</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>98.2</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>88.8</td> <td>89.8</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>89.4</td> <td>88.5</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>89.4</td> <td>88.5</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>89.4</td> <td>88.5</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>89.4</td> <td>88.5</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>89.4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>92.5</td> <td>89.4</td> <td>91.3</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> <td>91.3</td> <td>89.4</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> <td>91.3</td> <td>89.4</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> <td>91.3</td> <td>89.4</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> <td>91.3</td> <td>89.4</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> <td>91.3</td> <td>89.4</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					30年度					入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	総合	96.4	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	ところ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	こども	88.8	89.8	88.2	89.8	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	計	92.5	89.4	91.3	91.9	98.4	91.3	89.4	91.9	98.4	97.5	91.3	89.4	91.9	98.4	97.5	91.3	89.4	91.9	98.4	97.5	91.3	89.4	91.9	98.4	97.5	91.3	89.4	91.9	98.4	A
区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					30年度																																																																																																																																																																	
	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合	入院	外来	入院	外来	総合																																																																																																																																																													
総合	96.4	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2	95.8	91.9	95.8	95.6	98.2																																																																																																																																																													
ところ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																													
こども	88.8	89.8	88.2	89.8	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4	88.5	88.2	89.8	88.5	89.4																																																																																																																																																														
計	92.5	89.4	91.3	91.9	98.4	91.3	89.4	91.9	98.4	97.5	91.3	89.4	91.9	98.4	97.5	91.3	89.4	91.9	98.4	97.5	91.3	89.4	91.9	98.4	97.5	91.3	89.4	91.9	98.4																																																																																																																																																														
I 1 (2)	11	①・かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。	<p>紹介率・逆紹介率</p> <table border="1"> <caption>紹介率・逆紹介率</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">25年度</th> <th colspan="5">26年度</th> <th colspan="5">27年度</th> <th colspan="5">28年度</th> <th colspan="5">29年度</th> <th colspan="5">30年度</th> </tr> <tr> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>82.1</td> <td>106.7</td> <td>85.0</td> <td>127.5</td> <td>89.1</td> <td>89.1</td> <td>134.3</td> <td>89.1</td> <td>161.5</td> <td>90.0</td> <td>89.0</td> <td>175.5</td> <td>90.0</td> <td>167.2</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>49.6</td> <td>29.8</td> <td>57.9</td> <td>27.4</td> <td>30.8</td> <td>56.2</td> <td>28.6</td> <td>55.0</td> <td>28.6</td> <td>56.0</td> <td>28.6</td> <td>55.0</td> <td>28.6</td> <td>56.0</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> <td>50.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					30年度					紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	総合	82.1	106.7	85.0	127.5	89.1	89.1	134.3	89.1	161.5	90.0	89.0	175.5	90.0	167.2	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	ところ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	こども	49.6	29.8	57.9	27.4	30.8	56.2	28.6	55.0	28.6	56.0	28.6	55.0	28.6	56.0	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	A																													
区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					30年度																																																																																																																																																																	
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合																																																																																																																																																													
総合	82.1	106.7	85.0	127.5	89.1	89.1	134.3	89.1	161.5	90.0	89.0	175.5	90.0	167.2	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4	88.4																																																																																																																																																													
ところ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																													
こども	49.6	29.8	57.9	27.4	30.8	56.2	28.6	55.0	28.6	56.0	28.6	55.0	28.6	56.0	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2																																																																																																																																																													
	12	①・地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	<p>紹介率・逆紹介率</p> <table border="1"> <caption>紹介率・逆紹介率</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">25年度</th> <th colspan="5">26年度</th> <th colspan="5">27年度</th> <th colspan="5">28年度</th> <th colspan="5">29年度</th> <th colspan="5">30年度</th> </tr> <tr> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>49.9</td> <td>94.8</td> <td>53.2</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>49.9</td> <td>94.8</td> <td>53.2</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>49.9</td> <td>94.8</td> <td>53.2</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>49.9</td> <td>94.8</td> <td>53.2</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>49.9</td> <td>94.8</td> <td>53.2</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>49.9</td> <td>94.8</td> <td>53.2</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					30年度					紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	総合	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	ところ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	こども	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	A																													
区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					30年度																																																																																																																																																																	
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合																																																																																																																																																													
総合	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7	49.9	94.8	53.2	93.0	94.7																																																																																																																																																													
ところ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																													
こども	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5																																																																																																																																																													
	13	①・地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を積極的に逆紹介を行う。	<p>紹介率・逆紹介率</p> <table border="1"> <caption>紹介率・逆紹介率</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">25年度</th> <th colspan="5">26年度</th> <th colspan="5">27年度</th> <th colspan="5">28年度</th> <th colspan="5">29年度</th> <th colspan="5">30年度</th> </tr> <tr> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>総合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> <td>41.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					30年度					紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	総合	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	ところ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	こども	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	A																													
区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					30年度																																																																																																																																																																	
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	総合																																																																																																																																																													
総合	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0																																																																																																																																																													
ところ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																													
こども	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5	41.5	32.0	46.5	32.0	41.5																																																																																																																																																													

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																													
	14	<p>②・心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。</p>	<p>地域連携クリニカルパス (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折</td> <td>110</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>103</td> <td>82</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>94</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>86</td> <td>81</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>151</td> <td>114</td> <td>109</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>102</td> <td>95</td> <td>118</td> <td>131</td> <td>191</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>虚血性心疾患</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>96</td> <td>186</td> <td>142</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>慢性腎臓病</td> <td>40</td> <td>28</td> <td>54</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>526</td> <td>444</td> <td>632</td> <td>709</td> <td>681</td> <td>293</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	脳卒中	38	42	68	52	42	30	大腿骨頸部骨折	110	67	65	103	82	29	胃がん	94	77	80	86	81	36	大腸がん	135	133	151	114	109	64	乳がん	102	95	118	131	191	61	前立腺がん	7	2	0	0	0	7	虚血性心疾患	0	0	96	186	142	46	慢性腎臓病	40	28	54	37	25	20	肺がん	0	0	0	0	0	0	計	526	444	632	709	681	293	<p>関係機関との連携により地域連携クリニカルパスの適用を進め、円滑な運用に努めている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																											
脳卒中	38	42	68	52	42	30																																																																											
大腿骨頸部骨折	110	67	65	103	82	29																																																																											
胃がん	94	77	80	86	81	36																																																																											
大腸がん	135	133	151	114	109	64																																																																											
乳がん	102	95	118	131	191	61																																																																											
前立腺がん	7	2	0	0	0	7																																																																											
虚血性心疾患	0	0	96	186	142	46																																																																											
慢性腎臓病	40	28	54	37	25	20																																																																											
肺がん	0	0	0	0	0	0																																																																											
計	526	444	632	709	681	293																																																																											
	15	<p>③④・地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。</p>	<p>ネットワーク実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>開示件数(累計)</td> <td>9,848</td> <td>12,424</td> <td>15,814</td> <td>19,795</td> <td>23,818</td> <td>26,531</td> </tr> <tr> <td>参加施設数</td> <td>175</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>141</td> <td>134</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>99</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>76</td> <td>78</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>保険薬局</td> <td>53</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>40</td> <td>31</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>介護施設</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H30.9月末実績 H30年度に、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、富士市立中央病院、焼津市立総合病院、静岡済生会総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施する予定である。</p> <p>・第2期中期間 (H26～30) ・情報の開示施設を、H27年度に1診療所、H28年度に3病院増やすことができた。 ・H27年度末の理事会において利用料規程を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 ・H28年度においては、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、静岡県立こども病院、静岡県立こどもの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーのシステム整備を行った。 ・H29年度には、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。</p> <p>「ふじのくにバリーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバリーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開示施設数	14	14	15	18	18	18	開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,818	26,531	参加施設数	175	208	194	141	134	133	病院	14	17	17	13	14	14	診療所	99	122	104	76	78	78	保険薬局	53	57	59	40	31	30	訪問看護ステーション	8	11	12	10	9	9	介護施設	1	1	2	2	2	2	<p>ネットワークへの参加施設数・開示患者数・参照件数とも順調に拡大を続けている。 今後とも参加施設数を増やし、地域の中核病院としての役割を果たし、地域医療機関等との連携を強化していく。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																											
開示施設数	14	14	15	18	18	18																																																																											
開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,818	26,531																																																																											
参加施設数	175	208	194	141	134	133																																																																											
病院	14	17	17	13	14	14																																																																											
診療所	99	122	104	76	78	78																																																																											
保険薬局	53	57	59	40	31	30																																																																											
訪問看護ステーション	8	11	12	10	9	9																																																																											
介護施設	1	1	2	2	2	2																																																																											



第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画		No.	行動計画	業務の実績		30年度9月末実績 自己評価																																										
I I (3)	各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	—	—	—	—	—																																										
I I (3) ア	循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	—	県立総合病院について27～35に記載 県立こども病院について45及び47に記載	—	—	—																																										
I I (3) イ	周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機体内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。</li> </ul> <table border="1"> <caption>周産期医療における搬送実績 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>こども→総合</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	区 分	4	9	8	3	7	4	こども→総合	10	8	14	11	15	6	<p>症例の発生状況により搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のネットワークを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。</p> <p>A</p>																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																										
区 分	4	9	8	3	7	4																																										
こども→総合	10	8	14	11	15	6																																										
I I (3) ウ	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>結核病棟を維持する。また各種感染症や難病は県内医療機関との連携・協力関係を進める。</li> </ul>	総合	<p>結核病棟50床について運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。難病医療の法律改正にあわせて、難病指定医療機関の申請を行い、H27年5月に指定を受けた。難病指定医についても、これまでに21診療科88名の医師が申請を行い、順次指定を受けた。</p> <p>(単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td>134</td> <td>14</td> <td>98</td> <td>119</td> <td>108</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>エイズ</td> <td></td> <td></td> <td>非公開</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>結 核</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>入院患者数</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	区 分	134	14	98	119	108	55	エイズ			非公開				結 核							<p>県内最大の結核病棟の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入れた。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。</p> <p>難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。</p> <p>A</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																										
区 分	134	14	98	119	108	55																																										
エイズ			非公開																																													
結 核																																																
I I (3) エ	先進的医療である移植医療に取り組む。		総合	<p>移植実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腎移植</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>30</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位: 件)</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	腎移植	12	13	11	14	18	10	造血幹細胞移植	10	8	8	11	8	5	強角膜片作成	9	6	7	3	4	2	計	31	27	26	28	30	17	<p>腎臓移植: H30年度は9月末までに10例の腎臓移植を達成し、増加傾向にある。</p> <p>A-</p> <p>造血幹細胞移植: 9月末までに5例の造血幹細胞移植を達成し、順調に推移している。</p> <p>強角膜片: 過去に比べ、若干減少している。</p>								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																										
腎移植	12	13	11	14	18	10																																										
造血幹細胞移植	10	8	8	11	8	5																																										
強角膜片作成	9	6	7	3	4	2																																										
計	31	27	26	28	30	17																																										
I I (3) エ	先進的医療である移植医療に取り組む。	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。</li> </ul>	総合	<p>造血幹細胞移植実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>腎臓移植</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位: 件)</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	区 分	9	9	4	4	2	1	腎臓移植	1	1	0	2	1	1	造血幹細胞移植	2	2	8	5	7	4	強角膜片作成	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	10	7	<p>腎臓移植は、H25年度に1件、H27年度に3件、H28年度に2件、H29年度に2件を行った。</p> <p>A</p> <p>適用患者の数に変動はあるため、実績値の増減はあるが先進的医療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいる。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																										
区 分	9	9	4	4	2	1																																										
腎臓移植	1	1	0	2	1	1																																										
造血幹細胞移植	2	2	8	5	7	4																																										
強角膜片作成	1	1	1	0	0	1																																										
計	13	13	13	11	10	7																																										

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																								
<p>1 1 (3) オ</p> <p>リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就労・就労につながる支援等に取り組む。</p>	<p>19</p> <p>【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。</p> <p>総合</p>	<p>・H30.9月末実績 H29年度から引続き、入院早期より退院困難な要因を有する患者を抽出し、リハビリテーション、相談援助・支援等の退院調整を積極的に支援した。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30）地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援している。 H29は、リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に支援した。</p> <p>地域医療ネットワークセンター退院調整件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1,377</td> <td>1,554</td> <td>1,754</td> <td>2,204</td> <td>3,217</td> <td>3,817</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院調整加算(旧) (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(旧)</td> <td>603</td> <td>710</td> <td>770</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>退院調整加算I(新)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,054</td> <td>1,879</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>入院退院支援加算I※</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,573</td> </tr> <tr> <td>退院時ケアプログラムの指導料</td> <td>1,281</td> <td>1,279</td> <td>980</td> <td>601</td> <td>705</td> <td>268</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,884</td> <td>1,989</td> <td>1,750</td> <td>1,655</td> <td>2,584</td> <td>2,841</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H30年改正により、入院退院支援加算に名称変更</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	件数	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	3,817	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	退院調整加算(旧)	603	710	770	—	—	—	退院調整加算I(新)	—	—	—	1,054	1,879	—	入院退院支援加算I※	—	—	—	—	—	2,573	退院時ケアプログラムの指導料	1,281	1,279	980	601	705	268	計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	2,841	<p>リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、入院早期から退院調整を地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援した。 また、退院後の受け入れ先となる、後方病院へ院長、看護部が訪問して連携を強化した。</p>	<p>30年度9月末実績 自己評価</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																						
件数	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	3,817																																																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																						
退院調整加算(旧)	603	710	770	—	—	—																																																						
退院調整加算I(新)	—	—	—	1,054	1,879	—																																																						
入院退院支援加算I※	—	—	—	—	—	2,573																																																						
退院時ケアプログラムの指導料	1,281	1,279	980	601	705	268																																																						
計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	2,841																																																						
<p>20</p> <p>【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。</p> <p>こころ</p>	<p>・H30.9月末実績 リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。 また、在宅においてよりの確かな支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30）早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされるところから、29年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。</p> <p>リハビリテーション活動件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科作業療法</td> <td>8,300</td> <td>8,157</td> <td>7,209</td> <td>4,699</td> <td>5,922</td> <td>3,815</td> </tr> <tr> <td>リハビリ</td> <td>4,355</td> <td>4,100</td> <td>4,229</td> <td>4,498</td> <td>3,963</td> <td>3,176</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13,055</td> <td>12,257</td> <td>11,438</td> <td>12,097</td> <td>11,947</td> <td>5,991</td> </tr> </tbody> </table> <p>訪問看護実施件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>2,698</td> <td>2,761</td> <td>2,883</td> <td>3,322</td> <td>4,068</td> <td>2,065</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>389</td> <td>344</td> <td>170</td> <td>147</td> <td>76</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	精神科作業療法	8,300	8,157	7,209	4,699	5,922	3,815	リハビリ	4,355	4,100	4,229	4,498	3,963	3,176	計	13,055	12,257	11,438	12,097	11,947	5,991	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	訪問看護実施件数	2,698	2,761	2,883	3,322	4,068	2,065	(うち複数訪問)	389	344	170	147	76	19	<p>患者の社会復帰及び地域生活支援に取り組む、リハビリテーション活動及び訪問看護件数については、ほぼ前年度並みとなっている。 訪問看護の複数訪問の拡充については、精神保健福祉士の体制強化が必要である。</p>	<p>30年度9月末実績 自己評価</p>								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																						
精神科作業療法	8,300	8,157	7,209	4,699	5,922	3,815																																																						
リハビリ	4,355	4,100	4,229	4,498	3,963	3,176																																																						
計	13,055	12,257	11,438	12,097	11,947	5,991																																																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																						
訪問看護実施件数	2,698	2,761	2,883	3,322	4,068	2,065																																																						
(うち複数訪問)	389	344	170	147	76	19																																																						
<p>21</p> <p>【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。</p> <p>こども</p>	<p>・H30.9月末実績 言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。</p> <p>言語聴覚業務 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語聴覚業務</td> <td>17,617</td> <td>20,414</td> <td>17,811</td> <td>17,604</td> <td>18,944</td> <td>8,197</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,972</td> <td>7,317</td> <td>6,335</td> <td>6,010</td> <td>6,656</td> <td>3,354</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>7,883</td> <td>8,180</td> <td>7,825</td> <td>8,656</td> <td>7,306</td> <td>3,835</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,472</td> <td>35,911</td> <td>31,971</td> <td>32,170</td> <td>32,906</td> <td>15,386</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	言語聴覚業務	17,617	20,414	17,811	17,604	18,944	8,197	作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,656	3,354	言語聴覚療法	7,883	8,180	7,825	8,656	7,306	3,835	計	32,472	35,911	31,971	32,170	32,906	15,386	<p>H30年4月にリハビリテーション1名(非常勤)を採用し、リハビリ需要の増加に対応している。今後ともさらなる質の向上を図っていく。</p>	<p>30年度9月末実績 自己評価</p>																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																						
言語聴覚業務	17,617	20,414	17,811	17,604	18,944	8,197																																																						
作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,656	3,354																																																						
言語聴覚療法	7,883	8,180	7,825	8,656	7,306	3,835																																																						
計	32,472	35,911	31,971	32,170	32,906	15,386																																																						

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画		No.	行動計画	業務の実績		30年度9月末実績 自己評価																																																							
I 1 (3) カ	遺伝解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	22	総合 ・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	<p>・H30 遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。がんゲノム検査のNCCオンコパネル（先進医療B）を1例実施 518,800円/回</p> <p>・第2 中期中目標期間（H26～30）H27年度に院内の閑休する部署間の調整を経て遺伝診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。</p> <p>・H30年3月27日「がんゲノム医療中核拠点病院」である京都大学医学部附属病院内の連携病院として「がんゲノム医療連携病院」に指定された。</p> <table border="1"> <caption>遺伝診療科受診患者数 (単位:人)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> <tr> <td>区</td> <td></td> <td></td> <td>21</td> <td>39</td> <td>86</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	区			21	39	86	43	分							合計							<p>H30年度の遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。世間の関心の高さから今後も患者数の増加が期待される。また、H29年度末に「がんゲノム医療連携病院」に指定され、がんゲノム医療の体制を整備・強化している。</p>																												
		区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																					
		区			21	39	86	43																																																					
分																																																													
合計																																																													
23	総合 【総】・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にあるが、脳FDG-PETについては、前年度並みである。	<p>【総】・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の推進する。</p> <table border="1"> <caption>脳FDG-PET (単位:件)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> <tr> <td>区</td> <td>137</td> <td>144</td> <td>131</td> <td>135</td> <td>147</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>認知症ケア加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> <tr> <td>区</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>803</td> <td>10,494</td> <td>5,077</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	区	137	144	131	135	147	72	分							合計							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	区	-	-	-	803	10,494	5,077	分							合計							<p>脳FDG-PETの件数は、過去最高となったH29年度並となる見込み。H29年1月に認知症ケア加算の施設基準を取得し、算定件数は順調に増加している。</p>		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
区	137	144	131	135	147	72																																																							
分																																																													
合計																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
区	-	-	-	803	10,494	5,077																																																							
分																																																													
合計																																																													
I 1 (3) キ	認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	24	こころ 【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来（老年期こころと物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施する。	<p>認知症患者数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> <tr> <td>区</td> <td>20</td> <td>16</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>老年期こころと物忘れ外来通院者数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> <tr> <td>区</td> <td>730</td> <td>855</td> <td>707</td> <td>573</td> <td>441</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	区	20	16	6	12	11	4	分							合計							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	区	730	855	707	573	441	250	分							合計							<p>精神科救急・急性期医療体制を確保して症状が重篤な認知症患者を受け入れることともに、老年期特有の専門外来（老年期こころと物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施している。</p>
		区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																					
区	20	16	6	12	11	4																																																							
分																																																													
合計																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
区	730	855	707	573	441	250																																																							
分																																																													
合計																																																													
25	こども 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについて継続して取り組む。	<p>発達小児科診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> <tr> <td>区</td> <td>2,755</td> <td>2,990</td> <td>3,210</td> <td>3,563</td> <td>3,871</td> <td>1,991</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・発達障害児を持つ保護者を対象に、H29年6月～11月の間、計10回、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを行った。 ・中期計画期間中、新生児退院診察を週1回実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	区	2,755	2,990	3,210	3,563	3,871	1,991	分							合計							<p>ペアレント・トレーニング、新生児退院診察、低出生体重児の発達フォローを継続的に実施した。</p>																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
区	2,755	2,990	3,210	3,563	3,871	1,991																																																							
分																																																													
合計																																																													

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価
<p>高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化（ロボット支援手術・放射線治療等の拡充）など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。</p>	<p>26</p>	<p>・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。</p>	<p>・H30.9月末実績                      ・総合病院の第1期リニューアル工事で、8月に幹部諸室及び事務部門を本館2階から6階へ移転した。                      ・新産婦人科病棟の改修工事を行い、12月から運用予定である。                      ・総合病院本館の既存不適合格に対応するため、エントランスホール天井について、H30年1月から10月にかけて改修を行っている。                      ・H29年3月から着工した第1立体駐車場の工事がH30年9月初旬に完了し、北立体駐車場として9月7日から供用を開始した。                      ・H30年6月にリニアアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。                      ・第2期中期期間（H26～30）                      ・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。                      ・計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合には計画の見直しを図った。                      ・総合病院本館の既存不適合格に対応するため、防排煙設備の一部について、H28年度からH29年度にかけて改修を行った。                      ・H27から進めていた先端医学棟（5階建 延床面積約20,569.6㎡）の建設工事が、H29年6月末に完了した。H29年7月に竣工式を挙げて、H29年9月に稼働した。                      ・総合病院の先端医学棟の開棟に伴い、必要な機器等を整備した。                      ・総合病院の第1期リニューアル工事がH29年7月より施工中である。                      ・総合病院の北安東2丁目医師宿舍建設工事は、H30年10月の工事完了に向けて施工中である。                      ・このころの医療センターは、病棟の個室化改修工事に係る設計作業が完了し、H30年度末までに完了する予定である。                      ・このころの医療センターの院内トイレ改修工事は、実施設計を行い、本年度中に着工予定である。                      ・このころの院内保育所の建替えは、H30年度9月から着工し、H30年度末に竣工予定である。</p>	<p>・H30年度はリニアアックの移設も完了し、治療体制の充実を図ることができた。                      ・北立体駐車場の供用開始により、病院周辺の道格で渋滞は発生しておらず、来院者の利便性向上に繋がった。                      ・このころの院内保育所がH30年9月に着工され、職員員の福利厚生への向上が図られる。</p>

施設及び機器等の整備状況 (単位：百万円)

区分	施設整備				
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
総合	16,479	31	1,141	1,863	5,136
このころ	1,205	32	119	623	194
子ども	2,260	95	525	436	494
合計	19,944	188	1,785	2,922	5,824

区分	医療機器等			
	25年度	26年度	27年度	28年度
総合	10,101	1,292	899	587
このころ	179	21	71	46
子ども	2,098	289	439	314
合計	12,378	1,602	1,409	947

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価
<p>ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。</p> <p>Ⅰ 県立総合病院診療事業</p> <p>Ⅰ 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患（心疾患、脳血管疾患、がん）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を推進する。</p> <p>Ⅰ ケ 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組み。</p> <p>Ⅰ (ア) 県民に提供する医療&lt;業務の予定量&gt;</p> <p>病床数 720床 (670床)</p> <p>一般病床 620床</p> <p>結核病床 100床 (50床)</p> <p>外来患者 440,640人</p> <p>入院患者 236,301人</p>	-	-	-	-
<p>循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした24時間体制による高度な専門的治療を提供する体制の充実</p> <p>①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室 (CCU/ICU) 機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供</p> <p>②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する24時間救急受入体制の強化</p> <p>③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進</p> <p>④ハイブリッド手術室の使用によるステントグラフト治療等の高度専門医療の提供</p>	27	<p>①・冠状動脈疾患集中治療室 (CCU/ICU) を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。</p> <p>総合</p>	<p>・ H30.9月末実績</p> <p>H30年9月、循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して14床へ拡大した。</p> <p>・ H27は、循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制（看護配置2：1）で10床稼動した。</p> <p>・ H28は、循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して12床へ拡大した。</p> <p>・ H29は、6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランックアップを実現した。（75,790円/日→118,680円/日等）増収額：128百万円</p>	<p>冠状動脈疾患集中治療室 (CCU/ICU) を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供している。重症系病棟を院内で不足気味であった急性期の治療を増加させることで、高度急性期の治療をより手厚く行える体制を整えた。病床を増加しても稼働率は前年並みを維持しており、その必要性を表している。</p>

CCU/ICU稼働率 (単位：%)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末
稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	113.1	112.7
入室患者数(人)	717	738	771	722	780	512
1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.6	13.5

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																										
	28	<p>②・脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。</p> <p>総合</p>	<p>・第2期中期目標期間（H26～30） ・脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。 ・脳血管内治療のできる医師を確保した。（脳神経外科） ・先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制を整備された。 ・H29 超急性期脳卒中加算は前年度比1.8倍に増加した。 ・H30.9月末実績</p> <table border="1" data-bbox="459 712 539 1288"> <caption>脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>超急性期脳卒中加算 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="544 712 619 1288"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	算定件数	38	42	68	52	42	30	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	算定件数	11	11	15	15	27	7	<p>A</p> <p>先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、脳卒中発症患者に対して、高度な専門的治療が最大限に提供されている。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
算定件数	38	42	68	52	42	30																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
算定件数	11	11	15	15	27	7																																								
	29	<p>③・生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。</p> <p>総合</p>	<p>・H30.9月末実績 ・件数増加を目指し、新たに糖尿病透析予防指導を行う「そらまめ外来」の午後診療を開始した。 ・糖尿病透析予防指導の資格を有する看護師の外来配置人数を増やし、体制を強化した。 配置数 H29:2人→H30:9人(+7人)</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会(下肢救済チーム)を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。 ・糖尿病透析予防指導管理料については、専門外来を開設し活動している。 ・指導に必要な検査(尿アルブミン値)の実施率が低いいため、検査実施率の向上を検討する。 ・末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。</p> <table border="1" data-bbox="949 743 1024 1288"> <caption>糖尿病透析予防指導管理料 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>44</td> <td>24</td> <td>37</td> <td>132</td> <td>75</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> <p>末梢動脈疾患 (PAD) 検査 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1029 743 1157 1288"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ABI</td> <td>1,123</td> <td>1,446</td> <td>1,725</td> <td>1,831</td> <td>2,096</td> <td>1,119</td> </tr> <tr> <td>SPP</td> <td>171</td> <td>143</td> <td>258</td> <td>220</td> <td>230</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>下肢動脈超音波</td> <td>73</td> <td>111</td> <td>188</td> <td>195</td> <td>268</td> <td>134</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	算定件数	44	24	37	132	75	51	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	ABI	1,123	1,446	1,725	1,831	2,096	1,119	SPP	171	143	258	220	230	136	下肢動脈超音波	73	111	188	195	268	134	<p>A</p> <p>循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。 糖尿病透析予防管理料については、糖尿病・内分科やそらまめ外来、透析室などでも指導できるようになり、前年度を上回る見込みとなっている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
算定件数	44	24	37	132	75	51																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
ABI	1,123	1,446	1,725	1,831	2,096	1,119																																								
SPP	171	143	258	220	230	136																																								
下肢動脈超音波	73	111	188	195	268	134																																								

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	30年度9月末実績 自己評価																																																	
	30	<p>④・ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。</p> <p>総合</p>	<p>業務の実績</p> <p>・H30.9月末実績 TAVI（経カテーター大動脈弁置換術）34件 日本循環器学会から経皮的僧帽弁接合不全修復術（Mitra Clip）の実施設として10月に認定を受ける見込み。</p> <p>・第2期中期間（H26～30） ・H26年10月からハイブリッド手術室の稼働を開始した。 ・TAVI（経カテーター大動脈弁置換術）の施設基準を取得し、H27年度は4例、H28年度は28例、H29年度は67例実施した。 ・H29から先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、稼働を開始した。</p> <p>ハイブリッド手術室稼働状況 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室稼働件数</td> <td>—</td> <td>77</td> <td>117</td> <td>163</td> <td>479</td> <td>321</td> </tr> <tr> <td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4</td> <td>28</td> <td>67</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>システムソフト導入部 ※上記の内数</td> <td>50</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>107</td> <td>91</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>322</td> <td>506</td> <td>515</td> <td>517</td> <td>447</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>94</td> <td>43</td> <td>189</td> <td>229</td> <td>256</td> <td>106</td> </tr> </tbody> </table> <p>説明</p> <p>先端医学棟に整備された同一手術室内での画像診断に基づき、精密で正確な手術が可能となる、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室の特性を最大限に生かす、TAVIをはじめとする高度専門医療の提供を行っている。ハイブリッド手術室を使用した手術件数は順調に増加している。加えて、日本循環器学会から経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)の実施設として10月に認定を受ける見込み。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	ハイブリッド手術室稼働件数	—	77	117	163	479	321	TAVI実施件数 ※上記の内数	—	—	4	28	67	34	システムソフト導入部 ※上記の内数	50	80	81	107	91	39	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	PCI	322	506	515	517	447	224	アブレーション	94	43	189	229	256	106
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																														
ハイブリッド手術室稼働件数	—	77	117	163	479	321																																														
TAVI実施件数 ※上記の内数	—	—	4	28	67	34																																														
システムソフト導入部 ※上記の内数	50	80	81	107	91	39																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																														
PCI	322	506	515	517	447	224																																														
アブレーション	94	43	189	229	256	106																																														





第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価														
	32	<p>①・外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。</p> <p>総合</p>	<p>・H30.9月末実績 外来化学療法センターでは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し安心・安全な治療に貢献している。</p> <p>・第2期中期間（H26～30） ・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。 ・H26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する課長通知が出され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。 ・先端医学棟建設後の跡地利用の中で中央滅菌材料室跡地に移転する設計を完了した。</p> <p>外来化学療法加算 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="534 750 614 1288"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>9,733</td> <td>9,963</td> <td>10,509</td> <td>11,171</td> <td>11,680</td> <td>6,125</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,680	6,125	<p>外来化学療法が順調に伸びている。オプジーボ等の先進的な化学療法も順調に増加している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末												
件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,680	6,125												
	33	<p>②・地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。</p> <p>総合</p>	<p>・H30.9月末実績 緩和ケアチーム介入件数 229件 (5E病棟がん患者143件、5E病棟非がん患者0件、5E病棟外がん患者80件、5E病棟外非がん患者6件)</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） ・緩和ケアチーム介入症例数 H29年度実績：389件 (5E病棟がん患者260件、5E病棟非がん患者1件、5E病棟外がん患者114件、5E病棟外非がん患者14件)</p> <p>緩和ケアチーム介入症例数 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="885 750 965 1288"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>426</td> <td>381</td> <td>403</td> <td>372</td> <td>389</td> <td>229</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	症例数	426	381	403	372	389	229	<p>がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入症例数を維持している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末												
症例数	426	381	403	372	389	229												
	34	<p>③・がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。</p> <p>総合</p>	<p>がん相談件数 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="1045 750 1125 1288"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>がん相談</td> <td>2,467</td> <td>3,794</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> <td>5,896</td> <td>1,815</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	がん相談	2,467	3,794	3,065	4,587	5,896	1,815	<p>H28年度からがん相談体制を強化し、がん関連の各種認定看護師、がん看護専門看護師が相談に当たっている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末												
がん相談	2,467	3,794	3,065	4,587	5,896	1,815												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価
	35	<p>④・ロボット支援手術の件数増加に努める</p> <p>総合</p>	<p>業務の実績</p> <p>・H30.9月末実績 4月より胃がん、直腸がんに対するロボット手術が保険適用となったことに伴い、当院でも保険診療を開始した。</p> <p>・第2期中期間（H26～30） ・手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。 ・臨床研究</p> <p>H28 ロボット支援手術（消化器外科領域）9件実施 H29 ロボット支援手術（消化器外科領域）30件実施</p> <p>・適応疾患の拡大 ・H26 前立腺がん、子宮頸がん、ダヴィンチを用いた手術を開始 ・H27 膀胱がん、大腸がん、子宮頸がん、ダヴィンチを用いた手術を開始 ・H28 大腸がん、ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の先進医療開始（全国5番目、大学病院以外では全国初、県内初） ・H29 ・臨床研究 胃がん、大腸がん、子宮頸がん、ダヴィンチを用いた手術を開始した。 ロボット支援手術（消化器外科領域）大腸・胃）30件 ・10月から先端医学棟手術室にダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能な運用体制を整備した。</p>	<p>説明</p> <p>H29年10月よりダヴィンチの運用が2台となり、2件の手術を並行して2件実施できるようになった。術式は泌尿器科の前立腺や腎臓の腫瘍摘出手術に加え消化器領域の胃、大腸に実施している。件数、適用疾患ともに増加している。</p> <p>A</p>

ダヴィンチ使用手術件数 (単位：件)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
診療科	-	31	77	102	122	51
泌尿器科	-	5	4	1	-	11
婦人科	-	-	-	9	30	41
消化器外科	-	36	81	112	152	103
計	0	36	81	112	152	103

ダヴィンチ使用術者数 (単位：人)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
区分	-	5	6	6	7	11
人数	-	5	6	6	7	11

第1 県民に対して提供するサービスの質の向上に関する目標を達成するための取組

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																									
<p>重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営</p> <p>①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成</p> <p>②集中治療専門医の確保</p> <p>③救急搬送患者の受入体制の充実</p>	<p>36</p> <p>総合</p>	<p>①②・医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・ H30.9月末実績</p> <p>・ H30年度は救急科医師9名体制で稼働</p> <p>・ 第2期中期目標期間（H26～30）</p> <p>・ 医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整えた。</p> <p>・ H25年7月から、救急科医師5名体制（うち専門医2名）により、救命救急センターが稼働した。</p> <p>・ H27年3月から高度救命救急センターに指定</p> <p>・ H28年度は救急科医師8名、H29年度は救急科医師7名体制で稼働</p> <table border="1" data-bbox="518 772 614 1288"> <caption>医師の変則勤務試行状況 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,553</td> <td>1,547</td> <td>1,444</td> <td>1,634</td> <td>1,722</td> <td>883</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>858</td> <td>924</td> <td>935</td> <td>961</td> <td>889</td> <td>478</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>55.2</td> <td>59.7</td> <td>64.7</td> <td>58.8</td> <td>51.6</td> <td>54.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数</p> <table border="1" data-bbox="678 772 774 1288"> <caption>救急車受入率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>94.6</td> <td>集計中</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>94.9</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="790 772 949 1288"> <caption>特殊病者受入数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>疾病名</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>249</td> <td>293</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>実績計</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>院内心停止</td> <td>127</td> <td>202</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>382</td> <td>507</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="965 772 1029 1288"> <caption>ドクターカー出動状況 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	該当者(人)	1,553	1,547	1,444	1,634	1,722	883	利用者(人)	858	924	935	961	889	478	利用率(%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.6	54.1	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	集計中	全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9		疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	重症熱傷	4	7	14	12	12		重症外傷	249	293	368	446	539	実績計	急性中毒	2	5	18	18	18	中	院内心停止	127	202	210	207	207		計	382	507	610	683	776		区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	2	4	4	7	10	3	<p>救急委員会を中心として効果的な制度設計を検討し救急患者の円滑な受入体制を維持している。</p> <p>A-</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																							
該当者(人)	1,553	1,547	1,444	1,634	1,722	883																																																																																																							
利用者(人)	858	924	935	961	889	478																																																																																																							
利用率(%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.6	54.1																																																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																							
当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	集計中																																																																																																							
全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9																																																																																																								
疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																							
重症熱傷	4	7	14	12	12																																																																																																								
重症外傷	249	293	368	446	539	実績計																																																																																																							
急性中毒	2	5	18	18	18	中																																																																																																							
院内心停止	127	202	210	207	207																																																																																																								
計	382	507	610	683	776																																																																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																							
件数	2	4	4	7	10	3																																																																																																							
	<p>37</p> <p>総合</p>	<p>③・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。</p> <p>・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・ ドクターカー協定書締結状況</p> <p>・ H26 静岡市</p> <p>・ H27 富士市、富士宮市</p> <p>・ H28 静岡市消防局の管轄区域が3市2町に拡大 静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町</p> <p>・ H29 志太消防本部と協議（焼津市、藤枝市）</p>	<p>ドクターカーの出動出動状況は、現場での救命救急措置が必要とされる状況が発生し、消から要請があった場合に限られるため、年度ごとに要請が大きい。要請を受けた場合は、迅速に対応できている。出動可能な市町は5市2町となっている。出動可能な市町は5市2町となっている。出動可能な市町は5市2町となっている。出動可能な市町は5市2町となっている。</p> <p>A</p>																																																																																																									

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																								
県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療＜業務の予定量＞ 病床数 280床 精神科病棟 280床 外来患者 38,942人 入院患者 55,956人	38	①②・24時間体制で精神科救急医療相談に受け入れられることと、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるような支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	・県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 ・当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 ・当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。 精神科救急ダイヤル件数 (単位:件) <table border="1" data-bbox="667 779 746 1294"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全県</td> <td>2,462</td> <td>2,405</td> <td>4,174</td> <td>3,956</td> <td>3,020</td> <td>1,069</td> </tr> <tr> <td>うち圏外</td> <td>1,967</td> <td>2,039</td> <td>3,174</td> <td>2,082</td> <td>2,351</td> <td>881</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	全県	2,462	2,405	4,174	3,956	3,020	1,069	うち圏外	1,967	2,039	3,174	2,082	2,351	881	24時間体制で精神科救急医療相談に受け、新たな入院患者が早期退院し社会復帰できるような精神科救急・急性期医療の提供体制の整備に努めているが、救急ダイヤル件数は減少傾向にある。																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																						
全県	2,462	2,405	4,174	3,956	3,020	1,069																																																						
うち圏外	1,967	2,039	3,174	2,082	2,351	881																																																						
精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①救急患者が常時受け入れ可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備 ②24時間365日精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備	39	①・新たな入院患者が90日以内に退院できるような促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療 早期退院の実践により、救急病棟(南2)、急性期治療病棟(北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内入院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。 新規患者率 (単位:%) <table border="1" data-bbox="842 757 922 1294"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急</td> <td>40以上</td> <td>71.4</td> <td>72.6</td> <td>71.8</td> <td>70.2</td> <td>72.8</td> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>40以上</td> <td>68.0</td> <td>70.9</td> <td>68.6</td> <td>70.4</td> <td>71.7</td> </tr> </tbody> </table> 新規退院3ヶ月以内移行率 (単位:%) <table border="1" data-bbox="938 757 1018 1294"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急</td> <td>60以上</td> <td>82.0</td> <td>71.5</td> <td>69.9</td> <td>81.2</td> <td>72.3</td> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>60以上</td> <td>78.0</td> <td>82.4</td> <td>85.5</td> <td>82.3</td> <td>87.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	救急	40以上	71.4	72.6	71.8	70.2	72.8	救急	40以上	68.0	70.9	68.6	70.4	71.7	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	救急	60以上	82.0	71.5	69.9	81.2	72.3	救急	60以上	78.0	82.4	85.5	82.3	87.4	精神科救急入院料の施設基準を維持するため、新規入院患者が90日以内に退院できるような早期退院を促進している。														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																						
救急	40以上	71.4	72.6	71.8	70.2	72.8																																																						
救急	40以上	68.0	70.9	68.6	70.4	71.7																																																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																						
救急	60以上	82.0	71.5	69.9	81.2	72.3																																																						
救急	60以上	78.0	82.4	85.5	82.3	87.4																																																						
他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	40	①・薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。	・H30.9月末実績 H21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。 m-ECT実施件数 (単位:人) <table border="1" data-bbox="1114 734 1321 1294"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ件数(件)</td> <td>578</td> <td>836</td> <td>596</td> <td>605</td> <td>692</td> <td>415</td> </tr> <tr> <td>実施患者数</td> <td>56</td> <td>68</td> <td>33</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>中部地区(静岡市)</td> <td>53</td> <td>61</td> <td>47</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>36</td> <td>50</td> <td>32</td> <td>43</td> <td>40</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	延べ件数(件)	578	836	596	605	692	415	実施患者数	56	68	33	54	60	40	中部地区(静岡市)	53	61	47	51	54	35	東部地区	36	50	32	43	40	26	西部地区	1	3	4	2	3	1	その他	1	3	1	1	1	3	その他	1	1	1	0	0	0	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、精神科医療では高度医療とされるm-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施しており、実施件数は前年度から増加見込みである。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																						
延べ件数(件)	578	836	596	605	692	415																																																						
実施患者数	56	68	33	54	60	40																																																						
中部地区(静岡市)	53	61	47	51	54	35																																																						
東部地区	36	50	32	43	40	26																																																						
西部地区	1	3	4	2	3	1																																																						
その他	1	3	1	1	1	3																																																						
その他	1	1	1	0	0	0																																																						

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																										
	41	<p>①・先端薬物療法（クロザピニンなど）を積極的に実施する。</p> <p>こころ</p>	<p>・H30.9月末実績 H23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、H30年9月末までに53名の患者に投与しており、現在41名に対して継続投与中である。 ・クロザピニンによる治療体制が整い、H22年4月27日、クロザピニン適正使用委員会において、CPMS（クロザピニン患者モニタリングサービズ）登録機関として承認された。 ・静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。</p> <table border="1" data-bbox="446 716 534 1288"> <caption>クロザピニン投与患者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>13</td> <td>25</td> <td>32</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H30.9月末実績 H22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。 また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。 ・第2期中期目標期間（H26～30） 入院・外来患者心理教室8クール開催 参加者延230名（H30.3.31現在）</p> <table border="1" data-bbox="750 716 837 1288"> <caption>心理教育参加者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>34</td> <td>54</td> <td>172</td> <td>206</td> <td>230</td> <td>128</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="837 716 925 1288"> <caption>心理教育研修会参加者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>41</td> <td>102</td> <td>66</td> <td>142</td> <td>155</td> <td>59</td> </tr> </tbody> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	患者数	13	25	32	39	44	53	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	参加者数	34	54	172	206	230	128	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	参加者数	41	102	66	142	155	59	<p>A</p> <p>他の医療機関では対応困難な難治性の統合失調症に高い効果を示す先端薬物療法を積極的に実施している。</p>
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
患者数	13	25	32	39	44	53																																								
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
参加者数	34	54	172	206	230	128																																								
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
参加者数	41	102	66	142	155	59																																								
<p>○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築</p> <p>43</p>	<p>①・在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポーター体制による退院後の地域生活を支援する。</p> <p>こころ</p>	<p>・H21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。 H22年2月の支援開始以来延べ23名の支援活動を実施し、うち11名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了。 H30年9月末現在、外来患者8名、入院患者1名の支援を継続している。</p> <table border="1" data-bbox="1085 784 1212 1288"> <caption>ACT支援状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>外転</td> <td colspan="6">死因による定額申請、ケアマネアセスメント</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td colspan="6">多職種による認知療法、心理療法、グループワーク</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	外来	6人	6人	5人	7人	9人	8人	入院	2人	1人	2人	0人	0人	1人	外転	死因による定額申請、ケアマネアセスメント						入院	多職種による認知療法、心理療法、グループワーク						<p>A</p> <p>在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポーター体制により退院後の地域生活を支援している。</p>								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
外来	6人	6人	5人	7人	9人	8人																																								
入院	2人	1人	2人	0人	0人	1人																																								
外転	死因による定額申請、ケアマネアセスメント																																													
入院	多職種による認知療法、心理療法、グループワーク																																													
<p>○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与</p> <p>44</p>	<p>①・医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。</p> <p>こころ</p>	<p>・H30.9月末実績 ・H21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、H23年3月末には12床への増床が完了した。 ・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、H23年8月以降ほぼ満床の状態が続いており、高い利用率で推移している。</p> <table border="1" data-bbox="1372 784 1468 1288"> <caption>医療観察法指定の稼働状況 (単位:床・%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>稼働利用率(%)</td> <td>94.1</td> <td>97.3</td> <td>97.4</td> <td>99.1</td> <td>96.9</td> <td>99.1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	稼働利用率(%)	94.1	97.3	97.4	99.1	96.9	99.1	<p>A</p> <p>年間を通じて満床に近い状態が続いており、医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮している。</p>																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																																								
稼働利用率(%)	94.1	97.3	97.4	99.1	96.9	99.1																																								

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価	説明																																																																																																																																																																																				
<p>1 (3) (ウ)</p> <p>県立子ども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に 対する高度・専門医療やハイリスク妊婦 に対する高度・専門医療を提供する。 県民に提供する医療&lt;業務の予定量&gt; 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 105,234人 入院患者 81,038人</p>	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																				
<p>1 (3) (ウ)</p> <p>小児重症心疾患患者に対し、24時間を 通して高度な専門的治療を提供する体 制的充実及び小児心疾患治療の先進的 な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ24時間対応に よる専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療センターに対す る教育体制の充実や小児集中治療室 (PICU)、新生児集中治療室(NICU)及 び循環器集中治療室(CCU)の相互研 修の実施を通じた治療レベルの向上 ③小児用補助人工心臓装置の活用 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診 断の実施 ⑤ハイブリッド手術の適用拡大</p>	<p>45</p> <p>子ども</p> <p>①・心臓血管外科、循環器科の連 携による専門治療と、術後の集中 治療を行うCCUを充実させ、循環器 センターの体制を維持・充実させ る。 ②・新生児科(NICU)・小児 集中治療科(PICU)と共同で カレンスを実施し、より研 究効果をあげ、治療レベルの向上 を図る。 ③・補助人工心臓装置の活用を 図る。 ④・心エコー画像の遠隔診断を維 続実施する。 ⑤・ハイブリッド手術の小児への 適用症例拡大を検討する。</p>	<p>・H28年に設置した循環器病棟に重症患者対応病室は、順調に運用されてい る。 ・H29年1月に自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小 児用補助人工心臓を導入し、現在も稼動中である。</p> <p>CCU稼働率 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>3,307</td><td>3,553</td><td>3,745</td><td>3,297</td><td>2,939</td><td>1,503</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>90.6</td><td>87.2</td><td>85.3</td><td>87.4</td><td>80.5</td><td>82.1</td></tr> </table> <p>心臓カテーテル治療実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>実施件数</td><td>121</td><td>133</td><td>156</td><td>170</td><td>200</td><td>86</td></tr> </table> <p>ハイブリッド手術実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>件数</td><td>—</td><td>—</td><td>6</td><td>12</td><td>12</td><td>6</td></tr> </table> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>施設数</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>症例数</td><td>15</td><td>15</td><td>9</td><td>7</td><td>5</td><td>7</td></tr> </table> <p>周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>研修会等回数</td><td>6</td><td>6</td><td>14</td><td>10</td><td>9</td><td>2</td></tr> <tr><td>参加者数</td><td>188</td><td>158</td><td>743</td><td>637</td><td>439</td><td>50</td></tr> </table> <p>NICU診療実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>5,444</td><td>5,410</td><td>5,927</td><td>6,411</td><td>6,311</td><td>2,861</td></tr> <tr><td>病棟稼働率</td><td>99.4</td><td>98.8</td><td>96.3</td><td>97.6</td><td>96.1</td><td>86.9</td></tr> </table> <p>NICU診療実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>5,014</td><td>4,863</td><td>4,679</td><td>4,855</td><td>4,536</td><td>2,147</td></tr> <tr><td>病棟稼働率</td><td>76.3</td><td>74.0</td><td>71.0</td><td>73.9</td><td>69.0</td><td>65.2</td></tr> </table> <p>新生児出生体重大き別入院患者実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>体重(kg)</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>7</td><td>7</td><td>3</td></tr> <tr><td>500未満</td><td>33</td><td>33</td><td>46</td><td>26</td><td>36</td><td>28</td></tr> <tr><td>500-1,000</td><td>33</td><td>48</td><td>44</td><td>36</td><td>22</td><td>28</td></tr> <tr><td>1,000-1,500</td><td>166</td><td>148</td><td>160</td><td>144</td><td>143</td><td>60</td></tr> <tr><td>1,500以上</td><td>250</td><td>242</td><td>225</td><td>209</td><td>202</td><td>94</td></tr> <tr><td>合計</td><td>500</td><td>485</td><td>480</td><td>468</td><td>438</td><td>183</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	2,939	1,503	病床稼働率	90.6	87.2	85.3	87.4	80.5	82.1	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	実施件数	121	133	156	170	200	86	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	—	—	6	12	12	6	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	15	9	7	5	7	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	研修会等回数	6	6	14	10	9	2	参加者数	188	158	743	637	439	50	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	2,861	病棟稼働率	99.4	98.8	96.3	97.6	96.1	86.9	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	2,147	病棟稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	65.2	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	体重(kg)	3	2	3	7	7	3	500未満	33	33	46	26	36	28	500-1,000	33	48	44	36	22	28	1,000-1,500	166	148	160	144	143	60	1,500以上	250	242	225	209	202	94	合計	500	485	480	468	438	183	<p>・地域医療機関を連携とした研修会、検 討会を定期的に開催し、地域の周産期医 療のレベルアップを図っている。 ・NICUの入院患者数は一定の水 準にある。 ・他の医療機関では対応が困難な超低出 生体重児、極低出生体重児を数多く受け 入れている。 ・H30年9月には、これまでの産科医療 への貢献が認められ、産科医療功労者 生労働大臣表彰を受けた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
入院患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	2,939	1,503																																																																																																																																																																																			
病床稼働率	90.6	87.2	85.3	87.4	80.5	82.1																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
実施件数	121	133	156	170	200	86																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
件数	—	—	6	12	12	6																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
施設数	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																																																			
症例数	15	15	9	7	5	7																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
研修会等回数	6	6	14	10	9	2																																																																																																																																																																																			
参加者数	188	158	743	637	439	50																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
入院患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	2,861																																																																																																																																																																																			
病棟稼働率	99.4	98.8	96.3	97.6	96.1	86.9																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
入院患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	2,147																																																																																																																																																																																			
病棟稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	65.2																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
体重(kg)	3	2	3	7	7	3																																																																																																																																																																																			
500未満	33	33	46	26	36	28																																																																																																																																																																																			
500-1,000	33	48	44	36	22	28																																																																																																																																																																																			
1,000-1,500	166	148	160	144	143	60																																																																																																																																																																																			
1,500以上	250	242	225	209	202	94																																																																																																																																																																																			
合計	500	485	480	468	438	183																																																																																																																																																																																			
<p>地域の医療機関と連携したハイリスク 胎児・妊婦を早期に把握、治療するた めの一貫した医療システムの維持・充 実と新生児に対する高度な専門的治 療を提供する体制の拡充 ①すべてのハイリスク出産に対応でき るシステム作り ②先天異常の出生超音波診断や、出 生後の管理・処置のための機器整備 ③新生児集中治療室(NICU)における低 侵襲手術の実施</p>	<p>46</p> <p>子ども</p> <p>①・地域の産科医療機関との前 方・後方連携を更に強化、症例検 討会・研修会を通じ産科医の診断 能力向上を図る。 ②・最新式の超音波診断装置を導 入する。 ③・必要に応じNICU内での手 術を継続実施する。</p>	<p>・H28年に設置した循環器病棟に重症患者対応病室は、順調に運用されてい る。 ・H29年1月に自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小 児用補助人工心臓を導入し、現在も稼動中である。</p> <p>CCU稼働率 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>3,307</td><td>3,553</td><td>3,745</td><td>3,297</td><td>2,939</td><td>1,503</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>90.6</td><td>87.2</td><td>85.3</td><td>87.4</td><td>80.5</td><td>82.1</td></tr> </table> <p>心臓カテーテル治療実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>実施件数</td><td>121</td><td>133</td><td>156</td><td>170</td><td>200</td><td>86</td></tr> </table> <p>ハイブリッド手術実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>件数</td><td>—</td><td>—</td><td>6</td><td>12</td><td>12</td><td>6</td></tr> </table> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>施設数</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>症例数</td><td>15</td><td>15</td><td>9</td><td>7</td><td>5</td><td>7</td></tr> </table> <p>周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>研修会等回数</td><td>6</td><td>6</td><td>14</td><td>10</td><td>9</td><td>2</td></tr> <tr><td>参加者数</td><td>188</td><td>158</td><td>743</td><td>637</td><td>439</td><td>50</td></tr> </table> <p>NICU診療実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>5,444</td><td>5,410</td><td>5,927</td><td>6,411</td><td>6,311</td><td>2,861</td></tr> <tr><td>病棟稼働率</td><td>99.4</td><td>98.8</td><td>96.3</td><td>97.6</td><td>96.1</td><td>86.9</td></tr> </table> <p>NICU診療実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>5,014</td><td>4,863</td><td>4,679</td><td>4,855</td><td>4,536</td><td>2,147</td></tr> <tr><td>病棟稼働率</td><td>76.3</td><td>74.0</td><td>71.0</td><td>73.9</td><td>69.0</td><td>65.2</td></tr> </table> <p>新生児出生体重大き別入院患者実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年9月末</th></tr> <tr><td>体重(kg)</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>7</td><td>7</td><td>3</td></tr> <tr><td>500未満</td><td>33</td><td>33</td><td>46</td><td>26</td><td>36</td><td>28</td></tr> <tr><td>500-1,000</td><td>33</td><td>48</td><td>44</td><td>36</td><td>22</td><td>28</td></tr> <tr><td>1,000-1,500</td><td>166</td><td>148</td><td>160</td><td>144</td><td>143</td><td>60</td></tr> <tr><td>1,500以上</td><td>250</td><td>242</td><td>225</td><td>209</td><td>202</td><td>94</td></tr> <tr><td>合計</td><td>500</td><td>485</td><td>480</td><td>468</td><td>438</td><td>183</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	2,939	1,503	病床稼働率	90.6	87.2	85.3	87.4	80.5	82.1	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	実施件数	121	133	156	170	200	86	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	—	—	6	12	12	6	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	15	9	7	5	7	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	研修会等回数	6	6	14	10	9	2	参加者数	188	158	743	637	439	50	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	2,861	病棟稼働率	99.4	98.8	96.3	97.6	96.1	86.9	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	2,147	病棟稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	65.2	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	体重(kg)	3	2	3	7	7	3	500未満	33	33	46	26	36	28	500-1,000	33	48	44	36	22	28	1,000-1,500	166	148	160	144	143	60	1,500以上	250	242	225	209	202	94	合計	500	485	480	468	438	183	<p>・地域医療機関を連携とした研修会、検 討会を定期的に開催し、地域の周産期医 療のレベルアップを図っている。 ・NICUの入院患者数は一定の水 準にある。 ・他の医療機関では対応が困難な超低出 生体重児、極低出生体重児を数多く受け 入れている。 ・H30年9月には、これまでの産科医療 への貢献が認められ、産科医療功労者 生労働大臣表彰を受けた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
入院患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	2,939	1,503																																																																																																																																																																																			
病床稼働率	90.6	87.2	85.3	87.4	80.5	82.1																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
実施件数	121	133	156	170	200	86																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
件数	—	—	6	12	12	6																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
施設数	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																																																			
症例数	15	15	9	7	5	7																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
研修会等回数	6	6	14	10	9	2																																																																																																																																																																																			
参加者数	188	158	743	637	439	50																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
入院患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	2,861																																																																																																																																																																																			
病棟稼働率	99.4	98.8	96.3	97.6	96.1	86.9																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
入院患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	2,147																																																																																																																																																																																			
病棟稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	65.2																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																			
体重(kg)	3	2	3	7	7	3																																																																																																																																																																																			
500未満	33	33	46	26	36	28																																																																																																																																																																																			
500-1,000	33	48	44	36	22	28																																																																																																																																																																																			
1,000-1,500	166	148	160	144	143	60																																																																																																																																																																																			
1,500以上	250	242	225	209	202	94																																																																																																																																																																																			
合計	500	485	480	468	438	183																																																																																																																																																																																			



第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																											
<p>小児がん診療の重篤拠点病院として、高度な集学的治療への積極的な取組</p> <p>①小児がんの集学的治療推進、セカンダリがん拠点病院としての機能強化</p> <p>②院内がん登録の推進</p> <p>③県立静岡がんセンターとの連携強化</p>	47	<p>子ども</p> <p>①②・静岡小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。</p> <p>①②・小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、診療の更なる充実を図る。</p> <p>③・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。</p>	<p>血液腫瘍科延患者数実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度9月末</th></tr> <tr><td>入院</td><td>7,032</td><td>6,947</td><td>9,613</td><td>8,301</td><td>7,977</td><td>4,337</td></tr> <tr><td>外来</td><td>3,645</td><td>3,396</td><td>3,533</td><td>3,691</td><td>3,711</td><td>1,860</td></tr> <tr><td>造血幹細胞移植</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>区 分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度9月末</td></tr> <tr><td>骨髄移植</td><td>9</td><td>9</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>臍帯血</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>自家末梢血</td><td>2</td><td>2</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td></tr> <tr><td>同種末梢血</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>計</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>11</td><td>10</td><td>7</td></tr> </table> <p>小児がん登録件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度9月末</th></tr> <tr><td>登録件数</td><td>12</td><td>57</td><td>46</td><td>61</td><td>58</td><td>45</td></tr> </table> <p>・概ね2ヶ月に1回県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施した。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	4,337	外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	1,860	造血幹細胞移植							区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	骨髄移植	9	9	4	4	2	1	臍帯血	1	1	0	2	1	1	自家末梢血	2	2	8	5	7	4	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	10	7	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	登録件数	12	57	46	61	58	45	<p>説明</p> <p>・静岡小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上を受入れ、固形がんについても脳神経外科等との連携のもと対応している。</p> <p>・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを行い、連携を図っている。</p>							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																																									
入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	4,337																																																																																									
外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	1,860																																																																																									
造血幹細胞移植																																																																																															
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																																									
骨髄移植	9	9	4	4	2	1																																																																																									
臍帯血	1	1	0	2	1	1																																																																																									
自家末梢血	2	2	8	5	7	4																																																																																									
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																																																																									
計	13	13	13	11	10	7																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																																									
登録件数	12	57	46	61	58	45																																																																																									
<p>24時間を通して重篤な小児救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備</p> <p>①院内各専門領域のバックアップによる。小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充</p> <p>②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力</p> <p>③小児救急専門スタッフの教育の充実</p>	48	<p>子ども</p> <p>①・PICU (小児集中治療センター) ・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。</p> <p>①・小児救命救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。</p> <p>③・院内の小児救急専門スタッフ (医師、看護師) 育成に努める。</p>	<p>PICU診療実績 (単位:人・%)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>2,568</td><td>2,502</td><td>2,565</td><td>2,462</td><td>2,390</td><td>1,268</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>84.9</td><td>85.4</td><td>87.6</td><td>84.3</td><td>81.8</td><td>85.9</td></tr> </table> <p>ER診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>1,424</td><td>1,734</td><td>1,716</td><td>1,338</td><td>1,299</td><td>675</td></tr> <tr><td>外来患者数</td><td>3,995</td><td>4,792</td><td>4,949</td><td>4,170</td><td>4,110</td><td>2,095</td></tr> </table> <p>ドクターヘリ搬送実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>56</td><td>70</td><td>45</td><td>35</td><td>34</td><td>17</td></tr> </table> <p>ドクターカー出動実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>369</td><td>313</td><td>291</td><td>298</td><td>268</td><td>137</td></tr> </table> <p>PICU配置医師・看護師 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度9月末</th></tr> <tr><td>医師 (常勤含む)</td><td>14</td><td>14</td><td>12</td><td>9</td><td>11</td><td>10</td></tr> <tr><td>看護師</td><td>32</td><td>34</td><td>31</td><td>30</td><td>32</td><td>31</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	入院患者数	2,568	2,502	2,565	2,462	2,390	1,268	病床稼働率	84.9	85.4	87.6	84.3	81.8	85.9	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	入院患者数	1,424	1,734	1,716	1,338	1,299	675	外来患者数	3,995	4,792	4,949	4,170	4,110	2,095	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	回数	56	70	45	35	34	17	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	回数	369	313	291	298	268	137	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	医師 (常勤含む)	14	14	12	9	11	10	看護師	32	34	31	30	32	31	<p>説明</p> <p>・小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れている。</p> <p>・ER開設以降、富士富士宮、志太榛原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。</p> <p>・PICU病棟に専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																																									
入院患者数	2,568	2,502	2,565	2,462	2,390	1,268																																																																																									
病床稼働率	84.9	85.4	87.6	84.3	81.8	85.9																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																																									
入院患者数	1,424	1,734	1,716	1,338	1,299	675																																																																																									
外来患者数	3,995	4,792	4,949	4,170	4,110	2,095																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																																									
回数	56	70	45	35	34	17																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																																									
回数	369	313	291	298	268	137																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																																									
医師 (常勤含む)	14	14	12	9	11	10																																																																																									
看護師	32	34	31	30	32	31																																																																																									
<p>②・地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主権により、救急医療・救急 (消防) 業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。</p>	49	<p>子ども</p> <p>②・地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に当院も参加した。</p>	<p>説明</p> <p>救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図っている。</p>																																																																																												



第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																									
I 2 医療に関する技術者(医師、看護師等 医療従事者)の研修を通じた育成と質 の向上	53	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業務運営に必要な人材の確保に努める。</li> </ul>	<p>総合</p> <p>総合病院正職員数(医師除く) 各年度4月1日時点(単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="279 757 427 1281"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th></tr> <tr><td>看護師</td><td>646</td><td>654</td><td>678</td><td>748</td><td>804</td><td>790</td></tr> <tr><td>医療技術者</td><td>184</td><td>196</td><td>215</td><td>211</td><td>208</td><td>215</td></tr> <tr><td>事務</td><td>38</td><td>41</td><td>49</td><td>51</td><td>52</td><td>52</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	看護師	646	654	678	748	804	790	医療技術者	184	196	215	211	208	215	事務	38	41	49	51	52	52	A 人材確保対策本部を設置し、キャリアバ ン隊による県外養成校の訪問や広報活動 の強化、看護師就学資金貸与制度の拡充等 の多岐にわたる新たな取組を導入し、積 極的な人材確保に努めた結果、30年度は 79名の看護師を確保した。													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																							
看護師	646	654	678	748	804	790																																							
医療技術者	184	196	215	211	208	215																																							
事務	38	41	49	51	52	52																																							
		<p>総合</p> <p>初期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="491 757 730 1281"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th></tr> <tr><td>1年生</td><td>19(2)</td><td>22(2)</td><td>20(2)</td><td>21(2)</td><td>22(2)</td><td>24(3)</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>18(3)</td><td>18(2)</td><td>22(2)</td><td>19(2)</td><td>21(2)</td><td>20(2)</td></tr> <tr><td>計</td><td>37(5)</td><td>40(4)</td><td>42(4)</td><td>40(4)</td><td>43(4)</td><td>44(5)</td></tr> </table> <p>※( )うち自治医科大学出身者</p> <p>後期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="651 757 730 1281"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th></tr> <tr><td>人数</td><td>42</td><td>50</td><td>54</td><td>58</td><td>50</td><td>46</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	24(3)	2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)	計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	44(5)	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	42	50	54	58	50	46	B H30年度は初期臨床研修医1年生24名、2年 生20名の合計44名を確保した。 H31年度に向けては、初期臨床研修医1年 生20名、2年生23名の合計43名を確保して おり、今後2次募集等も行う予定。 後期研修医は10月より専門研修プログラム への登録開始となっており、動向を随時確認 している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																							
1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	24(3)																																							
2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)																																							
計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	44(5)																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																							
人数	42	50	54	58	50	46																																							
	54	<p>こころ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修医の確保に努める。</li> </ul>	<p>こころ</p> <p>後期研修医数 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="817 721 896 1272"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th></tr> <tr><td>人数</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	3	2	2	4	4	2	A 研修医については、計画どおり受け入 れている。 新専門医制度の研修プログラムによる 研修を行っている。																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																							
人数	3	2	2	4	4	2																																							
		<p>こども</p> <p>後期研修医数 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="992 721 1072 1272"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th></tr> <tr><td>人数</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>16</td><td>15</td><td>14</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	14	15	16	16	15	14	A- 後期研修医は定員15名から1名減の14 名を受け入れている。 新専門医制度へも対応し、新プログラ ムで研修を行っている。																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																							
人数	14	15	16	16	15	14																																							

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																																																																																																											
	55	<p>・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。</p>	<p>第2期中期目標期間(H26～30)看護師については、定時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じて採用も合わせて行った。さらに優秀な人材確保のためコマディカルにおいてアシエイトの公募試験を開始した。</p> <p>正規職員の確保状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>226</td> <td>230</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> <td>268</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>1,179</td> <td>1,221</td> <td>1,251</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> <td>1,344</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>289</td> <td>304</td> <td>327</td> <td>320</td> <td>315</td> <td>319</td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>105</td> <td>109</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>118</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,801</td> <td>1,869</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> <td>2,060</td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>医 師</td> <td>123</td> <td>127</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>789</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>215</td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>992</td> <td>1,021</td> <td>1,080</td> <td>1,138</td> <td>1,224</td> <td>1,224</td> </tr> <tr> <td>医 師</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>113</td> <td>114</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>162</td> <td>167</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>医 師</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>419</td> <td>452</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> <td>434</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>81</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>619</td> <td>652</td> <td>669</td> <td>654</td> <td>650</td> <td>630</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	医 師	226	230	241	245	260	268	歯科医師	2	5	4	5	4	4	看護 師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,344	医療技術	289	304	327	320	315	319	事 務	105	109	118	119	118	125	計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,060	看護 師	1	1	2	2	2	2	医療技術	1	1	1	1	1	1	事 務	26	27	28	27	25	32	計	28	29	31	29	27	34	医 師	123	127	135	144	157	164	歯科医師	1	3	3	4	3	3	看護 師	646	654	678	748	804	789	医療技術	184	196	215	211	208	215	事 務	38	41	49	51	52	53	計	992	1,021	1,080	1,138	1,224	1,224	医 師	12	13	12	12	12	14	歯科医師							看護 師	113	114	110	114	115	119	医療技術	24	26	26	26	26	26	事 務	13	13	13	13	13	13	計	162	167	161	165	166	172	医 師	91	90	94	89	91	90	歯科医師	1	1	1	1	1	1	看護 師	419	452	461	453	449	434	医療技術	80	81	85	83	81	78	事 務	28	28	28	28	28	27	計	619	652	669	654	650	630	<p>説明</p> <p>看護師試験については、年3回の定時募集に加えて、経験者随時募集を年8回実施し、年間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報(WEB、情報誌等)、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がっている。</p> <p>A コマディカルについては、必要な職種について適時、募集を実施しており、栄養士、言語聴覚士についてアシエイトの公募試験を開始し優秀な人材の確保に努めた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																																									
医 師	226	230	241	245	260	268																																																																																																																																																																																																									
歯科医師	2	5	4	5	4	4																																																																																																																																																																																																									
看護 師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,344																																																																																																																																																																																																									
医療技術	289	304	327	320	315	319																																																																																																																																																																																																									
事 務	105	109	118	119	118	125																																																																																																																																																																																																									
計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,060																																																																																																																																																																																																									
看護 師	1	1	2	2	2	2																																																																																																																																																																																																									
医療技術	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																									
事 務	26	27	28	27	25	32																																																																																																																																																																																																									
計	28	29	31	29	27	34																																																																																																																																																																																																									
医 師	123	127	135	144	157	164																																																																																																																																																																																																									
歯科医師	1	3	3	4	3	3																																																																																																																																																																																																									
看護 師	646	654	678	748	804	789																																																																																																																																																																																																									
医療技術	184	196	215	211	208	215																																																																																																																																																																																																									
事 務	38	41	49	51	52	53																																																																																																																																																																																																									
計	992	1,021	1,080	1,138	1,224	1,224																																																																																																																																																																																																									
医 師	12	13	12	12	12	14																																																																																																																																																																																																									
歯科医師																																																																																																																																																																																																															
看護 師	113	114	110	114	115	119																																																																																																																																																																																																									
医療技術	24	26	26	26	26	26																																																																																																																																																																																																									
事 務	13	13	13	13	13	13																																																																																																																																																																																																									
計	162	167	161	165	166	172																																																																																																																																																																																																									
医 師	91	90	94	89	91	90																																																																																																																																																																																																									
歯科医師	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																									
看護 師	419	452	461	453	449	434																																																																																																																																																																																																									
医療技術	80	81	85	83	81	78																																																																																																																																																																																																									
事 務	28	28	28	28	28	27																																																																																																																																																																																																									
計	619	652	669	654	650	630																																																																																																																																																																																																									

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価 説明																																																																																																																				
	56	<p>行動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職説明会への参加や多角的な広報の実施などにより、必要な職員の確保を目指す。</li> </ul>	<p>業務の実績</p> <p>・H30.9月末実績 看護学生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科 (静岡)</td> <td>278</td> <td>196</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ (浜松)</td> <td>183</td> <td>54</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>キャリアタスク看護 (東海)</td> <td>270</td> <td>13</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>マイナビ (静岡)</td> <td>47</td> <td>36</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>81</td> <td>135</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td>859</td> <td>434</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>133</td> <td>112</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>268</td> <td>59</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリスティーフ大学</td> <td>156</td> <td>38</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>120</td> <td>30</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>東部看護専門学校</td> <td>240</td> <td>100</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td>961</td> <td>383</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,820</td> <td>817</td> <td>170</td> </tr> </tbody> </table> <p>・第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> <th>30年度9月末計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>970</td> <td>810</td> <td>949</td> <td>1,012</td> <td>1,378</td> <td>859</td> <td>859</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>590</td> <td>569</td> <td>639</td> <td>764</td> <td>842</td> <td>961</td> <td>961</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>236</td> <td>257</td> <td>254</td> <td>200</td> <td>360</td> <td>434</td> <td>434</td> </tr> <tr> <td>訪問者数</td> <td>198</td> <td>198</td> <td>293</td> <td>286</td> <td>366</td> <td>383</td> <td>383</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>不明</td> <td>不明</td> <td>不明</td> <td>3</td> <td>58</td> <td>71</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>48</td> <td>86</td> <td>99</td> <td>99</td> </tr> </tbody> </table>	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科 (静岡)	278	196	54	ナースナビ (浜松)	183	54	2	キャリアタスク看護 (東海)	270	13	1	マイナビ (静岡)	47	36	6		81	135	8	業者計	859	434	71	静岡県立大学	133	112	38	常葉大学	268	59	27	聖隷クリスティーフ大学	156	38	7	順天堂大学	120	30	4	静岡市立看護専門学校	44	44	11	東部看護専門学校	240	100	12	養成校計	961	383	99	計	1,820	817	170		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	30年度9月末計	来場者数	970	810	949	1,012	1,378	859	859	業者	590	569	639	764	842	961	961	養成校	236	257	254	200	360	434	434	訪問者数	198	198	293	286	366	383	383	業者	不明	不明	不明	3	58	71	71	養成校	16	17	17	48	86	99	99	<p>説明</p> <p>企業主催の説明会については、県内・県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談し、病院機構をPRすることができた。 また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、現在の学生の動向等をつかむことができた。</p> <p>A</p>
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																					
ナース専科 (静岡)	278	196	54																																																																																																																					
ナースナビ (浜松)	183	54	2																																																																																																																					
キャリアタスク看護 (東海)	270	13	1																																																																																																																					
マイナビ (静岡)	47	36	6																																																																																																																					
	81	135	8																																																																																																																					
業者計	859	434	71																																																																																																																					
静岡県立大学	133	112	38																																																																																																																					
常葉大学	268	59	27																																																																																																																					
聖隷クリスティーフ大学	156	38	7																																																																																																																					
順天堂大学	120	30	4																																																																																																																					
静岡市立看護専門学校	44	44	11																																																																																																																					
東部看護専門学校	240	100	12																																																																																																																					
養成校計	961	383	99																																																																																																																					
計	1,820	817	170																																																																																																																					
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	30年度9月末計																																																																																																																	
来場者数	970	810	949	1,012	1,378	859	859																																																																																																																	
業者	590	569	639	764	842	961	961																																																																																																																	
養成校	236	257	254	200	360	434	434																																																																																																																	
訪問者数	198	198	293	286	366	383	383																																																																																																																	
業者	不明	不明	不明	3	58	71	71																																																																																																																	
養成校	16	17	17	48	86	99	99																																																																																																																	
57	<p>行動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師修学資金制度の積極的広報をし、活用推進により、更なる看護師確保を目指す。</li> </ul>	<p>業務の実績</p> <p>看護師修学資金の状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> <th>30年度9月末計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>114</td> <td>35</td> <td>507</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>52</td> <td>80</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>163</td> <td>182</td> <td>702</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲6</td> <td>▲12</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲9</td> <td>▲5</td> <td>▲48</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>119</td> <td>142</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>268</td> <td>212</td> <td>1,161</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>38</td> <td>33</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>63</td> <td>62</td> <td>312</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	30年度9月末計	決定	73	74	123	88	114	35	507	継続	52	80	99	126	163	182	702	取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲5	▲48	貸与計	119	142	211	209	268	212	1,161	採用	38	33	76	40	63	62	312	<p>説明</p> <p>一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。 効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。</p> <p>A</p>																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	30年度9月末計																																																																																																																	
決定	73	74	123	88	114	35	507																																																																																																																	
継続	52	80	99	126	163	182	702																																																																																																																	
取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲5	▲48																																																																																																																	
貸与計	119	142	211	209	268	212	1,161																																																																																																																	
採用	38	33	76	40	63	62	312																																																																																																																	

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																														
	58	<p>・看護部幹部や事務部幹部による養成校の訪問を実施する。</p>	<p>・H30.9月末実績 看護師確保キャラバン隊が県外養成校6件を訪問した。引き続き、来年度採用に向けて実施する予定である。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～H30） 看護師確保担当を本部事務部に設置し、H26年度県内19校、県外93校、27年度県内21校、県外220校の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。</p> <p>H27年度からは、看護師人材確保会議において、看護師確保キャラバンを創設し、機構幹部（院長代理、副院長兼看護部長、副看護部長等）が、県外養成校を訪問した。</p> <p>看護師確保キャラバン隊の状況（単位：校）</p> <table border="1" data-bbox="518 772 805 1321"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>山形県</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>新潟県</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>石川県</td><td>11</td><td>0</td><td>8</td><td>0</td><td>19</td></tr> <tr><td>山梨県</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>長野県</td><td>6</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>岐阜県</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>3</td><td>29</td></tr> <tr><td>三重県</td><td>10</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>22</td></tr> <tr><td>徳島県</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>0</td><td>7</td></tr> <tr><td>佐賀県</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td></tr> <tr><td>鹿児島県</td><td>0</td><td>11</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>沖縄県</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td><td>0</td><td>20</td></tr> <tr><td>計</td><td>63</td><td>47</td><td>41</td><td>6</td><td>157</td></tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	30年度9月末	計	山形県	10	0	0	0	10	新潟県	0	10	0	0	10	石川県	11	0	8	0	19	山梨県	4	2	5	0	11	長野県	6	4	1	0	11	岐阜県	10	7	9	3	29	三重県	10	5	4	3	22	徳島県	0	0	7	0	7	佐賀県	7	0	0	0	7	鹿児島県	0	11	0	0	11	沖縄県	5	8	7	0	20	計	63	47	41	6	157	<p>看護師確保キャラバン隊が県内外の看護師養成校を訪問し、県立3病院等の特色や強み等をPRするとともに、各養成校の学生の就職状況等について情報を収集し、採用活動に活かすことができた。</p> <p>A</p>
	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	計																																																																													
山形県	10	0	0	0	10																																																																													
新潟県	0	10	0	0	10																																																																													
石川県	11	0	8	0	19																																																																													
山梨県	4	2	5	0	11																																																																													
長野県	6	4	1	0	11																																																																													
岐阜県	10	7	9	3	29																																																																													
三重県	10	5	4	3	22																																																																													
徳島県	0	0	7	0	7																																																																													
佐賀県	7	0	0	0	7																																																																													
鹿児島県	0	11	0	0	11																																																																													
沖縄県	5	8	7	0	20																																																																													
計	63	47	41	6	157																																																																													
59	<p>・看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイト研修等の受入れを推進する。</p>	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ（30年9月末）（単位：人）</p> <table border="1" data-bbox="885 761 1013 1310"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>総合</td><td>21</td><td>157</td><td>10</td><td>156</td><td>184</td><td>528</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>114</td><td>8</td><td>127</td></tr> <tr><td>こども</td><td>20</td><td>19</td><td>3</td><td>126</td><td>7</td><td>175</td></tr> <tr><td>計</td><td>45</td><td>177</td><td>13</td><td>396</td><td>199</td><td>830</td></tr> </tbody> </table> <p>・第2期中期期間（H26～30） ・総合では、学生用電子カルテ、デスク等実習環境を整備し、「急性期だからこそ」の看護、実習を通して、学生が魅力を感じる医療現場となるよう対応した。 ・こころでは、多くの実習生を受け入れ、精神科病院における看護のやりがい等を伝ええた。 ・こども病院では、H29年度に看護師確保用DVDをリニューアルし県内看護学校へ配付するなど、実習生の受入増進に活用している。</p>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	21	157	10	156	184	528	こころ	4	1	0	114	8	127	こども	20	19	3	126	7	175	計	45	177	13	396	199	830	<p>研修の受入に関しては、実習生の要請に応じた魅力的な研修体制を構築した。</p> <p>A</p>																																												
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																												
総合	21	157	10	156	184	528																																																																												
こころ	4	1	0	114	8	127																																																																												
こども	20	19	3	126	7	175																																																																												
計	45	177	13	396	199	830																																																																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																										
<p>① 医師の卒後臨床研修の充実・強化等                      ② 研修医に選ばれる良質な臨床研修指導病院として                      ③ 医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実                      ④ 県立総合病院メデイカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実                      ⑤ 複数病院との共同利用で合同一立、二次救命処置トレーニングの実施                      ⑥ 国際交流の推進                      ⑦ 認定看護士等の資格取得への支援                      ⑧ 看護学生等に対する魅力的な実習の提供                      ⑨ コメデイカル・事務職員の研修</p>	<p>60</p>	<p>○ 医師                      ① ②・医師の技術力の向上を目指すし、海外研修等を奨励する。                      ① ②・医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・ H30.9月末実績(総合)                      ・ 医師や研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。                      ・ 海外での学会発表実績 21件 (H30.9末時点)                      ・ 海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した</p> <table border="1"> <caption>(総合) 海外研修の実績 (H30年9月末) (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>国内</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州メソソフ外科・腔外科・内臓学術大会</td><td>2</td></tr> <tr><td>国際超音波内臓学術大会</td><td>2</td></tr> <tr><td>Cochlear Japan Surgeons' Workshop</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州腎臓学会・透析移植学術大会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国胸部疾患学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>中国透析血管通路経江アワード</td><td>2</td></tr> <tr><td>アジアスハート</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際磁気共鳴医学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際肝胆膵外科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器学会国際会議</td><td>2</td></tr> <tr><td>心臓血管カテーテル学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>臨床研修医 UCL A 研修</td><td>2</td></tr> <tr><td>計</td><td>23</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>海外での学会発表実績 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> <th>集計中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>区</td><td>5</td><td>27</td><td>26</td><td>45</td><td>32</td><td>23</td><td>21</td></tr> <tr><td>総合</td><td>20</td><td>32</td><td>45</td><td>36</td><td>33</td><td>集計中</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>・ 海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した。                      ・ 海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している</p> <table border="1"> <caption>海外研修の主な実績 (30年9月末) (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>総合</td><td>臨床研修医 UCL A 研修</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>海外学会 (米国胸部疾患学会他)</td><td>4</td></tr> <tr><td>ところ</td><td>—</td><td>0</td></tr> <tr><td>アメリカ心エコー学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>アメリカ胸部外科学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ小児科学会学術集会</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	国内	人数	日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議	1	欧州メソソフ外科・腔外科・内臓学術大会	2	国際超音波内臓学術大会	2	Cochlear Japan Surgeons' Workshop	1	欧州腎臓学会・透析移植学術大会	1	米国胸部疾患学会	3	中国透析血管通路経江アワード	2	アジアスハート	1	国際磁気共鳴医学会	2	オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会	1	国際肝胆膵外科学会	1	欧州皮膚科学・性病学会学術大会	1	欧州呼吸器学会国際会議	2	心臓血管カテーテル学会	2	臨床研修医 UCL A 研修	2	計	23	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	集計中	区	5	27	26	45	32	23	21	総合	20	32	45	36	33	集計中		区分	内容	人数	総合	臨床研修医 UCL A 研修	2		海外学会 (米国胸部疾患学会他)	4	ところ	—	0	アメリカ心エコー学会	3	アメリカ胸部外科学会	2	ヨーロッパ小児科学会学術集会	2	<p>A-</p> <p>医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。</p>														
国内	人数																																																																																													
日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議	1																																																																																													
欧州メソソフ外科・腔外科・内臓学術大会	2																																																																																													
国際超音波内臓学術大会	2																																																																																													
Cochlear Japan Surgeons' Workshop	1																																																																																													
欧州腎臓学会・透析移植学術大会	1																																																																																													
米国胸部疾患学会	3																																																																																													
中国透析血管通路経江アワード	2																																																																																													
アジアスハート	1																																																																																													
国際磁気共鳴医学会	2																																																																																													
オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会	1																																																																																													
国際肝胆膵外科学会	1																																																																																													
欧州皮膚科学・性病学会学術大会	1																																																																																													
欧州呼吸器学会国際会議	2																																																																																													
心臓血管カテーテル学会	2																																																																																													
臨床研修医 UCL A 研修	2																																																																																													
計	23																																																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	集計中																																																																																							
区	5	27	26	45	32	23	21																																																																																							
総合	20	32	45	36	33	集計中																																																																																								
区分	内容	人数																																																																																												
総合	臨床研修医 UCL A 研修	2																																																																																												
	海外学会 (米国胸部疾患学会他)	4																																																																																												
ところ	—	0																																																																																												
アメリカ心エコー学会	3																																																																																													
アメリカ胸部外科学会	2																																																																																													
ヨーロッパ小児科学会学術集会	2																																																																																													
<p>③・メデイカルスキルの活用を図る。</p>	<p>61</p>	<p>③・メデイカルスキルの活用を図る。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・ 第2期中期期間(H26~30)                      ・ 外部利用について、使用規程、料金規程を作成し、運用開始した。                      ・ H29には、先端医学棟の開設に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。                      ・ 新たに各種の高度なシミュレーター、模擬病棟、講義室を整備した。                      ・ 静岡県が推進する「ふじのくにバーチャルメデイカルカレッジ」に対応。</p> <table border="1"> <caption>メデイカルスキルセンター-総覧 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度9月末</th> </tr> <tr> <th>参加人数</th> <th>研修時間</th> <th>参加人数</th> <th>研修時間</th> <th>参加人数</th> <th>研修時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>医師</td><td>14</td><td>40</td><td>22</td><td>37</td><td>38</td><td>44</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>1,573</td><td>214</td><td>2,467</td><td>339</td><td>2,669</td><td>212</td></tr> <tr><td>研修時間</td><td>132</td><td>39</td><td>194</td><td>38</td><td>194</td><td>48</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>1,327</td><td>22</td><td>2,444</td><td>172</td><td>2,950</td><td>352</td></tr> <tr><td>研修時間</td><td>88</td><td>66</td><td>107</td><td>73</td><td>122</td><td>115</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>1,575</td><td>309</td><td>1,383</td><td>233</td><td>1,756</td><td>2,298</td></tr> <tr><td>研修時間</td><td>378</td><td>145</td><td>514</td><td>147</td><td>665</td><td>945</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>4,475</td><td>1,245</td><td>6,051</td><td>1,200</td><td>8,622</td><td>2,488</td></tr> <tr><td>研修時間</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>3,951</td><td>1,990</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>3,330</td><td>2,407</td></tr> <tr><td>研修時間</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>4,601</td><td>609</td></tr> </tbody> </table>	区分	28年度		29年度		30年度9月末		参加人数	研修時間	参加人数	研修時間	参加人数	研修時間	医師	14	40	22	37	38	44	参加人数	1,573	214	2,467	339	2,669	212	研修時間	132	39	194	38	194	48	参加人数	1,327	22	2,444	172	2,950	352	研修時間	88	66	107	73	122	115	参加人数	1,575	309	1,383	233	1,756	2,298	研修時間	378	145	514	147	665	945	参加人数	4,475	1,245	6,051	1,200	8,622	2,488	研修時間					3,951	1,990	参加人数					3,330	2,407	研修時間					4,601	609	<p>A</p> <p>H29年度の先端医学棟の開設に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行い、各種の高度なシミュレーターを導入し、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。</p>
区分	28年度		29年度		30年度9月末																																																																																									
	参加人数	研修時間	参加人数	研修時間	参加人数	研修時間																																																																																								
医師	14	40	22	37	38	44																																																																																								
参加人数	1,573	214	2,467	339	2,669	212																																																																																								
研修時間	132	39	194	38	194	48																																																																																								
参加人数	1,327	22	2,444	172	2,950	352																																																																																								
研修時間	88	66	107	73	122	115																																																																																								
参加人数	1,575	309	1,383	233	1,756	2,298																																																																																								
研修時間	378	145	514	147	665	945																																																																																								
参加人数	4,475	1,245	6,051	1,200	8,622	2,488																																																																																								
研修時間					3,951	1,990																																																																																								
参加人数					3,330	2,407																																																																																								
研修時間					4,601	609																																																																																								





第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																						
	65	⑦・臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ (30年9月末) (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>21</td> <td>157</td> <td>10</td> <td>156</td> <td>184</td> <td>528</td> <td></td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>114</td> <td>8</td> <td>127</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>3</td> <td>126</td> <td>7</td> <td>175</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>45</td> <td>177</td> <td>13</td> <td>396</td> <td>199</td> <td>830</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学生	看護生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	21	157	10	156	184	528		子ども	4	1	0	114	8	127		計	20	19	3	126	7	175		計	45	177	13	396	199	830		A																														
区分	医師	医学生	看護生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																			
総合	21	157	10	156	184	528																																																																				
子ども	4	1	0	114	8	127																																																																				
計	20	19	3	126	7	175																																																																				
計	45	177	13	396	199	830																																																																				
	66	⑧・研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	<p>職員研修参加者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>147</td> <td>144</td> <td>145</td> <td>136</td> <td>126</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>新規監督者研修</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>新任管理者・新任監督者研修</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>-</td> <td>34</td> <td>28</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション講座</td> <td>40</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>アソシエイト講座</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>11月予定</td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>18</td> <td>10月予定</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>12月予定</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	新規採用職員研修	147	144	145	136	126	125	新規採用職員研修	24	26	15	10	4	6	新規監督者研修	14	14	28	25	18	18	新任管理者・新任監督者研修	6	17	-	34	28	35	コミュニケーション講座	17	23	21	20	24	30	プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-	-	アソシエイト講座	-	-	-	23	20	11月予定	コーチング講座	32	32	28	32	18	10月予定	メンタルサポート講座	23	20	21	25	25	12月予定	A
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																				
新規採用職員研修	147	144	145	136	126	125																																																																				
新規採用職員研修	24	26	15	10	4	6																																																																				
新規監督者研修	14	14	28	25	18	18																																																																				
新任管理者・新任監督者研修	6	17	-	34	28	35																																																																				
コミュニケーション講座	17	23	21	20	24	30																																																																				
プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-	-																																																																				
アソシエイト講座	-	-	-	23	20	11月予定																																																																				
コーチング講座	32	32	28	32	18	10月予定																																																																				
メンタルサポート講座	23	20	21	25	25	12月予定																																																																				
<p>1 ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定</p> <p>2 医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備</p> <p>(2) 職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討</p> <p>職員が働きやすい施設等の環境整備</p> <p>県立こども病院院内保育所建替え</p>	67	<p>①・柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。</p>	<p>•H30.9月末実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護師の2交代制勤務については、H30年度9月末で総合病院15病棟、こころの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。</li> <li>看護師の夜勤専従については、3病院で試行を行っている。</li> <li>第2期中期目標期間(H26～30)</li> <li>法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。</li> <li>看護師の2交代制勤務については、労働組合との合意により試行を経て制度化し、H26年度以降も実施病棟を拡大した。</li> <li>看護師の夜勤専従については、労働組合との合意により試行を実施している。</li> <li>H28年度から新たにアソシエイト制度を創設し、優秀な有期職員の登用を進めている。</li> <li>看護師・事務・コメディカルの優秀な有期職員をアソシエイトに登用し人材確保を図った。</li> <li>H29年度から新たに採用した医師を対象に、初任給調整手当を廃止し、その原資を活用して、期間内の手術や外来等の診療実績を評価して支給する診療賞与を導入した。</li> </ul> <p>アソシエイト採用実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年9月末	看護師	5	1	-	事務	2	2	1	コメディカル	-	3	4	計	7	6	5	<p>看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図った。 看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となった。</p>																																																		
区分	28年度	29年度	30年9月末																																																																							
看護師	5	1	-																																																																							
事務	2	2	1																																																																							
コメディカル	-	3	4																																																																							
計	7	6	5																																																																							

第1 県民に対して提供するサービスの質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																							
	68	<p>②・医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。</p>	<p>補助職員の配置状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>31</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>66</td> <td>73</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>71</td> <td>88</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>74</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>118</td> <td>156</td> <td>153</td> <td>164</td> <td>165</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>42</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>44</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>50</td> <td>69</td> <td>75</td> <td>86</td> <td>93</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>100</td> <td>117</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>104</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>172</td> <td>210</td> <td>209</td> <td>221</td> <td>222</td> <td>223</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	医師事務補助	31	50	55	66	73	73	看護助手	71	88	81	80	74	73	コメディカル助手	16	18	17	18	18	19	小計	118	156	153	164	165	165	医師事務補助	1	2	2	2	2	2	看護助手	9	10	8	8	9	9	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	13	12	12	13	13	医師事務補助	18	18	18	18	18	19	看護助手	20	19	21	22	21	21	コメディカル助手	4	4	4	5	5	5	小計	42	41	44	45	44	45	医師事務補助	50	69	75	86	93	94	看護助手	100	117	110	110	104	103	コメディカル助手	22	24	24	24	25	26	小計	172	210	209	221	222	223	<p>医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。</p> <p>総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増やし、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。</p> <p>また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。</p>
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
医師事務補助	31	50	55	66	73	73																																																																																																																					
看護助手	71	88	81	80	74	73																																																																																																																					
コメディカル助手	16	18	17	18	18	19																																																																																																																					
小計	118	156	153	164	165	165																																																																																																																					
医師事務補助	1	2	2	2	2	2																																																																																																																					
看護助手	9	10	8	8	9	9																																																																																																																					
コメディカル助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																					
小計	12	13	12	12	13	13																																																																																																																					
医師事務補助	18	18	18	18	18	19																																																																																																																					
看護助手	20	19	21	22	21	21																																																																																																																					
コメディカル助手	4	4	4	5	5	5																																																																																																																					
小計	42	41	44	45	44	45																																																																																																																					
医師事務補助	50	69	75	86	93	94																																																																																																																					
看護助手	100	117	110	110	104	103																																																																																																																					
コメディカル助手	22	24	24	24	25	26																																																																																																																					
小計	172	210	209	221	222	223																																																																																																																					
69	<p>③・全職員を対象とした人事評価制度の試行を円滑に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績</li> <li>・県に準拠した人事評価制度を導入することを職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。</li> <li>・第2期中期目標期間(H26～30)</li> <li>・H26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。</li> <li>・試行対象職員 看護師監督者層 (看護部長、副看護部長、看護課部長)</li> <li>・H27年度は、対象をコマメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。</li> <li>・H28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロババー)の副主任以上とし、試行した。</li> </ul>	<p>勤務評価制度の試行については、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。</p> <p>県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意した。</p>																																																																																																																								
70	<p>④・就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績</li> <li>総合病院では、医師の就労環境の改善のため、ドクターズクラブをH30年8月にオープンした。H29年～30年には、医師確保対策を更に推進するため医師宿舍新設建設工事が着工され、H30年10月に完成予定である。院内保育所では、保育所運営協議会にて、事務局、委託先、利用者間で意見交換を行った。</li> <li>子ども病院院内保育所の建替工事については、H30年9月に着工し、H31年3月に竣工予定である。</li> <li>総合・子ども病院ともに、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を11、12月に実施する予定である。</li> <li>第2期中期目標期間(H26～30)</li> <li>総合病院では宿舍の大規模修繕(H26.27)、新看護師宿舍の建設(H27)を行い、院内保育所では、土曜日の保育時間延長(H26.10～)や、入所者へのインフルエンザ予防接種(H26～)を行った。</li> <li>このころの医療センターでは、H29年度から看護師宿舍の有効活用のため、総合病院看護師の入院希望者受入を開始している。</li> <li>子ども病院では、研修医宿舍(F棟)の改修(H28)を行った。</li> </ul>	<p>総合病院の医師宿舍新設建設、子ども病院院内保育所建替工事を着工し、院内施設の充実を図っている。ここでは、資産の有効活用への取り組みを開始した。引き続き、就労環境の向上に取り組みていく。</p>																																																																																																																								
71	<p>⑤・院内保育所建替え工事を実施し運営方針を策定する。</p>	<p>運営方針が決定され、H30年9月に建設に着工し、H30年度末の竣工を予定している。</p> <p>H30年9月28日時点で工事の進捗状況は2.22%である。</p>	<p>運営方針を決定し、計画を着実に進めている。</p>																																																																																																																								

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																														
知識や技術の普及 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ②認定看護師等の資格保有者の活用の開放 ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放	72	①・研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	<p>業務の実績</p> <p>・H30.9月末実績                      医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30)                      ・研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。                      ・医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。</p> <table border="1" data-bbox="446 716 829 1276"> <caption>(総合) 海外研修の実績 (H30年9月末) (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際超音波内視鏡学術大会</td><td>2</td></tr> <tr><td>Cochlear Japan Surgeons' Workshop</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州腎臓学会・透析移植学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国胸部疾患学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>中国透視血管通路钱江フォーラム</td><td>2</td></tr> <tr><td>アジアスパスパイン</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際磁気共鳴医学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際肝胆膵外科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州皮膚科学・性病学学術大会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器科学会国際会議</td><td>2</td></tr> <tr><td>心臓血管カテーテル学会議</td><td>2</td></tr> <tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>2</td></tr> <tr><td>計</td><td>23</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="845 716 917 1276"> <caption>学会発表実績 (国内外) (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表数</td> <td>412</td> <td>460</td> <td>472</td> <td>578</td> <td>600</td> <td>314</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="949 716 1021 1276"> <caption>学会発表実績 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学会発表件数</td> <td>22</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	内容	人数	日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議	1	欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会	1	国際超音波内視鏡学術大会	2	Cochlear Japan Surgeons' Workshop	1	欧州腎臓学会・透析移植学会	1	米国胸部疾患学会	3	中国透視血管通路钱江フォーラム	2	アジアスパスパイン	1	国際磁気共鳴医学会	2	オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会	1	国際肝胆膵外科学会	1	欧州皮膚科学・性病学学術大会	1	欧州呼吸器科学会国際会議	2	心臓血管カテーテル学会議	2	臨床研修医UCLA研修	2	計	23	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	発表数	412	460	472	578	600	314	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	学会発表件数	22	3	8	10	10	4	<p>説明</p> <p>A                      医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加し、研究表を行った。</p>
内容	人数																																																																	
日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議	1																																																																	
欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会	1																																																																	
国際超音波内視鏡学術大会	2																																																																	
Cochlear Japan Surgeons' Workshop	1																																																																	
欧州腎臓学会・透析移植学会	1																																																																	
米国胸部疾患学会	3																																																																	
中国透視血管通路钱江フォーラム	2																																																																	
アジアスパスパイン	1																																																																	
国際磁気共鳴医学会	2																																																																	
オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会	1																																																																	
国際肝胆膵外科学会	1																																																																	
欧州皮膚科学・性病学学術大会	1																																																																	
欧州呼吸器科学会国際会議	2																																																																	
心臓血管カテーテル学会議	2																																																																	
臨床研修医UCLA研修	2																																																																	
計	23																																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																												
発表数	412	460	472	578	600	314																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																												
学会発表件数	22	3	8	10	10	4																																																												
	72	①・研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	<p>業務の実績</p> <p>・研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。</p> <table border="1" data-bbox="1133 739 1189 1276"> <caption>学会発表実績 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業件数</td> <td>451</td> <td>466</td> <td>468</td> <td>496</td> <td>470</td> <td>集計中</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	事業件数	451	466	468	496	470	集計中	<p>A                      学会や研修会等へ積極的に参加し、研究発表を行っている。</p> <p>A                      各職員が学会や研修会等に参加して知識や技術を習得することと、病院全体のレベルアップに寄与した。</p>																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																												
事業件数	451	466	468	496	470	集計中																																																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																														
	73	<p>②・院内における資格取得を支援し、活用を促進する。</p>	<p>•H30.9月末実績</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30)看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のリベルアップを図る。</p> <p>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="367 58 727 501"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>29</td> <td>37</td> <td>16</td> <td>57</td> <td>11</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>54</td> <td>21</td> <td>68</td> <td>24</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	看護師	10	10	7	27	8	0	コメディカル	4	13	4	11	12	0	事務	0	1	0	0	0	0	計	14	24	11	38	20	0	看護師	0	0	0	0	0	0	コメディカル	1	0	0	0	0	0	事務	0	0	1	0	0	0	計	1	0	1	0	0	0	看護師	19	27	9	30	3	4	コメディカル	1	3	0	0	0	0	事務	0	0	0	0	1	0	計	20	30	9	30	4	4	本部	2	0	0	0	0	0	看護師	29	37	16	57	11	4	コメディカル	6	16	4	11	12	0	事務	2	1	1	0	1	0	計	37	54	21	68	24	4	<p>A</p> <p>資格等取得助成制度は、H24年度から開始し、毎年度一定数の利用者があり、資格取得者は増加している。</p>
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																												
看護師	10	10	7	27	8	0																																																																																																																												
コメディカル	4	13	4	11	12	0																																																																																																																												
事務	0	1	0	0	0	0																																																																																																																												
計	14	24	11	38	20	0																																																																																																																												
看護師	0	0	0	0	0	0																																																																																																																												
コメディカル	1	0	0	0	0	0																																																																																																																												
事務	0	0	1	0	0	0																																																																																																																												
計	1	0	1	0	0	0																																																																																																																												
看護師	19	27	9	30	3	4																																																																																																																												
コメディカル	1	3	0	0	0	0																																																																																																																												
事務	0	0	0	0	1	0																																																																																																																												
計	20	30	9	30	4	4																																																																																																																												
本部	2	0	0	0	0	0																																																																																																																												
看護師	29	37	16	57	11	4																																																																																																																												
コメディカル	6	16	4	11	12	0																																																																																																																												
事務	2	1	1	0	1	0																																																																																																																												
計	37	54	21	68	24	4																																																																																																																												
	74	<p>③・地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。</p>	<p>実習研修受入れ実績 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="750 58 871 501"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入数</td> <td>304</td> <td>309</td> <td>391</td> <td>434</td> <td>499</td> <td>286</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	受入数	304	309	391	434	499	286	<p>A</p> <p>看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対し、実習研修を行った。</p>																																																																																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																												
受入数	304	309	391	434	499	286																																																																																																																												
	75	<p>③・講演会やセミナーなどを開催する。</p>	<p>公開講演会開催実績 (医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1" data-bbox="893 58 1015 501"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>公開講演会開催実績 (医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1" data-bbox="1037 58 1015 501"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開催件数	20	26	13	29	27	10	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開催件数	17	19	23	15	17	5	<p>A</p> <p>講演会、症例検討会を定期的に開催した。職員のみならず院外の医療従事者に対して知識や技術の普及を行っている。</p>																																																																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																												
開催件数	20	26	13	29	27	10																																																																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																												
開催件数	17	19	23	15	17	5																																																																																																																												
				<p>A</p> <p>オープンセミナー、講演会等を定期的に開催するとともに、別室での映像配信やDVDの配付等を行い、会場の収容人数を超える参加希望者に対応した。</p>																																																																																																																														

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画		No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																	
I 3 (1)	医療に関する調査及び研究 県内の医療水準の向上に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	-	-	-	-	-																																																
	研究機能の強化 ①リサーチサポートセンターの設置による臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②治療や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ③県立大学等の研究機関との共同研究	①・臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ②・研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体系的に蓄積するとともに、県民への成果の還元を行う。 ③・研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ④・臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 ⑤・県立大学との共同研究を行う。	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績</li> <li>・静岡県とH30年度社会健康医学に関する研究委託契約を締結（8月20日付）し、先端医学棟5階リサーチサポートセンターにおいて、3つの研究テーマ（医療ビッグデータの活用、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究）への取組を開始した。</li> <li>・第2期中期間（H26～30）</li> <li>・総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬剤学教室、臨床薬効解析学教室、医薬品情報解析学教室が設置され、総合病院薬利部との共同研究を行う体制を取っている。</li> <li>・北館6階に、臨床医学研究センターを設置。</li> <li>・H27年度から外部客員研究員の受入を開始し、臨床研究のサポートを実施。</li> <li>・H29年度から先端医学棟5階に「リサーチサポートセンター」を設置。遺伝子解析、統計解析、検体の収集・保存・解析、県民の疾病分析などを行う体制を整備した。</li> <li>・「リサーチサポートセンター」内に「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児難聴支援センター）を設置。新生児聴覚スクリーニングのデータ収集や難聴児の言語発達の研究などを行う体制を整備した。</li> <li>・県立大学薬学部の4つ研究室を循環器病センター6階から先端医学棟5階に移転し、共同研究の体制を強化した。</li> <li>・H29年度における外部客員研究員の新規受入状況 3名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会健康医学研究については、人材確保や機器整備等、研究体制の整備を着実に進めている。</li> <li>・文部科学省省費の受入が可能な研究機関として指定を受けるため、文部科学省に対して申請を行った。</li> </ul>																																																	
I 3 (1)		76	総合	<p>臨床研究数 (単位：件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究数</td> <td>195</td> <td>213</td> <td>233</td> <td>266</td> <td>279</td> <td>204</td> </tr> <tr> <td>支援研究数</td> <td>36</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>支援率</td> <td>18.5</td> <td>24.9</td> <td>19.7</td> <td>17.3</td> <td>15.4</td> <td>13.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>客員研究員受入状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>外部</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	研究数	195	213	233	266	279	204	支援研究数	36	53	46	46	43	36	支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	15.4	13.6	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	静岡県立大学	8	7	14	14	14	14	外部	-	-	4	7	9	11	A
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																
研究数	195	213	233	266	279	204																																																
支援研究数	36	53	46	46	43	36																																																
支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	15.4	13.6																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																
静岡県立大学	8	7	14	14	14	14																																																
外部	-	-	4	7	9	11																																																

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																																															
		<p style="text-align: center;"><b>業務の実績</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>寄附者</th> <th>目的</th> <th>金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">25年度</td> <td>アストラゼネカ</td> <td>呼吸器疾患・家庭における研究助成のため</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>第一三共製薬</td> <td>骨代謝阻害薬（乳癌）における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>ロシュ・ダイアグノスティクス</td> <td>心血管病の予防と早期発見に関する研究</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬</td> <td>糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>大日本住友製薬</td> <td>呼吸器・神経系における創薬開発に関する研究</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>キッセイ薬品工業</td> <td>食後高血糖の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>5,800</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">26年度</td> <td>協和発酵キリン</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>1,900</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業</td> <td>糖尿病・内分泌系疾患の治療に関する研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>第一三共製薬</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>アストラゼネカ</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>4,600</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">27年度</td> <td>大正富山製薬</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>第一三共製薬</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬</td> <td>糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">28年度</td> <td>順和製薬</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業</td> <td>糖尿病・内分泌系疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業</td> <td>糖尿病の及ぼす影響に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>千正徳</td> <td>糖尿病・内分泌内科の研究費</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">29年度</td> <td>日本ペーパードライイング</td> <td>SG12阻害薬の食行動に及ぼす影響</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>日本ペーパードライイング</td> <td>糖尿病治療薬の安全性に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30年度</td> <td>合計</td> <td></td> <td>800</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	寄附者	目的	金額 (千円)	25年度	アストラゼネカ	呼吸器疾患・家庭における研究助成のため	100	第一三共製薬	骨代謝阻害薬（乳癌）における研究	500	ロシュ・ダイアグノスティクス	心血管病の予防と早期発見に関する研究	3,000	田辺三菱製薬	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500	大日本住友製薬	呼吸器・神経系における創薬開発に関する研究	300	キッセイ薬品工業	食後高血糖の治療に関する研究	500	合計		5,800	26年度	協和発酵キリン	糖尿病疾患の治療に関する研究	1,900	協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200	小野薬品工業	糖尿病・内分泌系疾患の治療に関する研究	1,000	第一三共製薬	循環器領域における研究	500	アストラゼネカ	呼吸器疾患における研究	1,000	合計		4,600	27年度	大正富山製薬	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200	第一三共製薬	循環器領域における研究	500	田辺三菱製薬	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	200	合計		1,400	28年度	順和製薬	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業	糖尿病・内分泌系疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業	糖尿病の及ぼす影響に関する研究	500	千正徳	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000	合計		2,500	29年度	日本ペーパードライイング	SG12阻害薬の食行動に及ぼす影響	300	日本ペーパードライイング	糖尿病治療薬の安全性に関する研究	500	30年度	合計		800	合計		0	<p style="text-align: center;"><b>業務の実績</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">件数</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>71,394</td> <td>86,805</td> <td>90,549</td> <td>78,259</td> <td>64,082</td> <td>31,877</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>契約額</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>こと</td> <td>契約額</td> <td>637</td> <td>185</td> <td>1,139</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>350</td> </tr> <tr> <td>ども</td> <td>件数</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td></td> <td>契約額</td> <td>8,539</td> <td>7,610</td> <td>10,858</td> <td>19,656</td> <td>5,087</td> <td>13,867</td> </tr> </tbody> </table>	医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)					区分	件数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	合計	71,394	86,805	90,549	78,259	64,082	31,877	ところ	契約額	2	1	5	0	0	2	こと	契約額	637	185	1,139	0	0	350	ども	件数	14	22	29	26	15	42		契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867
区分	寄附者	目的	金額 (千円)																																																																																																																																															
25年度	アストラゼネカ	呼吸器疾患・家庭における研究助成のため	100																																																																																																																																															
	第一三共製薬	骨代謝阻害薬（乳癌）における研究	500																																																																																																																																															
	ロシュ・ダイアグノスティクス	心血管病の予防と早期発見に関する研究	3,000																																																																																																																																															
	田辺三菱製薬	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500																																																																																																																																															
	大日本住友製薬	呼吸器・神経系における創薬開発に関する研究	300																																																																																																																																															
	キッセイ薬品工業	食後高血糖の治療に関する研究	500																																																																																																																																															
	合計		5,800																																																																																																																																															
	26年度	協和発酵キリン	糖尿病疾患の治療に関する研究	1,900																																																																																																																																														
		協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																														
		小野薬品工業	糖尿病・内分泌系疾患の治療に関する研究	1,000																																																																																																																																														
第一三共製薬		循環器領域における研究	500																																																																																																																																															
アストラゼネカ		呼吸器疾患における研究	1,000																																																																																																																																															
合計			4,600																																																																																																																																															
27年度		大正富山製薬	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
		協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																														
		第一三共製薬	循環器領域における研究	500																																																																																																																																														
		田辺三菱製薬	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	200																																																																																																																																														
	合計		1,400																																																																																																																																															
	28年度	順和製薬	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
		小野薬品工業	糖尿病・内分泌系疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
		小野薬品工業	糖尿病の及ぼす影響に関する研究	500																																																																																																																																														
		千正徳	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000																																																																																																																																														
		合計		2,500																																																																																																																																														
29年度		日本ペーパードライイング	SG12阻害薬の食行動に及ぼす影響	300																																																																																																																																														
		日本ペーパードライイング	糖尿病治療薬の安全性に関する研究	500																																																																																																																																														
30年度		合計		800																																																																																																																																														
		合計		0																																																																																																																																														
医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)																																																																																																																																																		
区分	件数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																											
		合計	71,394	86,805	90,549	78,259	64,082	31,877																																																																																																																																										
ところ	契約額	2	1	5	0	0	2																																																																																																																																											
こと	契約額	637	185	1,139	0	0	350																																																																																																																																											
ども	件数	14	22	29	26	15	42																																																																																																																																											
	契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867																																																																																																																																											
	77	<p>③・医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するた め、新薬開発や臨床研究などへ参 画する。</p>	<p>・製薬会社等からの依頼を受け、新薬開 発に係る治験を行っている。 ・治験が終了し市販に至った薬品があ り、新薬提供の一助となっている。 ・市販薬の市販後調査を適正に実施し、 安心安全な医療に寄与している。</p> <p style="text-align: center;">A-</p>																																																																																																																																															

第1 県民に対して提供するサービスの質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画		No.	行動計画	業務の実績		30年度9月末実績 自己評価																				
I 3 (2)	診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②収支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用	78	<p>総合</p> <p>①・DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。</p>	<p>・H30、9月末実績 9月末までにDPC部会兼コード検討委員会を2回開催した。年度内に合計で4回開催する予定。 ・H30年9月までの会議実績 DPC運営部会 (8/17)、コーディング委員会 (7/9、9/6) ・第2期中期目標期間 (H26～30) ・DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が86.6% (H27年度) から92.3% (H28年度)、90.4% (H29年度) となった。 ・アラライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。 ・H30年3月からDPC分析ソフトを変更しベンチマークデータの活用を行えるよう環境整備を行った。</p> <table border="1"> <caption>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>22</td> <td>26</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開催回数	2	2	2	2	4	6	出席者数	22	26	17	32	55	24	<p>・病名のICD10-2013年度版への切り替えなど、適切なコーディングとなるよう検討を行った。 H30年からのDPCデータの調査項目の変更に伴い、運用を議論し、医師へ周知を行った。 ・H30年3月からのDPC分析ソフトの活用 医局会資料として報告に活用している。</p>
				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																
				開催回数	2	2	2	2	4	6																
出席者数	22	26	17	32	55	24																				
79	<p>こども</p> <p>①・DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員への分析にかかるスキルアップに努める。</p>	<p>・DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。</p> <table border="1"> <caption>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>37</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開催回数	2	2	2	4	4	2	出席者数	37	19	23	54	53	24	<p>部会兼委員会の委員を各部門の職員から構成し、必要な情報を各診療へフィードバックすることにより、診療情報の管理体制を整えた。</p>		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																				
開催回数	2	2	2	4	4	2																				
出席者数	37	19	23	54	53	24																				
80	<p>総合</p> <p>②・公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) ・【総】部門別、診療科別原価計算に取り組み。</p>	<p>②・公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) ・【総】部門別、診療科別原価計算に取り組み。</p>	<p>H28年1月に原価計算システムを導入し、H30、10にシステム事業者との最終調整を行う予定。 本格稼働に向けて、各課の担当者と月次運用手順を作成中である。</p>	<p>原価計算システムの運用に向けて運用手順を調整中。</p>																						
			<p>こども</p> <p>・【子】診療科別に経年変化を明らかにする原価計算に取り組む。</p>	<p>H26年度に導入検討を始め、H27年度には原価計算システムを導入、配賦基準等を定め、H28年度から本格的な運用を開始した。運用開始後は、DPCや財務会計のデータを用いて原価計算を行っている。 H30年度はH29年度までのデータ入力完了し、各診療科別、年度別の経年比較のための作業を開始した。</p>	<p>原価計算システムの導入により、診療科別の損益を計算することが可能となった。 経年比較により収支状況を把握し、内容の検討を開始した。</p>																					



第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																														
<p>I 3 (3)</p> <p>県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供</p>	<p>81</p> <p>①・県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。</p>	<p>各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。</p> <table border="1" data-bbox="284 734 561 1326"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="10">30年9月末</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">総合</td> <td>県民向け 参加者</td> <td>494</td> <td>416</td> <td>662</td> <td>495</td> <td>712</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td>医療機 関 参加者</td> <td>1,075</td> <td>626</td> <td>755</td> <td>1,765</td> <td>1,691</td> <td>621</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>県民向け 参加者</td> <td>357</td> <td>15</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>医療機 関 参加者</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>県民向け 参加者</td> <td>52</td> <td>131</td> <td>124</td> <td>116</td> <td>149</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>医療機 関 参加者</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	病院	区分	30年9月末										25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	県民向け 参加者	494	416	662	495	712	116	医療機 関 参加者	1,075	626	755	1,765	1,691	621	こころ	県民向け 参加者	357	15	1	2	2	1	医療機 関 参加者	0	4	2	3	5	0	こども	県民向け 参加者	52	131	124	116	149	130	医療機 関 参加者	17	19	23	15	17	5	<p>A-</p> <p>公開講座の開催を通じて、県民・県内医療機関に対して、最新医療に関する情報提供を行うことができた。また、同時に、機構の取組みについてもPRすることとができた。</p>
病院	区分	30年9月末																																																																
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																											
総合	県民向け 参加者	494	416	662	495	712	116																																																											
	医療機 関 参加者	1,075	626	755	1,765	1,691	621																																																											
こころ	県民向け 参加者	357	15	1	2	2	1																																																											
	医療機 関 参加者	0	4	2	3	5	0																																																											
こども	県民向け 参加者	52	131	124	116	149	130																																																											
	医療機 関 参加者	17	19	23	15	17	5																																																											
<p>82</p> <p>①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。</p>	<p>・H30 10月13日(土)にオープンホスピタルを開催予定。 来場者1,200人(見込)</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) ・静岡県立総合病院の機能、設備 職員の姿を知ってもらうことによって、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 H29年8月5日 来場者約1,400名 ・県民の日に合わせ、「県民の日講演会」を8/20に開催した。</p> <table border="1" data-bbox="849 734 912 1281"> <thead> <tr> <th colspan="4">オープンホスピタル来場者数 (単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>900</td> <td>—</td> <td>1,000</td> <td>1,200</td> <td>1,400</td> <td>1,200(見込)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」に2日間参加し、健康相談及びこども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展した。</p> <table border="1" data-bbox="1008 757 1104 1281"> <thead> <tr> <th colspan="4">こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位：組、人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康相談</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>写真撮影</td> <td>1,052</td> <td>875</td> <td>859</td> <td>1,288</td> <td>957</td> <td>1,064</td> </tr> </tbody> </table>	オープンホスピタル来場者数 (単位：人)				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	来場者数	900	—	1,000	1,200	1,400	1,200(見込)	こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位：組、人)				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	健康相談	28	6	10	17	22	10	写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	1,064	<p>A</p> <p>オープンホスピタルは、例年、夏休みの時期に開催しているが、本年度は北立休館工事・エントランスホール工事の関係で、10月開催予定。</p>																					
オープンホスピタル来場者数 (単位：人)																																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																												
来場者数	900	—	1,000	1,200	1,400	1,200(見込)																																																												
こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位：組、人)																																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																												
健康相談	28	6	10	17	22	10																																																												
写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	1,064																																																												

第1 県民に対して提供するサービスの質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																										
	83	<p>②・県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。</p>	<p>・H30.9月末実績 機構全体のトピックスやプレスリリース、総合病院北立体駐車場の最新情報等を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 各病院の医療情報やトピックス、入札情報や採用情報等を適時更新するなど、ホームページの活用を図った。</p> <p>H27年1月には、機構及び3病院のホームページをリニューアルした結果アクセス数も伸び、機構のアピールにつながった。（H28からの実績は、アクセス数を管理するサイトの仕様変更があった。）H29年には、先端医学棟についての最新情報を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。</p> <p>セクション別アクセス件数 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="550 772 678 952"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>291,958</td> <td>316,047</td> <td>271,467</td> <td>214,412</td> <td>218,435</td> <td>123,127</td> </tr> <tr> <td>総合病院</td> <td>1,582,445</td> <td>1,742,978</td> <td>1,935,315</td> <td>1,864,780</td> <td>2,017,729</td> <td>1,205,539</td> </tr> <tr> <td>ごころ</td> <td>275,237</td> <td>285,800</td> <td>279,546</td> <td>289,084</td> <td>275,298</td> <td>187,521</td> </tr> <tr> <td>ごども</td> <td>1,518,204</td> <td>1,510,609</td> <td>1,519,362</td> <td>1,452,729</td> <td>1,551,263</td> <td>892,610</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,667,844</td> <td>3,855,434</td> <td>4,005,690</td> <td>3,801,005</td> <td>4,062,725</td> <td>2,408,797</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	123,127	総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	1,205,539	ごころ	275,237	285,800	279,546	289,084	275,298	187,521	ごども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	892,610	合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	2,408,797	<p>総合病院北立体駐車場の最新情報やトピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図ることが出来た。その結果アクセス数も増加している一方で、引き続き積極的な情報発信に努める。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																								
本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	123,127																																								
総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	1,205,539																																								
ごころ	275,237	285,800	279,546	289,084	275,298	187,521																																								
ごども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	892,610																																								
合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	2,408,797																																								
84	<p>③・県民に病院の運営にかかわる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。</p>	<p>最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。</p> <p>H28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。</p> <p>記者情報提供件数 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="829 772 925 952"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>48</td> <td>47</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>35</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	提供件数	46	40	41	48	47	21	掲載件数	27	25	27	31	35	16	<p>県政記者クラブへの情報提供について、各病院の実績を共有ファイル管理するとともに標準化を行い、記者提供が正確に行われるようになった。提供件数については高い水準を保っており、情報提供についての意識向上に繋がっている。</p>																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																								
提供件数	46	40	41	48	47	21																																								
掲載件数	27	25	27	31	35	16																																								

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価	説明																																																						
I 4 医療に関する地域への支援 地域医療支援の中心機能を果たすため、急性期病院として必要な医師を確保し、自らの診療体制を確立した上で、地域の医療機関への医師派遣に協力するとともに、高度医療機器等の共同利用を推進するなど、人材・施設・設備両面での地域の医療機関への支援を推進する。	-	-	-	-	-																																																						
I 4 (1) 本県の医師確保対策への取組 ①県の医師派遣事業への協力 ②県の医師派遣事業に必要な医師必要数の見直し ③「ふじのくに」地域医療支援センター」機能の一部である医師就労等相談窓口業務などを受託・運営 ④新専門医認定制度への対応	85 ①・地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。	総合 ・H30.9月末実績 富士宮市立、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、桜ヶ丘病院、川根本町いやしん診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。 医師派遣実績 (単位:機関、科、人) <table border="1" data-bbox="598 739 702 1288"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td>701</td> <td>715</td> <td>570</td> <td>571</td> <td>237</td> </tr> </tbody> </table> 静岡市立静岡病院、榛津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市民病院、富士宮市立病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。 医師派遣実績 (単位:機関、科、人) <table border="1" data-bbox="805 772 933 1288"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関等</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>662</td> <td>662</td> <td>958</td> <td>1078</td> <td>803</td> <td>284</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	医療機関	10	11	10	9	6	8	診療科	11	12	9	6	9	9	延人員数	616	701	715	570	571	237	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	医療機関等	6	4	7	6	7	6	診療科	2	1	2	2	2	2	延人員数	662	662	958	1078	803	284	県内公的6病院と1診療所に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。 県内公的病院5病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																					
医療機関	10	11	10	9	6	8																																																					
診療科	11	12	9	6	9	9																																																					
延人員数	616	701	715	570	571	237																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																					
医療機関等	6	4	7	6	7	6																																																					
診療科	2	1	2	2	2	2																																																					
延人員数	662	662	958	1078	803	284																																																					
86 ①・小児1次救急医療への応援を行う。	①・小児1次救急医療への応援を行う。	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。	A																																																							
87 ②・各科医師定数を見直しする。 ・静岡県の地域医療を支援していくために必要な医師数の検討を進める。	②・各科医師定数を見直しする。 ・静岡県の地域医療を支援していくために必要な医師数の検討を進める。	他院や各医局と連携し、地域医療に必要な医師の確保に努めた。富士宮市立、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、桜ヶ丘病院、川根本町いやしん診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。 医師現員数 (単位:人) <table border="1" data-bbox="1268 761 1444 1288"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td>701</td> <td>715</td> <td>570</td> <td>571</td> <td>237</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	医療機関	10	11	10	9	6	8	診療科	11	12	9	6	9	9	延人員数	616	701	715	570	571	237	着実に医師を確保できている。県内公的6病院と1診療所に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。診療科によっては不足もあり、さらに充実させる必要がある。	A																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																					
医療機関	10	11	10	9	6	8																																																					
診療科	11	12	9	6	9	9																																																					
延人員数	616	701	715	570	571	237																																																					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	30年度9月末実績 自己評価																					
	88	<p>③・ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・H30.9月末実績 『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」や「女性医師支援」などの業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） 主な業務である静岡県医学修学研修資金貸与者の配置調整においては、H25年の受託開始からこれまで、当機構が配置調整を担当する医師数は着実に増加しており、うち県内に勤務を開始する医師数も年々増加している。</p> <table border="1" data-bbox="491 779 598 1339"> <caption>配置調整医師及び県内勤務開始者数（機構担当分）（単位：名）</caption> <thead> <tr> <th>勤務開始年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>34</td> <td>64</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>※配置調整は各前年度となる。</p>	勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	配置調整医師数	6	12	14	34	64	64	うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39
勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																		
配置調整医師数	6	12	14	34	64	64																		
うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39																		
	89	<p>④・専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・H30.9月末実績 ・修正を含め、9領域においてプログラムの申請を行い、全領域において「日本専門医機構」の審査を受け、合格した。 ・院内外研修医、学生に向けて、プログラム説明会を4回開催し、専門研修プログラムの魅力を発信した。 ・ホームページの広報など、積極的に募集を行っている。 ・H29年度 ・院内研修医に向けて、プログラム説明会を1回開催</p> <p>総合</p> <p>・H30.9月末実績 ・H30年度開始の新専門医制度による専攻医1人を受け入れた。 ・医師確保のためのPR用DVDを作成し、希望者に配布するとともに、ホームページにアップするなど、周知を図っている。 ・H31年度プログラムを日本専門医機構に提出した。</p> <p>こころ</p> <p>H29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹施設として、新制度に即った研修を実施している。 H30年度は、当院プログラムの積極的な周知を行い、小児科プログラム説明会への参加者がH29年度の12名から15名に増加するなど専攻医の確保に努めた。</p>																					
			<p>救急科、耳鼻咽喉科領域において、プログラムの新規申請を行い、専攻医の受け入れ枠を更に増やした。専攻医確保に向けて、プログラム説明会を実施、自作のPR動画を発信するなど、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。</p> <p>A</p> <p>H30年度開始の新専門医制度プログラムを運用するための体制を整え、専攻医の募集及び受け入れを行っている。</p> <p>A</p> <p>新制度による研修受入体制は整備しているが、H30年度は定員8名のところ、3名の採用に留まった。専攻医確保のため、H31年度に向けた専攻医確保のため、当院プログラム周知を継続する。</p> <p>A-</p>																					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																						
I 4 (2) 地域医療への支援 ①PETイメージング・センター、CT、MRI等の共同利用の推進 ②IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	90	①・地域の医療機関や健診センターへの啓蒙活動を継続し、PET共同利用率の向上を図る。	PETイメージングセンター共同利用 (単位:件、%) <table border="1" data-bbox="263 779 406 1279"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> <td>4,276</td> <td>4,235</td> <td>3,758</td> <td>1,846</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,635</td> <td>1,673</td> <td>1,623</td> <td>1,429</td> <td>905</td> <td>384</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>40</td> <td>39.7</td> <td>39.5</td> <td>33.7</td> <td>24.1</td> <td>20.8</td> </tr> <tr> <td>健診件数</td> <td>10</td> <td>165</td> <td>155</td> <td>168</td> <td>139</td> <td>86</td> </tr> </tbody> </table> H30 新規健診契約施設: 1 H29 新規健診契約施設: 18 (静岡済生会病院など) H22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせている。 CT, MRI 共同利用 (単位:件) <table border="1" data-bbox="502 779 662 1279"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>833</td> <td>782</td> <td>815</td> <td>919</td> <td>847</td> <td>490</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>626</td> <td>591</td> <td>645</td> <td>621</td> <td>543</td> <td>296</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>107</td> <td>133</td> <td>132</td> <td>129</td> <td>131</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	4,121	4,211	4,276	4,235	3,758	1,846	共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	905	384	共同利用率	40	39.7	39.5	33.7	24.1	20.8	健診件数	10	165	155	168	139	86	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	CT	833	782	815	919	847	490	MRI	626	591	645	621	543	296	CT(撮影のみ)	8	7	1	6	2	1	MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	131	29	H29年4月に静岡市立病院がPETを独自整備したことにより、PET件数と共同利用率は減少している。H29年11月から新たな連携先の拡大に努めている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																				
件数	4,121	4,211	4,276	4,235	3,758	1,846																																																																				
共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	905	384																																																																				
共同利用率	40	39.7	39.5	33.7	24.1	20.8																																																																				
健診件数	10	165	155	168	139	86																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																				
CT	833	782	815	919	847	490																																																																				
MRI	626	591	645	621	543	296																																																																				
CT(撮影のみ)	8	7	1	6	2	1																																																																				
MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	131	29																																																																				
91	①・地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	H30.9月末実績 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、富士市立中央病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施した。 ・第2期中期期間 (H26~30) H27年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 ・H28 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、データセンター及び県立総合病院連携センターの更新を行った。また、静岡県立こども病院、静岡県立静岡市立総合病院、医療法人社団アール・アンド・オーにてシステム整備を行った。 ・H29 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会等とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。	H30年5月より、最も共同利用の依頼が多かったてんかんセンターで、3テスラのMRI機器が新設されたため、MRIの共同利用が減少した。																																																																							
92	②・ふじのくにねつとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	・小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター (IJN) との接続試験を兼ねた症例検討会を定期的に実施している。 ・他医療機関と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施している。	ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続けている。富士市立中央病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施した。																																																																							
93	②・国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。	心エコー画像遠隔診断実績 (単位:件) <table border="1" data-bbox="1252 741 1348 1279"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> ・H31年2月には、IJNからの依頼によりインドネシアから患者を受入れる予定である。	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	9	7	5	7	5	国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じたカンファレンスや診断を継続的に実施した。																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																				
施設数	4	4	4	4	4	4																																																																				
症例数	15	9	7	5	7	5																																																																				

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																						
I 4 (3)	94	<p>社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応</p> <p>①・院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。</p>	<p>総合</p> <p>拡大キャンペーン実績</p> <table border="1" data-bbox="263 784 399 1276"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度9月末</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>院内</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>153</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>院外</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>261</td> <td>172</td> <td>138</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>237</td> <td>228</td> <td>422</td> <td>332</td> <td>281</td> <td>146</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	回数	5回	5回	6回	6回	6回	3回	院内	-	-	161	160	153	75	院外	-	-	261	172	138	71	合計	237	228	422	332	281	146	A																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																				
回数	5回	5回	6回	6回	6回	3回																																																																				
院内	-	-	161	160	153	75																																																																				
院外	-	-	261	172	138	71																																																																				
合計	237	228	422	332	281	146																																																																				
95	95	<p>総合</p> <p>①・他団体の講師派遣依頼に協力する。</p>	<p>講師派遣実績</p> <table border="1" data-bbox="438 739 542 1276"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度9月末</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>62</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>62</td> <td>72</td> <td>36</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>145</td> <td>94</td> <td>66</td> <td>66</td> <td>82</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	医師	68	73	58	62	62	51	その他	62	72	36	4	4	31	計	130	145	94	66	66	82	A-																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																				
医師	68	73	58	62	62	51																																																																				
その他	62	72	36	4	4	31																																																																				
計	130	145	94	66	66	82																																																																				
96	96	<p>こころ</p> <p>①・他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。</p>	<p>院外講演会講師派遣状況(医師)</p> <table border="1" data-bbox="582 739 638 1276"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度9月末</td> </tr> <tr> <td>派遣回数</td> <td>17</td> <td>25</td> <td>30</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>8</td> </tr> </table> <p>院外講演会講師派遣状況(看護師)</p> <table border="1" data-bbox="662 739 766 1276"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度9月末</td> </tr> <tr> <td>派遣回数</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>21</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>9</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	派遣回数	17	25	30	18	18	8	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	派遣回数	24	30	21	32	28	9	A																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																				
派遣回数	17	25	30	18	18	8																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																				
派遣回数	24	30	21	32	28	9																																																																				
97	97	<p>こころ</p> <p>①・医療にかかると鑑定の要請への協力など積極的に対応する。</p>	<p>・H30.9月末実績</p> <p>医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。</p> <p>医療観察法による鑑定入院受入実績</p> <table border="1" data-bbox="821 739 917 1276"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度9月末</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>2</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	こころ	6	10	7	9	12	2	A																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																				
こころ	6	10	7	9	12	2																																																																				
98	98	<p>こども</p> <p>①・特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。</p>	<p>精神科鑑別等開催実績</p> <table border="1" data-bbox="965 739 1101 1276"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度9月末</td> </tr> <tr> <td>精神科鑑別</td> <td>1,621</td> <td>2,158</td> <td>1,901</td> <td>1,891</td> <td>1,842</td> <td>1,698</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>小児慢性</td> <td>831</td> <td>657</td> <td>721</td> <td>722</td> <td>471</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>224</td> <td>179</td> <td>258</td> <td>240</td> <td>164</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>128</td> <td>134</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>-</td> <td>33</td> <td>157</td> <td>138</td> <td>115</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>135</td> <td>100</td> <td>172</td> <td>181</td> <td>176</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>110</td> <td>117</td> <td>96</td> <td>102</td> <td>83</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>123</td> <td>112</td> <td>97</td> <td>111</td> <td>119</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,172</td> <td>3,490</td> <td>3,409</td> <td>3,391</td> <td>2,975</td> <td>2,290</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	精神科鑑別	1,621	2,158	1,901	1,891	1,842	1,698	対象	小児慢性	831	657	721	722	471	養育医療	224	179	258	240	164	104	特定疾患	128	134	7	6	5	3	特定疾病	-	33	157	138	115	79	生活保護	135	100	172	181	176	137	精神保健	110	117	96	102	83	81	その他	123	112	97	111	119	104	計	3,172	3,490	3,409	3,391	2,975	2,290	A
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																				
精神科鑑別	1,621	2,158	1,901	1,891	1,842	1,698																																																																				
対象	小児慢性	831	657	721	722	471																																																																				
養育医療	224	179	258	240	164	104																																																																				
特定疾患	128	134	7	6	5	3																																																																				
特定疾病	-	33	157	138	115	79																																																																				
生活保護	135	100	172	181	176	137																																																																				
精神保健	110	117	96	102	83	81																																																																				
その他	123	112	97	111	119	104																																																																				
計	3,172	3,490	3,409	3,391	2,975	2,290																																																																				
99	99	<p>こども</p> <p>①・小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。</p>	<p>公費負担患者状況</p> <table border="1" data-bbox="1157 739 1388 1276"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度9月末</td> </tr> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,621</td> <td>2,158</td> <td>1,901</td> <td>1,891</td> <td>1,842</td> <td>1,698</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>831</td> <td>657</td> <td>721</td> <td>722</td> <td>471</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>224</td> <td>179</td> <td>258</td> <td>240</td> <td>164</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>128</td> <td>134</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>135</td> <td>100</td> <td>172</td> <td>181</td> <td>176</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>110</td> <td>117</td> <td>96</td> <td>102</td> <td>83</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>123</td> <td>112</td> <td>97</td> <td>111</td> <td>119</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,172</td> <td>3,490</td> <td>3,409</td> <td>3,391</td> <td>2,975</td> <td>2,290</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1,842	1,698	養育医療	831	657	721	722	471	84	特定疾患	224	179	258	240	164	104	特定疾病	128	134	7	6	5	3	生活保護	135	100	172	181	176	137	精神保健	110	117	96	102	83	81	その他	123	112	97	111	119	104	計	3,172	3,490	3,409	3,391	2,975	2,290	A							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度9月末																																																																				
小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1,842	1,698																																																																				
養育医療	831	657	721	722	471	84																																																																				
特定疾患	224	179	258	240	164	104																																																																				
特定疾病	128	134	7	6	5	3																																																																				
生活保護	135	100	172	181	176	137																																																																				
精神保健	110	117	96	102	83	81																																																																				
その他	123	112	97	111	119	104																																																																				
計	3,172	3,490	3,409	3,391	2,975	2,290																																																																				

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

年度計画		No.	行動計画	業務の実績		30年度9月末実績 自己評価																						
						説明																						
I 5	県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをすするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	-	-	-	-	-	-																					
I 5 (1)	医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院（小児分野を含む）等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	100	①・災害医療訓練を実施する。 ①・災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発生時に迅速な対応ができるようにする。	総合	<p>30年9月末実績</p> <p>R30.7.12 静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加。 R30.9.3~27 院がセンターに申し、消火設備等の取組を実施した。（新規採用職員を中心に約10人参加）</p> <p>・第2期中期期間（H26～30）毎年度12月第1日曜日（静岡県地域防災の日）に全職種を対象としたトリアージ訓練（200名程度参加）を行っている。 H26に防災マニュアルの改訂を行った。 H28より県から静岡DMAT体制強化推進事業を受託 H29に先端医学棟2階に災害対策本部を整備した。</p>	A	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。																					
I 101		101	①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。	こころ	<p>防災訓練（避難訓練） 30年9月末実績</p> <p>R30.7.12 県健康福祉部防災訓練におけるDIS情報伝達訓練に参加。 R30.8.3~4 政治訓練（大規模地震時医療活動訓練）における静岡DMAT訓練に参加。 R30.8.27 院防災訓練（初期消火・避難誘導訓練）を実施。 R30.8.30 県総合防災訓練（本部運営訓練）におけるDIS情報伝達訓練に参加。 R30.9.2 静岡市・静岡県総合防災訓練におけるDMAT訓練に参加。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30）院内だけでなく、県、市等と連携した防災訓練に参加した。</p>	A	災害時に対する日頃の備えに努めるため、情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、各種訓練を企画、実施している。																					
I 102		102	①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	こども	<p>H30年9月に静岡県防災訓練と連動し、全職種を対象としたトリアージ訓練を実施した。</p>	A	小児医療の拠点病院として、各種防災訓練を企画・実施した。																					
I 5 (2)	他県等の医療救護への協力 ・災害発生初期におけるDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103	災害医療救護応援班の訓練を実施する。	総合	<p>30年9月末実績</p> <p>R30.8.4 大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）にDMAT隊員が参加した。 R30.8.30 静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員が参加した。 R30.9.2 静岡市・静岡県総合防災訓練（実働）にDMAT隊員等20人が参加した。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30）災害医療救護応援班の訓練を実施した。</p> <p style="text-align: right;">(単位：回)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>DMAT訓練回数</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年9月末</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>-</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>訓練</td> <td>-</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> </table>	DMAT訓練回数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	区分	-	7	6	8	8	3	訓練	-	7	6	8	8	3	A	チーム内で適切に情報を伝達・共有し、仮想被害状況に応じたDMATの配置し、他チームとの連携強化を行った。
DMAT訓練回数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																						
区分	-	7	6	8	8	3																						
訓練	-	7	6	8	8	3																						

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画		No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価								
					説明								
II	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりの努力とともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。												
II	104 簡素で効率的な組織づくり ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③人事評価の制度化に向けた取組み		①②・組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ①②・理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催（8月を除く）し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 ③・全職員を対象とした人事評価制度の試行を円滑に実施する。	<p>理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。結果に準拠した人事評価制度の導入することを職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。</p> <table border="1"> <caption>勤務成績評価制度試行状況</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師（管理監督者）</td> <td>平成26年10月～平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル（管理監督者）</td> <td>平成27年10月～平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>事務職員（プロパー職員副主査以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> </tbody> </table>	対象	実施時期	看護師（管理監督者）	平成26年10月～平成28年4月～	コメディカル（管理監督者）	平成27年10月～平成28年4月～	事務職員（プロパー職員副主査以上）	平成28年4月～	毎月、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。 勤務成績評価制度の試行については、本部と各病院が連携し円滑に実施することができ、職員のモチベーション向上への寄与が図られたものと考えている。県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。
対象	実施時期												
看護師（管理監督者）	平成26年10月～平成28年4月～												
コメディカル（管理監督者）	平成27年10月～平成28年4月～												
事務職員（プロパー職員副主査以上）	平成28年4月～												
II	2 ①・効率的な職員採用 ②・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ③・看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多角的な確保対策の実施		①・優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ②・柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ③・パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9月末実績 H30年度には、事務職員1人、コメディカル4人を採用している。</li> <li>・第2期中期期間（H26～30）法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮した採用を実施した。 H28年度からアソシエイトの制度を導入した。 H29年度には、経営等に精通した事務職員1人を採用した。また、診療放射線技師（医学物理士）1人を採用した。初めてアソシエイトの公募を決定した。</li> </ul>	<p>事務職員・看護師・コメディカルのうち、優秀な有期職員について、アソシエイトの登用を進めている。コメディカルのアソシエイトについては公募試験を開始した。 ホームページへの掲載や就職セミナーへの参加など積極的に広報を行い、人材の確保につながっている。 看護師修学資金については、一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。 効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。</p>								



第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																												
<p>④・診療報酬など収入の適正な確保 ⑤・業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減</p>	106	<p>④・未収金の圧縮を図るため、未収金の収納勧奨等について外部の専門会社を活用する。 ④・医療費に係る相談体制の充実・未収金回収のアウトソーシングの促進等、効率的な未収金対策を講じる。</p>	<p>24年度から弁護士法人へ委託先を変更した結果、回収率の改善が図られている。</p> <table border="1" data-bbox="319 918 574 1344"> <caption>30年度未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度 未回収額</th> <th>新規委託額</th> <th>回収額</th> <th>中止額</th> <th>30年9月末 未回収額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>25,038</td> <td>12,250</td> <td>6,306</td> <td>8,052</td> <td>22,930</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>10,888</td> <td>1,827</td> <td>957</td> <td>155</td> <td>11,602</td> </tr> <tr> <td>こと</td> <td>3,948</td> <td>1,101</td> <td>862</td> <td>1,790</td> <td>2,397</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>39,874</td> <td>15,178</td> <td>8,125</td> <td>9,997</td> <td>36,929</td> </tr> </tbody> </table> <p>未収金回収率の推移 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="478 918 574 1344"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回収率</td> <td>45.4%</td> <td>59.0%</td> <td>65.2%</td> <td>71.9%</td> <td>72.6%</td> <td>73.7%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	29年度 未回収額	新規委託額	回収額	中止額	30年9月末 未回収額	総合	25,038	12,250	6,306	8,052	22,930	ところ	10,888	1,827	957	155	11,602	こと	3,948	1,101	862	1,790	2,397	計	39,874	15,178	8,125	9,997	36,929	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	72.6%	73.7%	<p>A 未収金回収業務の外部委託により回収率が改善しており、収入の適正な確保を図られている。</p>
区分	29年度 未回収額	新規委託額	回収額	中止額	30年9月末 未回収額																																											
総合	25,038	12,250	6,306	8,052	22,930																																											
ところ	10,888	1,827	957	155	11,602																																											
こと	3,948	1,101	862	1,790	2,397																																											
計	39,874	15,178	8,125	9,997	36,929																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																										
回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	72.6%	73.7%																																										
107	<p>⑤SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。</p>	<p>・第2期中期間(H26～30) 診材期限切れによる廃棄額は、H29年度675千円で、昨年と比較して58%減である。これはSPDを導入し物流倉庫で一元管理したことにより、不要なものの発注が少なくなったこと、適正在庫を先入れ先出しで運用できていること、不動態在庫の使用促進の効果が期待されているためと見える。診材在庫は新棟の影響により手術室在庫が増えているが、H29は病棟▲1,224千円、検査▲1,488千円と削減できている。</p> <p>総合</p> <p>・H30年度薬品、診療材料在庫額 薬品については、年2回の棚卸に薬品担当者が介入することで、精度の高い棚卸を実施。診療材料は、パッキングする品目を増やし最小単位で定数を設定することや、SPDがこまめに病棟の棚をチェックして棚差を減らすことに努めた。また年2回の定数変更時に、定数在庫へ実在庫を合わせることで、過剰在庫の抑制を図った。</p> <table border="1" data-bbox="877 694 957 1299"> <caption>薬品・診療材料在庫額 (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>162,822</td> <td>179,830</td> <td>114,860</td> <td>101,066</td> <td>102,777</td> <td>135,941</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>180,834</td> <td>169,947</td> <td>179,513</td> <td>191,861</td> <td>216,079</td> <td>212,228</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	102,777	135,941	診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	216,079	212,228	<p>A 期限切れについては、切迫品の可視化を行い部署へ啓蒙したり、他部署の使用状況をみて移管するなどの取り組みを行っている。また不動態在庫をリスト化し、使用促進の効果がでている。 在庫額については、新棟手術室の影響で前回より増えているものの、その他の部署では定数設定の見直しや最小単位での管理品目を増加したことによって削減することができた。</p>																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																										
薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	102,777	135,941																																										
診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	216,079	212,228																																										
108	<p>④・積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。</p>	<p>(総合) ・施設基準取得状況 入院基本料については前年度から医療・看護必要度の精度向上対応の成果もあり、最も高い点数で継続して届出を行なった。 ・抗菌薬適正使用支援チームについて6月より届け出た。 ・新規医療技術について適正評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(ダ・ヴィンチ手術、胸腔鏡下弁手術など) ・診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ。 ・H30.4月開催:診療報酬改定説明会(ところ) ・医療観察法における通院対象者社会復帰体制強化加算の新規届出を行った。(こと) ・診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ H30.1月開催:特定共同指導の結果について H30.3月開催:診療報酬改定について</p>	<p>A 請求精度の向上を目指して、研修会等を確実に開催した。 新規やランクアップの届出が可能なら項目について積極的に届出を行うよう努めた。</p>																																													

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																										
	109	<p>⑤・材料費等の節減のための対策を実施する。                      ・診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。</p>	<p>・H30.9月末実績                      H30年度上期は約31百万円削減した。また共同購入加盟により約18百万円削減となった。</p> <p>・第2期中期期間(H26～30)                      ・各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員の意識を徹底し、適正な調達に努めている。</p> <p>・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。</p> <p>・薬品費の節減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者制度を継続するとともに、機種に薬品を納入する卸業者の数を5社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。</p> <p>・破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。</p> <p>診療材料コスト削減実績 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>2,159</td> <td>4,314</td> <td>68,499</td> <td>34,307</td> <td>27,923</td> <td>22,710</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>90</td> <td>0</td> <td>641</td> <td>107</td> <td>146</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2,422</td> <td>19,581</td> <td>6,701</td> <td>8,320</td> <td>6,182</td> <td>8,067</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,671</td> <td>23,895</td> <td>75,841</td> <td>42,734</td> <td>34,551</td> <td>30,777</td> </tr> </tbody> </table> <p>診療材料品目数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">30年度当期</th> <th colspan="2">30年度当初</th> <th colspan="2">新規品目数</th> <th colspan="2">廃止品目数</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> <th>(d)</th> <th>(e)</th> <th>(f)</th> <th>(g)</th> <th>(h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>15,715</td> <td>222</td> <td>28</td> <td>15,909</td> <td>1,646</td> <td>41</td> <td>61</td> <td>1,646</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>422</td> <td>1</td> <td>10</td> <td>413</td> <td>675</td> <td>50</td> <td>12</td> <td>713</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,076</td> <td>39</td> <td>106</td> <td>4,009</td> <td>1,298</td> <td>30</td> <td>23</td> <td>1,305</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>20,213</td> <td>262</td> <td>144</td> <td>20,331</td> <td>3,619</td> <td>121</td> <td>96</td> <td>3,644</td> </tr> </tbody> </table> <p>30年度 新規購入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">30年度当期</th> <th colspan="2">29年度実績</th> <th colspan="2">30年度実績</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> <th>(d)</th> <th>(e)</th> <th>(f)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16,9</td> <td>24.3</td> <td>24.7</td> <td>25.8</td> <td>21.6</td> <td>22.2</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>23.5</td> <td>27.2</td> <td>31.3</td> <td>37.5</td> <td>21.6</td> <td>22.2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>17.0</td> <td>20.5</td> <td>21.6</td> <td>22.2</td> <td>21.6</td> <td>22.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	2,159	4,314	68,499	34,307	27,923	22,710	こども	90	0	641	107	146	0	こども	2,422	19,581	6,701	8,320	6,182	8,067	合計	4,671	23,895	75,841	42,734	34,551	30,777	区分	30年度当期		30年度当初		新規品目数		廃止品目数		(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	総合	15,715	222	28	15,909	1,646	41	61	1,646	こども	422	1	10	413	675	50	12	713	こども	4,076	39	106	4,009	1,298	30	23	1,305	合計	20,213	262	144	20,331	3,619	121	96	3,644	区分	30年度当期		29年度実績		30年度実績		(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	総合	16,9	24.3	24.7	25.8	21.6	22.2	こども	23.5	27.2	31.3	37.5	21.6	22.2	合計	17.0	20.5	21.6	22.2	21.6	22.2	<p>(総合)                      ・自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替を医療従事者の協力を得ながら行った。また、H29年9月より共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルライアンス(略称:NHA)」に加盟し、診療材料費の節減を行っている。なお、共同購入の導入分野は、H29年度に循環器虚血、整形、事務管理が追加、さらにH30年度は循環器不整脈、PTA、眼科が新たに追加され、より一層の節減を行っている。</p> <p>A</p> <p>診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同効品の見直しなどに取り組み、H30年度は9月末時点で約31百万円削減した。</p> <p>薬品費については、MRPベンチマークなどを用いて具体的な目標価格を設定し価格交渉を実施した。また、一部の高額医薬品について、院内処方に切り替えて収益の増加を図った。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																								
総合	2,159	4,314	68,499	34,307	27,923	22,710																																																																																																																								
こども	90	0	641	107	146	0																																																																																																																								
こども	2,422	19,581	6,701	8,320	6,182	8,067																																																																																																																								
合計	4,671	23,895	75,841	42,734	34,551	30,777																																																																																																																								
区分	30年度当期		30年度当初		新規品目数		廃止品目数																																																																																																																							
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)																																																																																																																						
総合	15,715	222	28	15,909	1,646	41	61	1,646																																																																																																																						
こども	422	1	10	413	675	50	12	713																																																																																																																						
こども	4,076	39	106	4,009	1,298	30	23	1,305																																																																																																																						
合計	20,213	262	144	20,331	3,619	121	96	3,644																																																																																																																						
区分	30年度当期		29年度実績		30年度実績																																																																																																																									
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)																																																																																																																								
総合	16,9	24.3	24.7	25.8	21.6	22.2																																																																																																																								
こども	23.5	27.2	31.3	37.5	21.6	22.2																																																																																																																								
合計	17.0	20.5	21.6	22.2	21.6	22.2																																																																																																																								
	110	<p>⑤・効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。</p>	<p>・各病院において、病院一体となって徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等の徹底により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めた。</p> <p>・価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。</p> <p>・機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。</p> <p>・価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。</p> <p>・保守委託では、3病院一括の契約に応じた契約や保守内容の見直しを行いコスト低減を図っている。</p>	<p>・徹底した価格交渉や競争性確保に努めた結果、適正価格での購入が行えた。</p> <p>・案件に応じ「購入+保守管理」一括評価で調達を行い、トータルコストを削減した。</p> <p>・保守委託については3病院一括化・複数年契約等により、法人化や規模のメリットを生かしたコスト削減を図った。</p> <p>A</p>																																																																																																																										

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価
	111	<p>⑤・複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。</p>	<p>・委託費の節減を図るため、複数年契約一括化、複数年契約化を行った。また、契約の更新時に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直した。(H30年度の契約更新においては、エアーシューター設備等保守点検業務委託が、こども病院の単独となったため、本一括契約の対象から外した。)</p> <p>・委託の仕様の徹底した見直しを行った。</p> <p>・コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上を図った。</p>	<p>複数年病院で集約化した委託等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは15件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。</p> <p>A</p>
<p>⑥・経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑦・経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上</p>	112	<p>⑥・毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑥・より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。 ⑦・機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報紙等を通じて周知徹底する。</p>	<p>・理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。</p> <p>・月次決算において、費用計上を発生主義から年間平準化計上へ手法を改めることにより、適切な経営状況の把握に努めている。</p> <p>・職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>・院内コミュニケーションシステムや職員報(トライアングル等)を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。</p> <p>・主にH27年度から上記取り組みを継続して行うことにより、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制の整備を図っている。</p>	<p>月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通して経営分析を職員に周知し、理事長、副理事長自ら研修等を行うことで、職員の経営に対する意識啓発が図られている。</p> <p>A</p>

30年度委託契約等の見直し状況(単年度ベース) (単位:千円)

業務名(連携)	連携先	年数	期間	種類	総額
一般廃棄物処理業務委託	3病院	3年	H30.4~H33.3	単価	7,988
感染症産業廃棄物処理業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	単価	44,980
産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	H30.4~H33.3	単価	7,011
清掃等業務委託	3病院	3年	H30.10~H33.9	定期	93,600
洗濯等業務委託	3病院	5年	H30.9~H35.8	単価	67,089
医療用梱包資材	心・子	3年	H30.4~H33.3	定期	245
R1施設管理業務委託	3病院	3年	H30.4~H33.3	定期	14,233
医療機器保守点検業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定期	174,042
放射線機器保守点検業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定期	267,840
シーリング工法屋根修繕等業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定期	130,575
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H30.7~H31.3	定期	10,200
合計					817,855

30年度委託モニタリング評価結果(20年9月末時点)

区分	第1期		第2期		第3期		第4期	
	可	不可	可	不可	可	不可	可	不可
給食								
区分	可	可	可	可	可	可	可	可
清掃	可	可	可	可	可	可	可	可
整備(心・子)	可	可	可	可	可	可	可	可
医事(総・心)	可	可	可	可	可	可	可	可

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画		No.	行動計画	業務の実績		30年度9月末実績 自己評価																													
						説明																													
II 3	<p>事務部門の専門性の向上</p> <p>①・階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など</p> <p>②・異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育成・研修の推進</p> <p>③・診療情報管理機能の強化</p>	113	<p>①・階層や職務に応じた各種研修を実施する。</p> <p>・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。</p> <p>②・職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。</p>	<p>・H30.9月末実績</p> <p>事務職員に対する研修状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th>開催状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>5、6月 2日間</td> </tr> <tr> <td>係長級昇任時</td> <td>新任監督者研修</td> <td>5月 1日間</td> </tr> <tr> <td>セクシオ長昇任時</td> <td>新任監督者研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td>管理者（毎年度）</td> <td>コミュニケーション研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>フアンリナーション研修</td> <td>11月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>インクルーシブ研修</td> <td>12月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>会計基礎研修</td> <td>4月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>会計中級研修</td> <td>10月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>未収金回収研修</td> <td>11月 半日</td> </tr> </tbody> </table> <p>希望により任意参加</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30）</p> <p>28年度、29年度は事務職員が学会に発表者として参加し、事務職員の能力向上を図った。</p> <p>また、病院職員としての自覚を促し、病院経営を学ぶため、県派遣職員及び管理・監督職員に、理事長・副理事長から直接講義をする機会を設けた。</p> <p>人事異動については、職員の人材育成に主眼を置いた人事異動等を実施した。</p> <p>30年度は、採用内定者研修、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めた。職員の適正等を考慮し、適宜人事異動を行った。</p>	受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間	係長級昇任時	新任監督者研修	5月 1日間	セクシオ長昇任時	新任監督者研修	7月 1日間	管理者（毎年度）	コミュニケーション研修	7月 1日間		フアンリナーション研修	11月 1日間		インクルーシブ研修	12月 半日		会計基礎研修	4月 半日		会計中級研修	10月 半日		未収金回収研修	11月 半日	<p>A</p> <p>業務の基礎部分に対する研修体系は出来た。事務職員の更なるレベルアップが必要である。</p>
	受講時期		研修名	開催状況																															
新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間																																	
係長級昇任時	新任監督者研修	5月 1日間																																	
セクシオ長昇任時	新任監督者研修	7月 1日間																																	
管理者（毎年度）	コミュニケーション研修	7月 1日間																																	
	フアンリナーション研修	11月 1日間																																	
	インクルーシブ研修	12月 半日																																	
	会計基礎研修	4月 半日																																	
	会計中級研修	10月 半日																																	
	未収金回収研修	11月 半日																																	
114	<p>③・診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。</p>	<p>・H30.9月末実績</p> <p>・第2期中期期間（H26～30）</p> <p>診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の確保を図っている。</p> <p>がん登録業務を担当する職員に国立がん研究センター主催院内がん登録実務研修を受講させるなど、専門性の向上を図っている。</p>	<p>A</p> <p>診療情報管理機能の強化をするため、診療情報管理士資格の取得支援制度を活用し、必要な資格者を確保している。</p>																																

診療情報管理士業務研修状況表 (単位:人)

区分	28年度		29年度		30年度		30年度9月末	
	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修
総合	3	11	6	13	5	11	6	10
がん登録	1	1	1	1	1	1	2	1
その他	5	2	4	2	3	4	3	4
本数	2	1	1	1	2	1	2	1
計	11	15	10	18	11	17	11	15

※ 専門研修7名、研修後資格取得者5名

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																					
	115	<p>・事務部門の業務マニュアルの作成等、業務の平準化や効率化のための取組を継続する。</p>	<p>・H30.9月末実績                      ・業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施している。                      ・院内コミュニケーションシステム上に整備したマニュアルを公開し、共有化している。                      ・第2期中期目標期間（H26～30）                      ・事務部門における業務項目数に対して、マニュアル整備率を上げている。</p> <p style="text-align: center;">（単位：件）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="3">25年度</th> <th colspan="3">26年度</th> <th colspan="3">27年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>259</td> <td>97%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>163</td> <td>151</td> <td>93%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>252</td> <td>221</td> <td>88%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>94%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="3">29年度</th> <th colspan="3">30年9月末</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	所属別	25年度			26年度			27年度			業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%	こころ	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%	こども	252	221	88%	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	879	94%	879	879	100%	879	879	100%	所属別	29年度			30年9月末			業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	総合	268	268	100%	268	268	100%	こころ	163	163	100%	163	163	100%	こども	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	879	100%	879	879	100%	<p>作成されたマニュアルを公開していること、マニュアルの共有化が図られている。</p> <p style="text-align: center;">A</p>
所属別	25年度				26年度			27年度																																																																																																																	
	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率																																																																																																																
総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																																
こころ	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																																
こども	252	221	88%	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																																
本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																																
合計	879	879	94%	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																																
所属別	29年度			30年9月末																																																																																																																					
	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率																																																																																																																			
総合	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																																			
こころ	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																																			
こども	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																																			
本部	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																																			
合計	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																																			
<p>II 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成</p> <p>4 業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化</p>	116	<p>・院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。</p>	<p>・H30.9月末実績                      業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。                      ・第2期中期目標期間（H26～30）                      法人化後構築した「改革・改善推進制度」を、26年度から「改善運動推進制度」と名称を改め、引き続き職員が改善運動に進んで取り組めるよう促した。</p> <p style="text-align: center;">（単位：件）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">業務改善運動推進制度実績件数</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>39</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>80</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>30</td> <td>12</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>29</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>71</td> <td>50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>19</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>127</td> <td>144</td> <td>166</td> <td>178</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">実績集計中</p>	区分	業務改善運動推進制度実績件数						25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	39	49	46	43	80		こころ	30	12	34	36	29		こども	46	54	53	71	50		本部	15	12	11	16	19		計	130	127	144	166	178		<p>業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備を図った。                      H30年度は現在、実施・集計中である。</p> <p style="text-align: center;">A</p>																																																																					
区分	業務改善運動推進制度実績件数																																																																																																																								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																			
総合	39	49	46	43	80																																																																																																																				
こころ	30	12	34	36	29																																																																																																																				
こども	46	54	53	71	50																																																																																																																				
本部	15	12	11	16	19																																																																																																																				
計	130	127	144	166	178																																																																																																																				

(参考) 用語解説

用語 (50音順)	解 説
ACT	ACTとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
CCU	CCUとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、CCUをCardiac(心臓病の)ICUと位置付けている。
DMAT	DMATとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた医療チーム(DMAT:ディーマット)
DPAT	DPATとは、disaster psychiatric assistance teamの略で、大規模災害発生後、被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム(DPAT:ディーパット)
DPC	DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
ESCO	ESCOとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
HCU	HCUとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
ICU	ICUとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m-ECT	m-ECTとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
MFIUCU	MFIUCUとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
MSW	MSWとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
NICU	NICUとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
PCI	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡げる)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やDCA(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法)やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。

用語（50音順）	解 説
P E T	P E Tとは、Positron Emission Tomography（ポジトロン・エミッション・トモグラフィ）の略で、PET検査とは、陽電子（ポジトロン）を放出する放射性核種（ポジトロン核種）で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V Iとは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁留置術」と訳されます。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
葵カード	連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書（医師事務作業補助者）	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の文章作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）並びに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）への対応を行う。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんセンターボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。

用語（50音順）	解 説
クリニカルパス	<p>クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。</p> <p>クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。</p>
クロザピン	<p>クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。</p>
固定チームナーシング	<p>入院患者への看護は、24時間体制で求められている。しかし、看護師ひとりでは、対応しきれないため、「看護提供方式」を活用して24時間の看護を提供している。</p> <p>「固定チームナーシング」は、いくつかある看護提供方式の内のひとつの方式のこと。</p> <p>1年間固定したチームメンバーで活動することを原則に、チームで患者の看護を行う方式である。固定チームの受け持ち患者を分担して受け持ち、入院から退院まで24時間チームメンバーにより看護が展開される。看護師メンバーが固定されることで、継続的な看護が提供される。</p>
コーディング	<p>疾病や手術、検査などをコード化する仕事。</p> <p>最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。</p> <p>疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）</p>
コメディカル	<p>薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。</p>
ジェネリック医薬品（後発医薬品）	<p>特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。</p>
紹介率・逆紹介率	<p>・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。</p> $\text{紹介率} = (\text{初診患者のうち紹介患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ <p>・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。</p> $\text{逆紹介率} = \text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数} \times 100$
初期臨床研修医 後期臨床研修医	<p>免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）= 研修医（狭義、=前期研修医、1-2年目）+ 後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。</p> <p>一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。</p>
新専門医制度	<p>新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。</p> <p>ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。（小児科学会（小児科専門医）はH29より先行実施）</p>



用語（50音順）	解 説
心理教育・家族教室	<p>心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。</p> <p>患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。</p>
心理・社会的治療	<p>精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。</p> <p>デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。</p>
診療情報管理士	<p>診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。</p> <p>主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。</p>
ダ・ヴィンチ	<p>3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。</p>
地域医療支援病院	<p>1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。</p> <p>目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。</p> <p>（承認要件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。</li> <li>・紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。</li> <li>・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。</li> <li>・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。</li> <li>・救急医療を提供する能力を有すること。</li> </ul>
地域連携クリニカルパス	<p>病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。</p>
ドクターカー	<p>平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。</p>
認知行動療法	<p>認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。</p>
認定看護師	<p>認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。</p>

用語（50音順）	解 説
ハイブリッド手術室	<p>据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行）</li> <li>・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。</li> <li>・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。</li> <li>・鮮明な透視画像により治療精度が向上</li> </ul>
リニアック	<p>リニアックとは、日本語では「直線加速器」といわれるもので、荷電粒子を一直線上で加速させて発生した放射線を当てることで、がんなどの治療をする機器です。</p> <p>多方向からピンポイントで放射線を当てることにより、正常組織への放射線の照射量を低減し、腫瘍部分の放射線量が高くなり細胞を死滅させる治療方法。</p>
レジデント	<p>初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。</p>